さとみせ、瀬左衛門遺徳

きもの[illegible]

瀬戸内寂聴

瀬戸市全景

馬ヶ城堰堤
市長 小出釟三
顧問 北澤忠男
部長 池田顯三郎
主任 天野武一
設計 新原芳夫
監督 渡邊忠吾

瀬戸市
上水道通水式
記念
11. 6. 16
瀬戸
大日本帝國郵便
昭和十一年
壹錢五厘

元市長
小田釧三

前市長
稻葉俊太郎

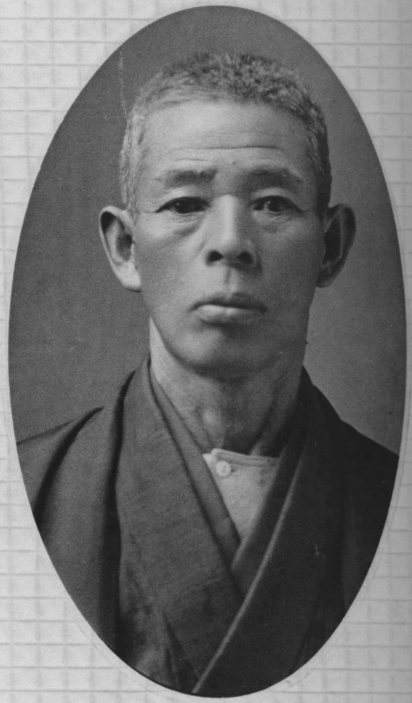
市長
泉崎三郎

部長技師
池田顯三郎

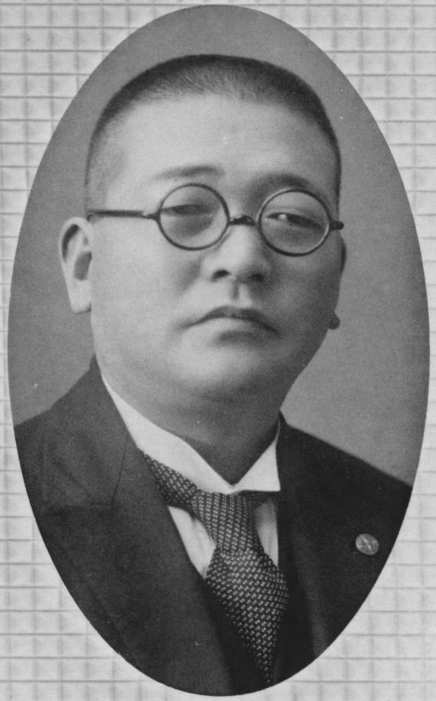
顧問
北澤忠男

加藤恭平

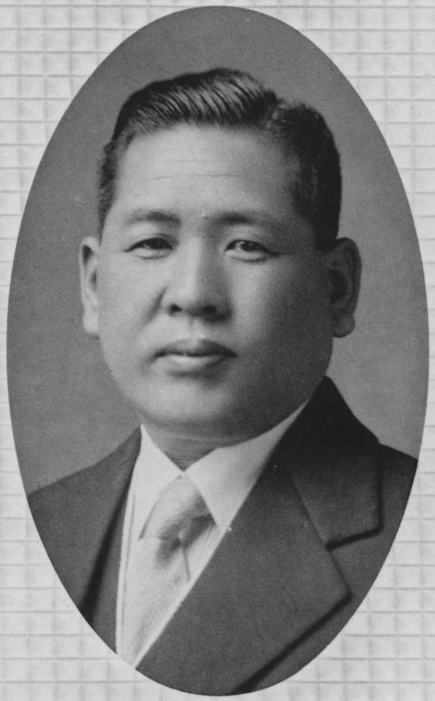
藤井喜三



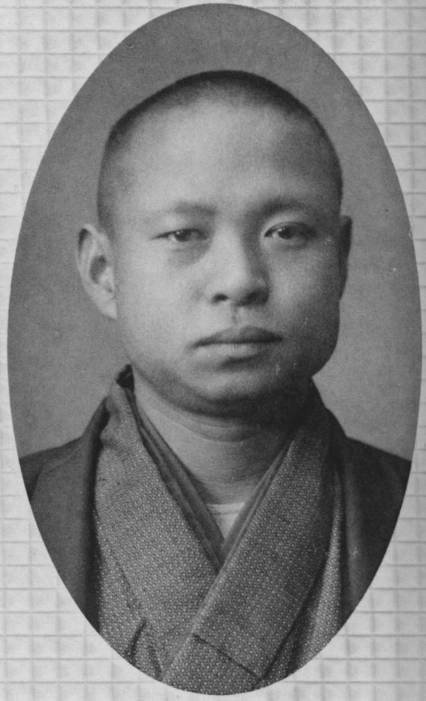
加藤林之助



鈴木舜二（再）



加藤章



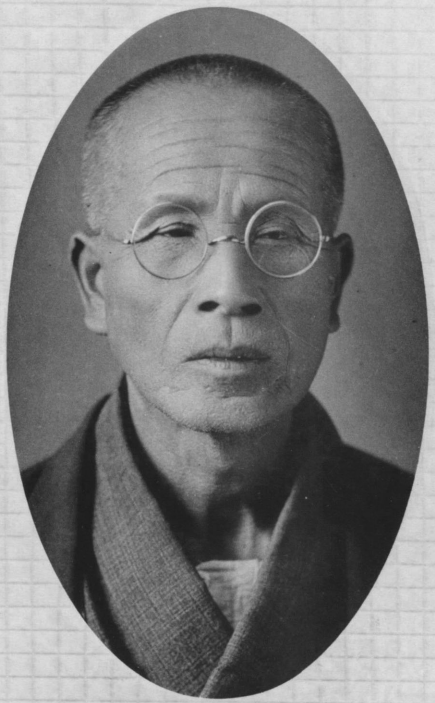
吉田九藏（再）

井上春

加藤萬吉

中島源作

（前）三郎　芳本川



（故）松久　藤加

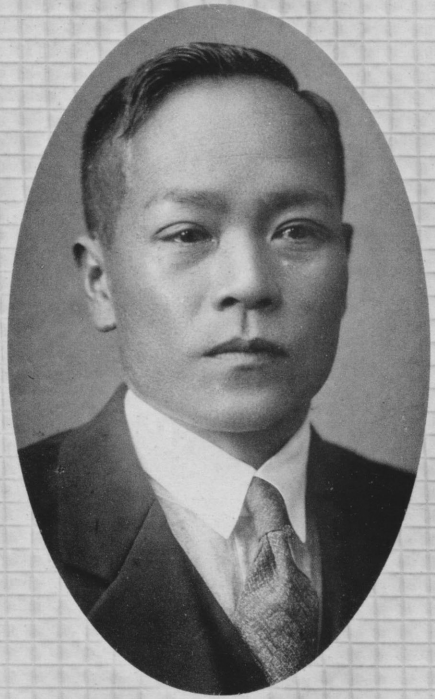
（再）道明　原松

櫻井源之助（前）

水野憲吾（前）

川本實次郎（前）

（前）彦　武　上　村



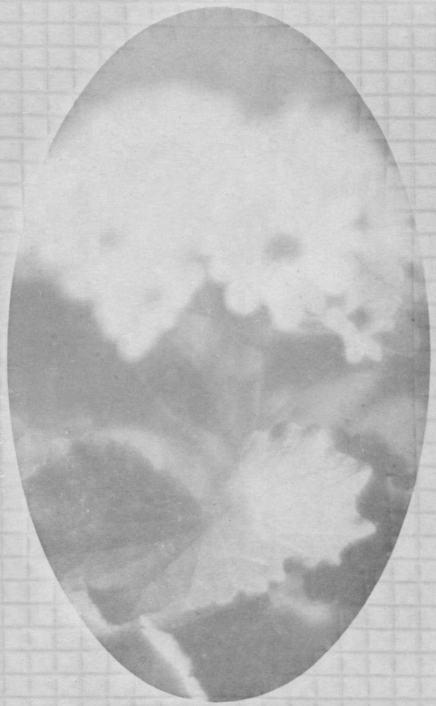
（前）吾　周　藤　加

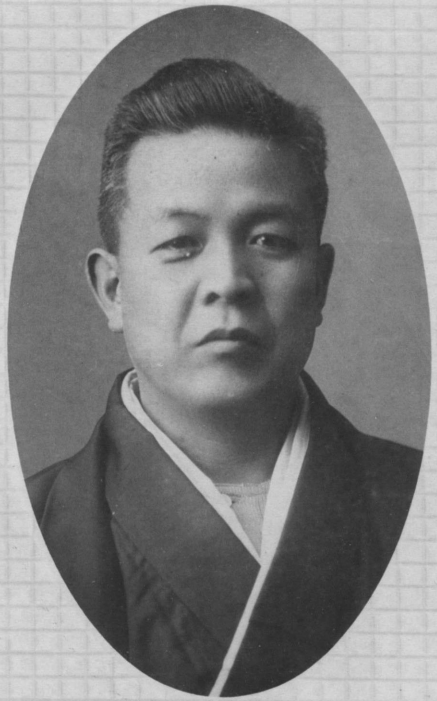
（前）吉　久　藤　加

（前）平　庄　藤　加

（前）助之鉄藤加

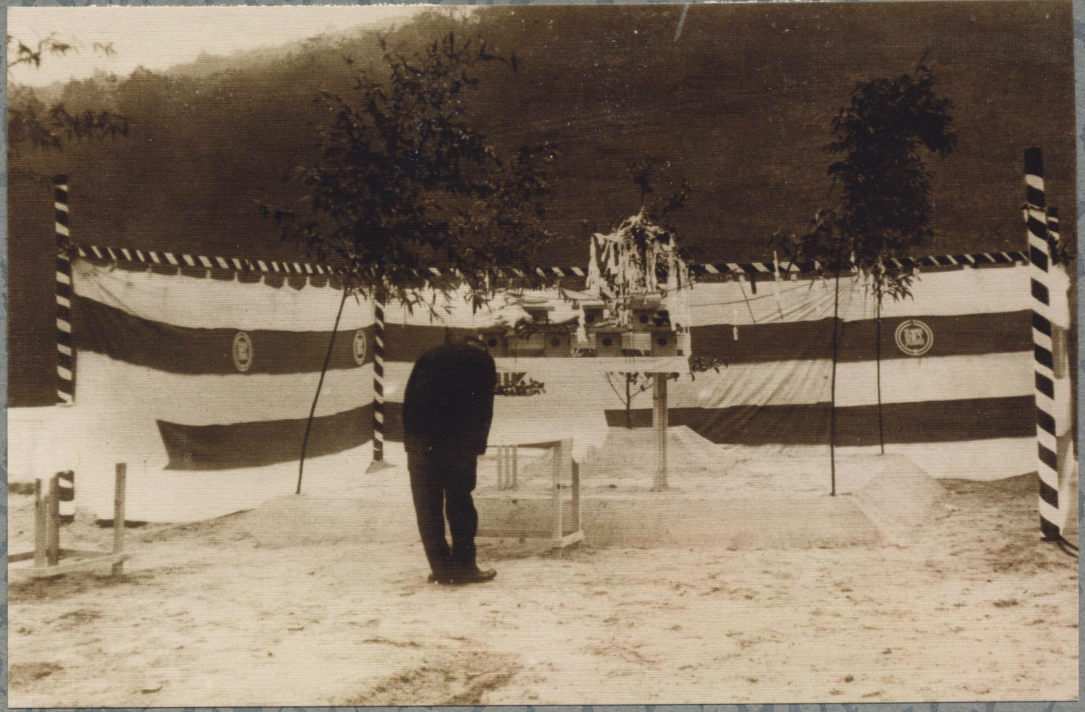
（前）作順下木





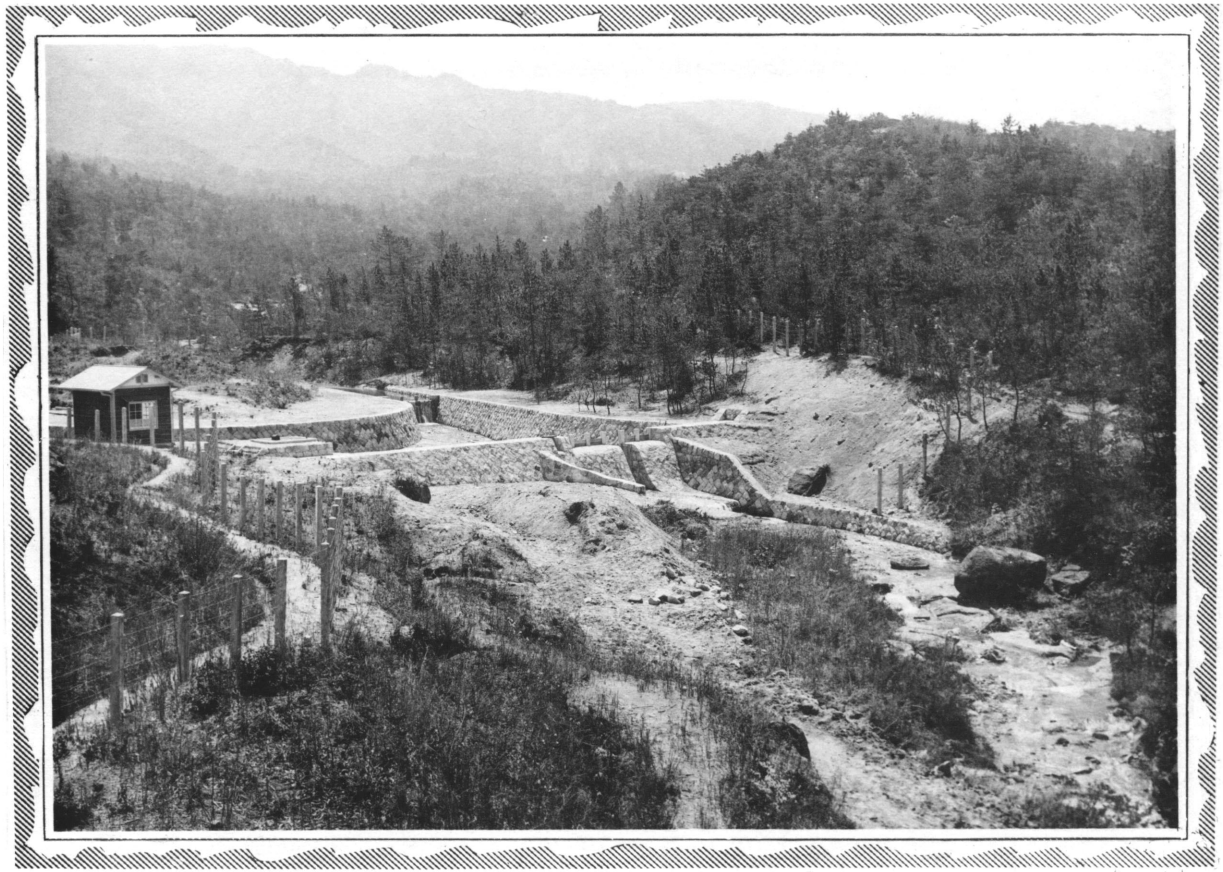
中村銛一（前）

加藤丈一郎（前）

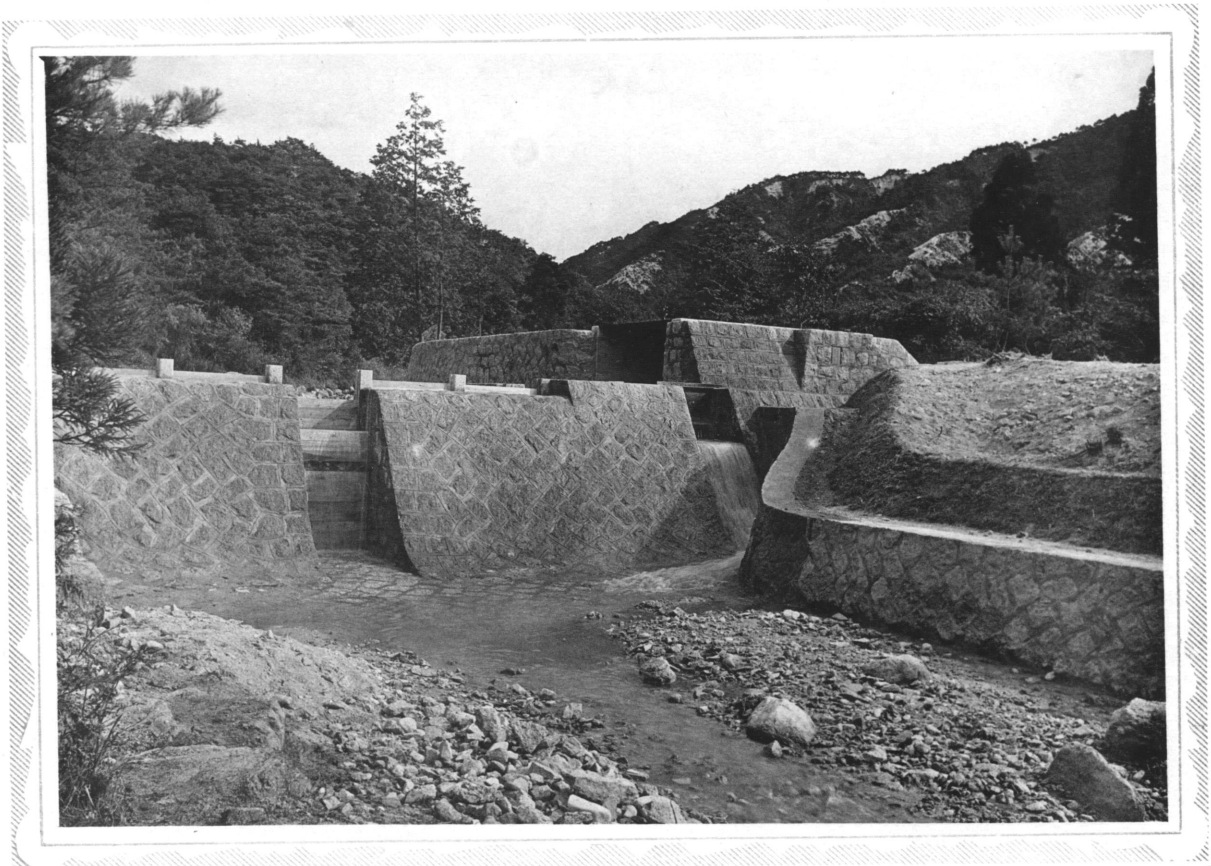


水道起工式　祭場（馬ケ城貯水池）　小出市長玉串奉献

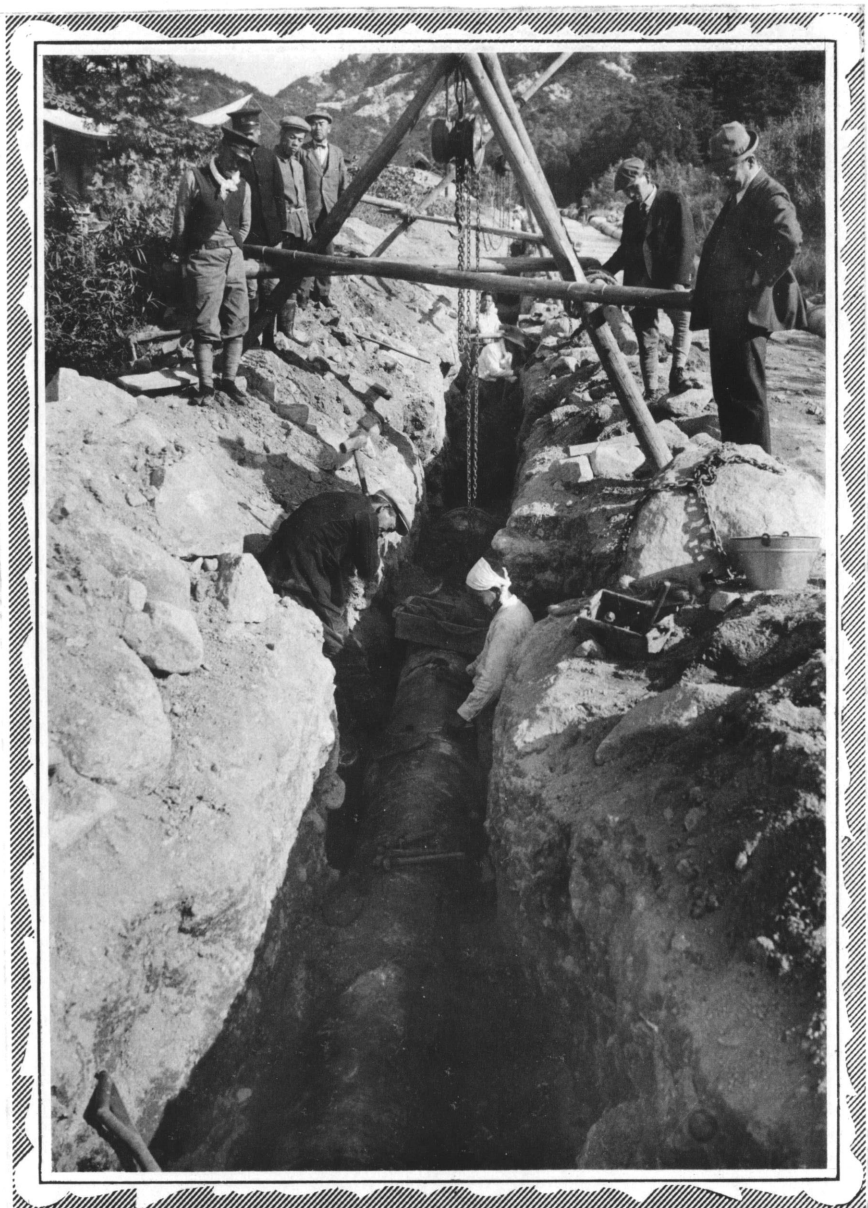
馬ヶ城水源地　貯水池、溢流水路濾過池配水池



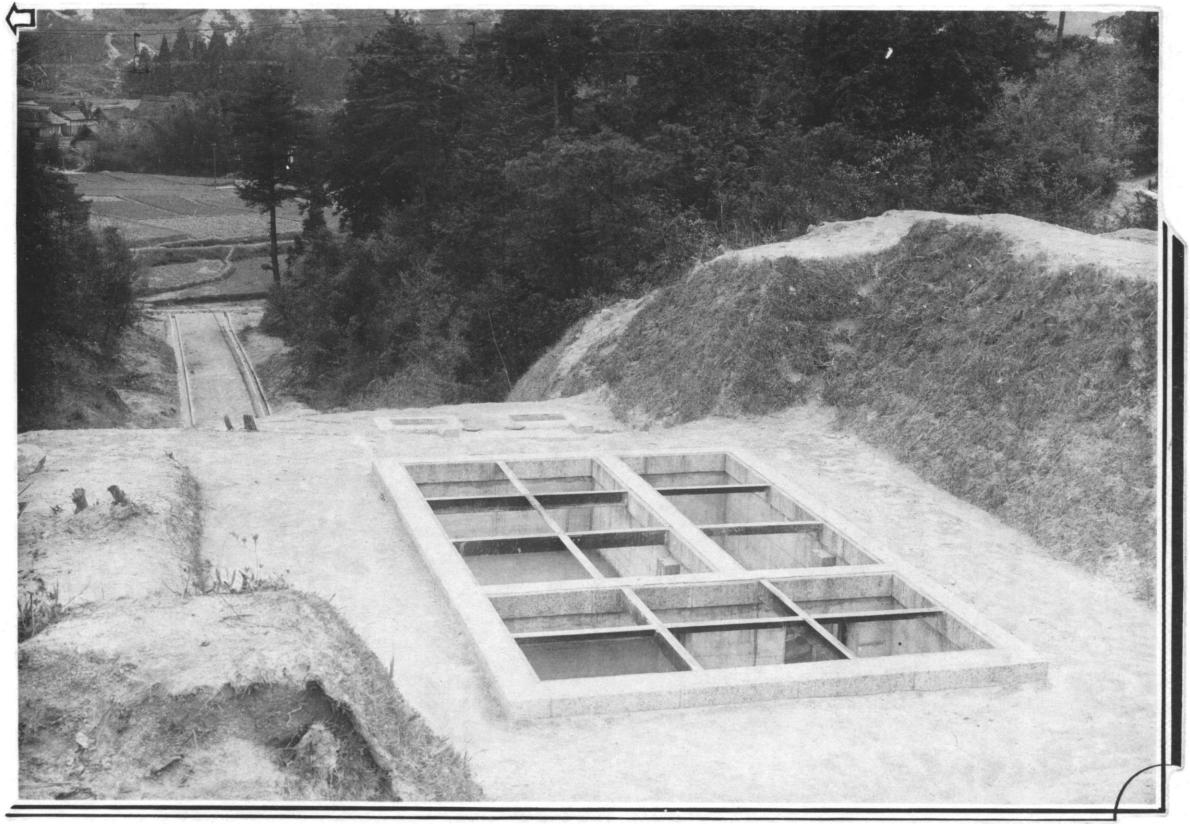
猿投西谷山路取水堰



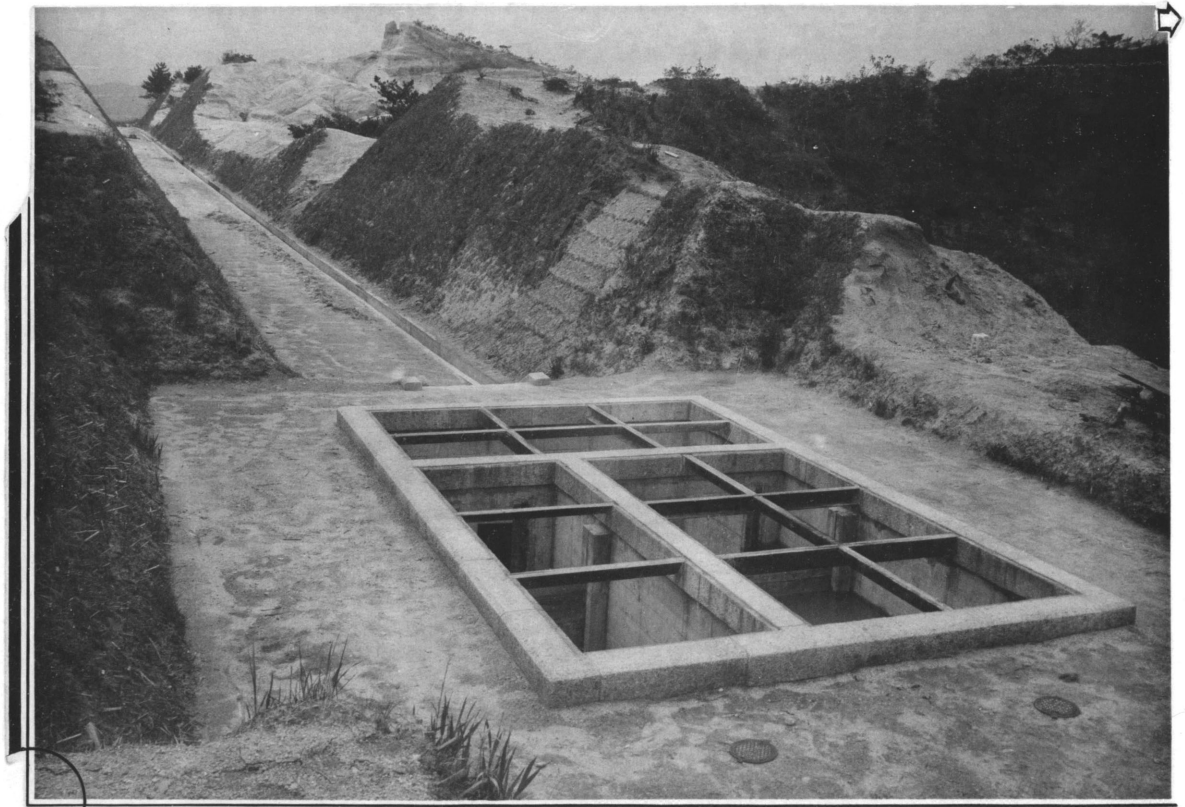
猿投本谷白坂取水場



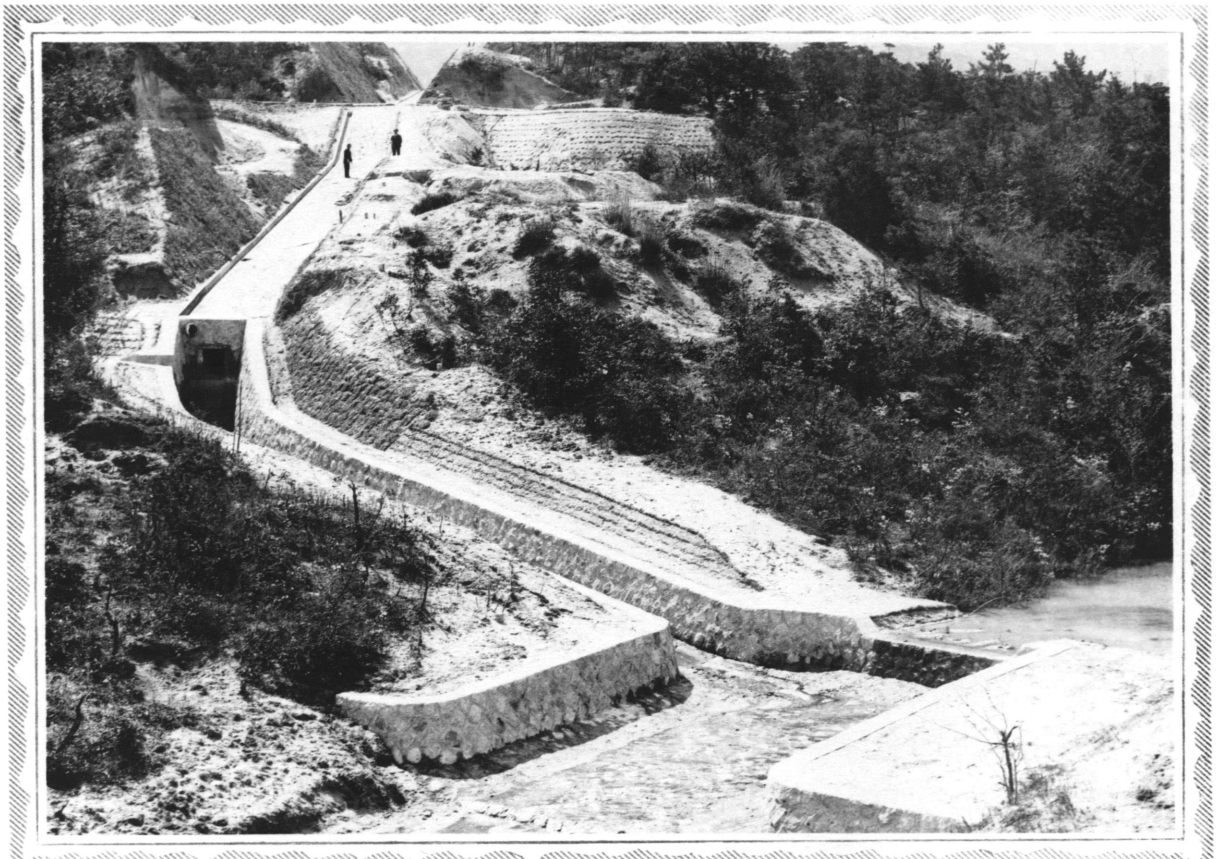
赤津字白坂ヨリ着水井間導水鐵管布設内徑四五〇ミリ



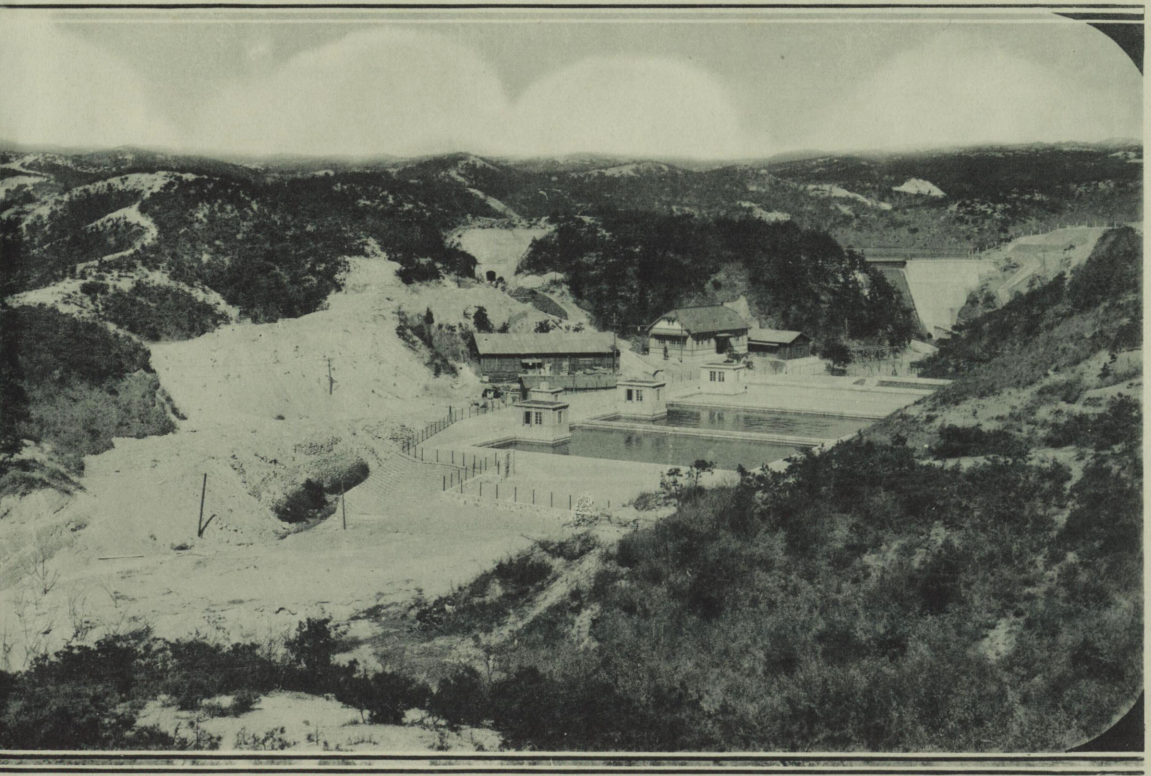
東女郎前着水井ヨリ導水鐵管（左白坂四五〇ミリ／右山路三五〇ミリ）線路（白坂）ヲ望ム

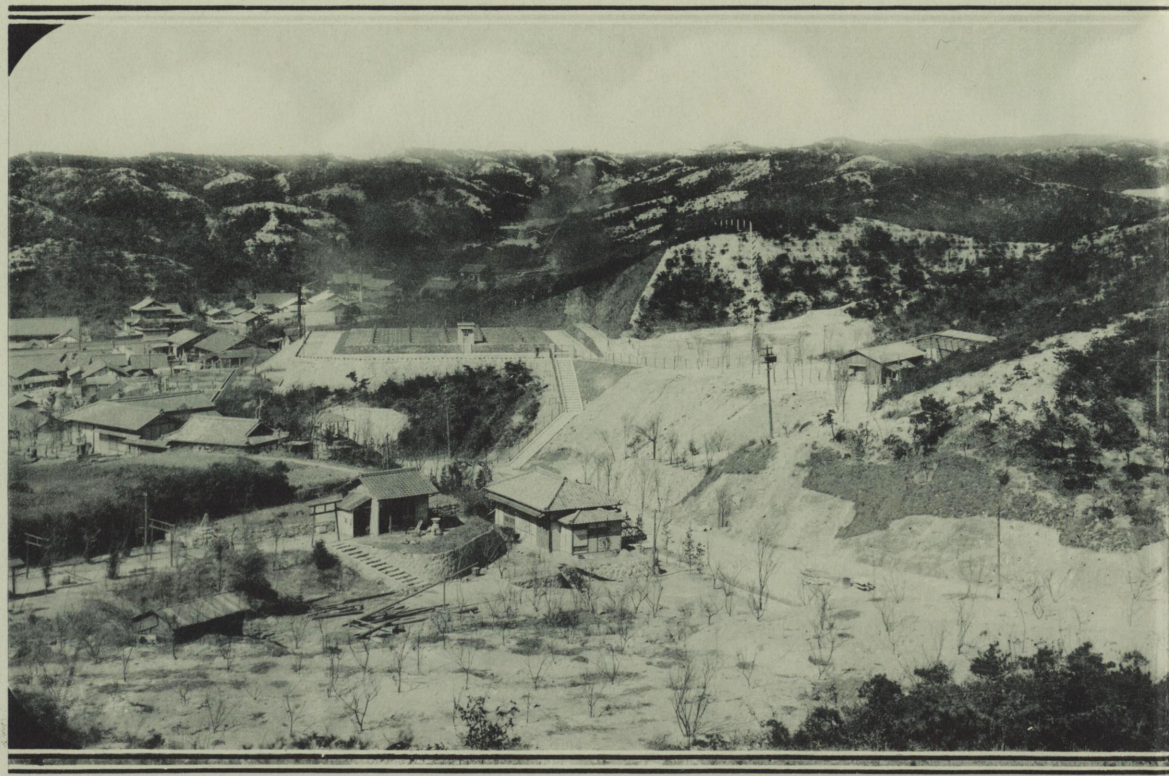


字東女郎前着水井ヨリ貯水池方ヲ望ム線路下ニ導水樋アリ

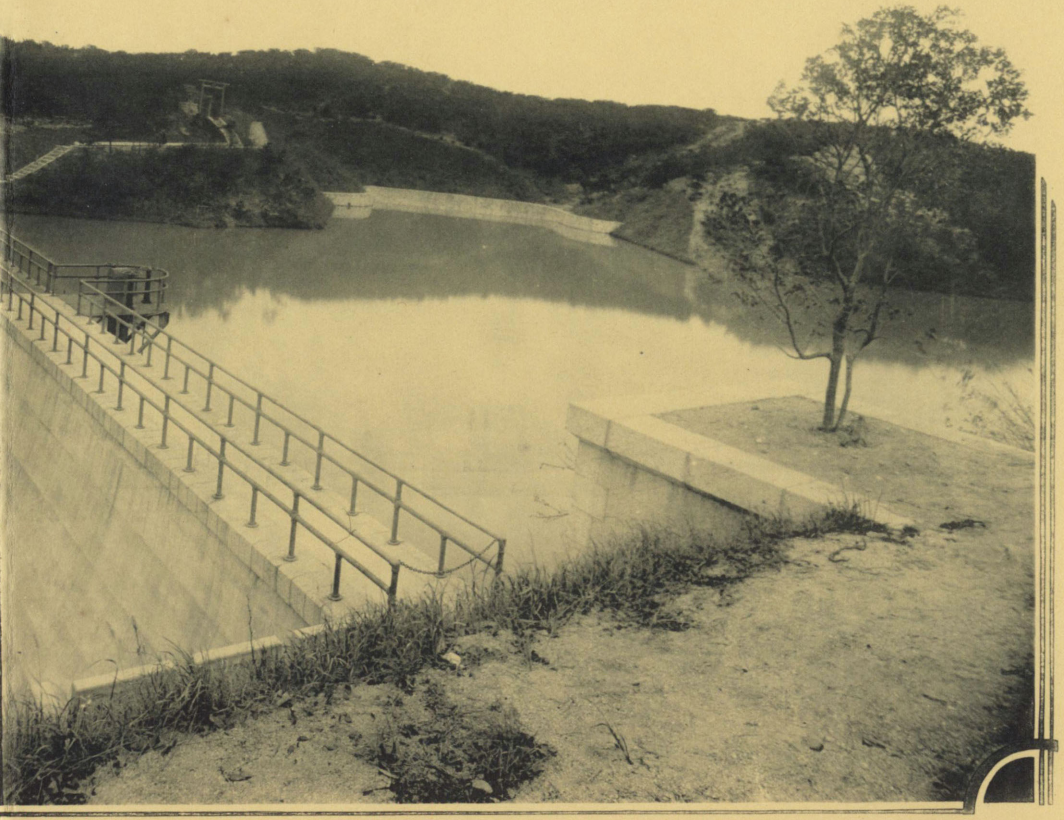


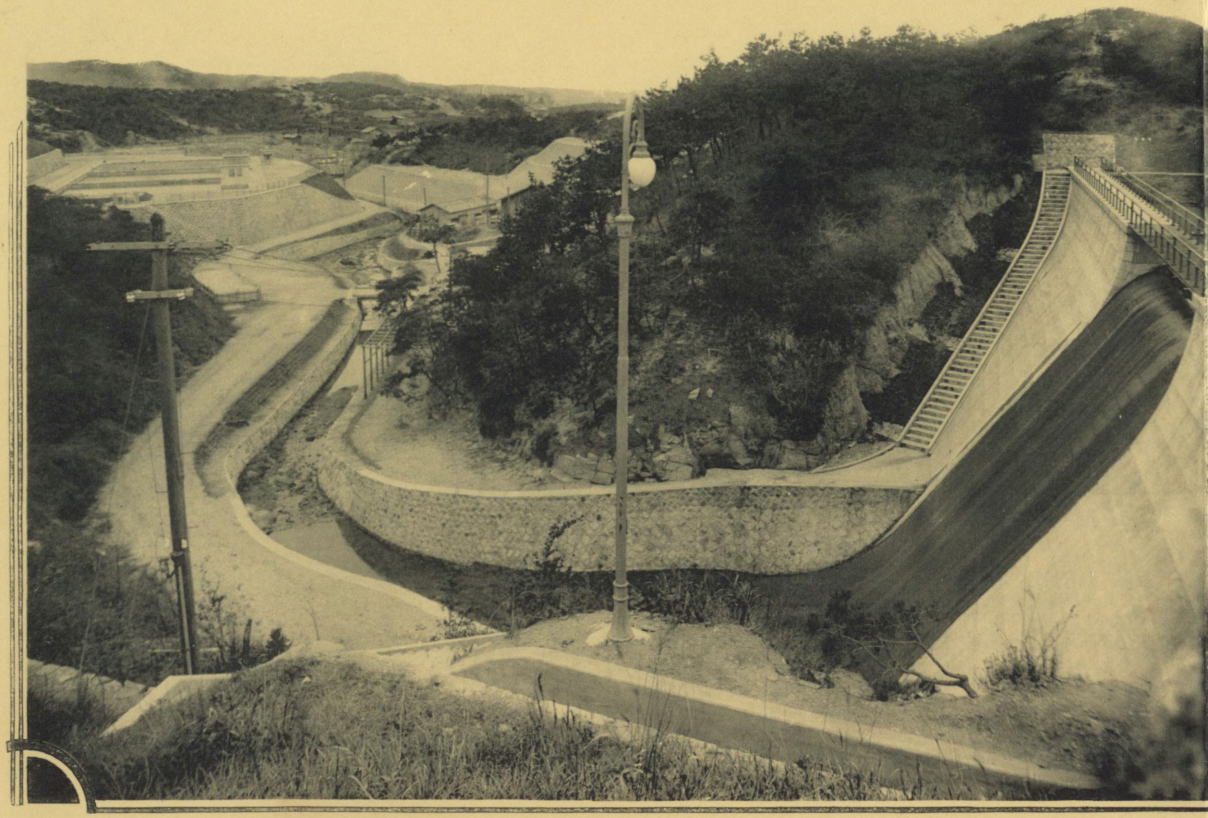
嶺水分池水貯城ヶ馬テシニ道街津赤、野品ハ路道　路水及樋水導





馬ケ城水道全景　（濾過池、南山上ヨリ）

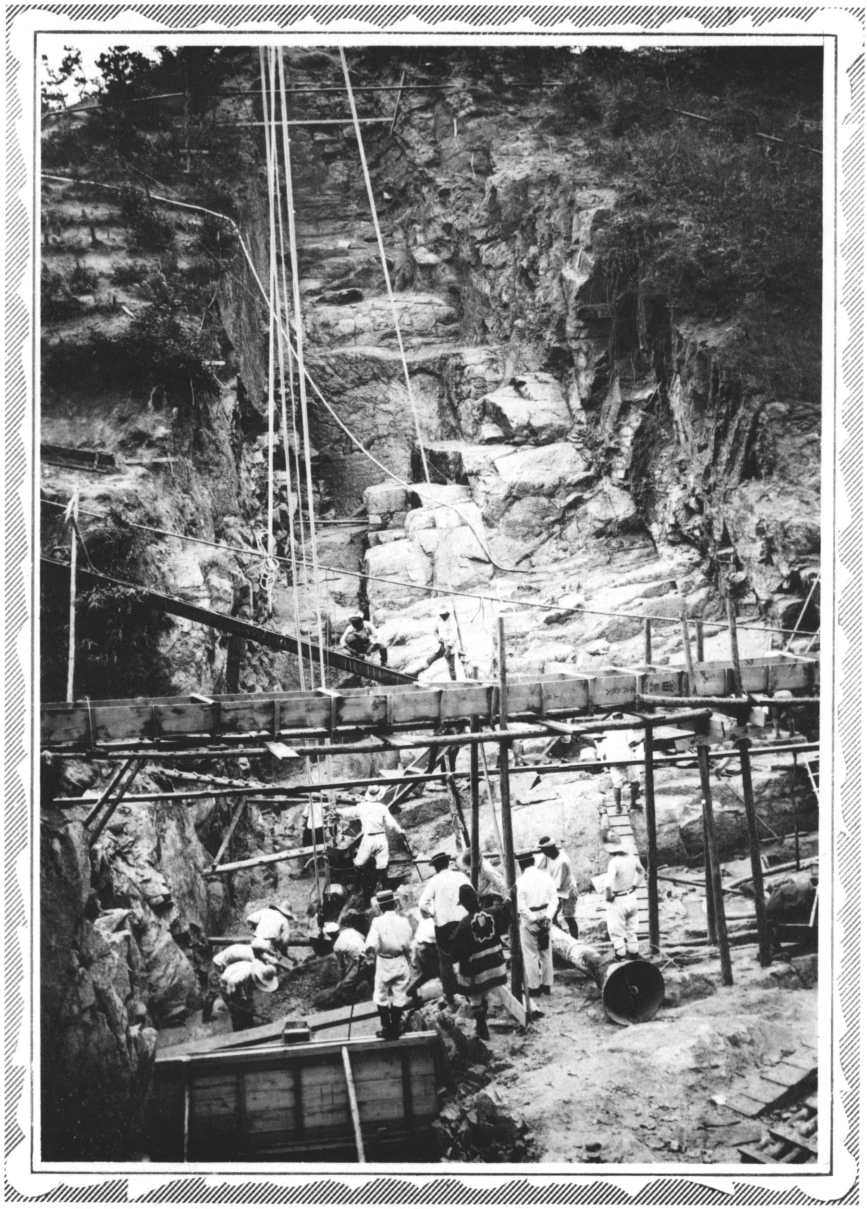




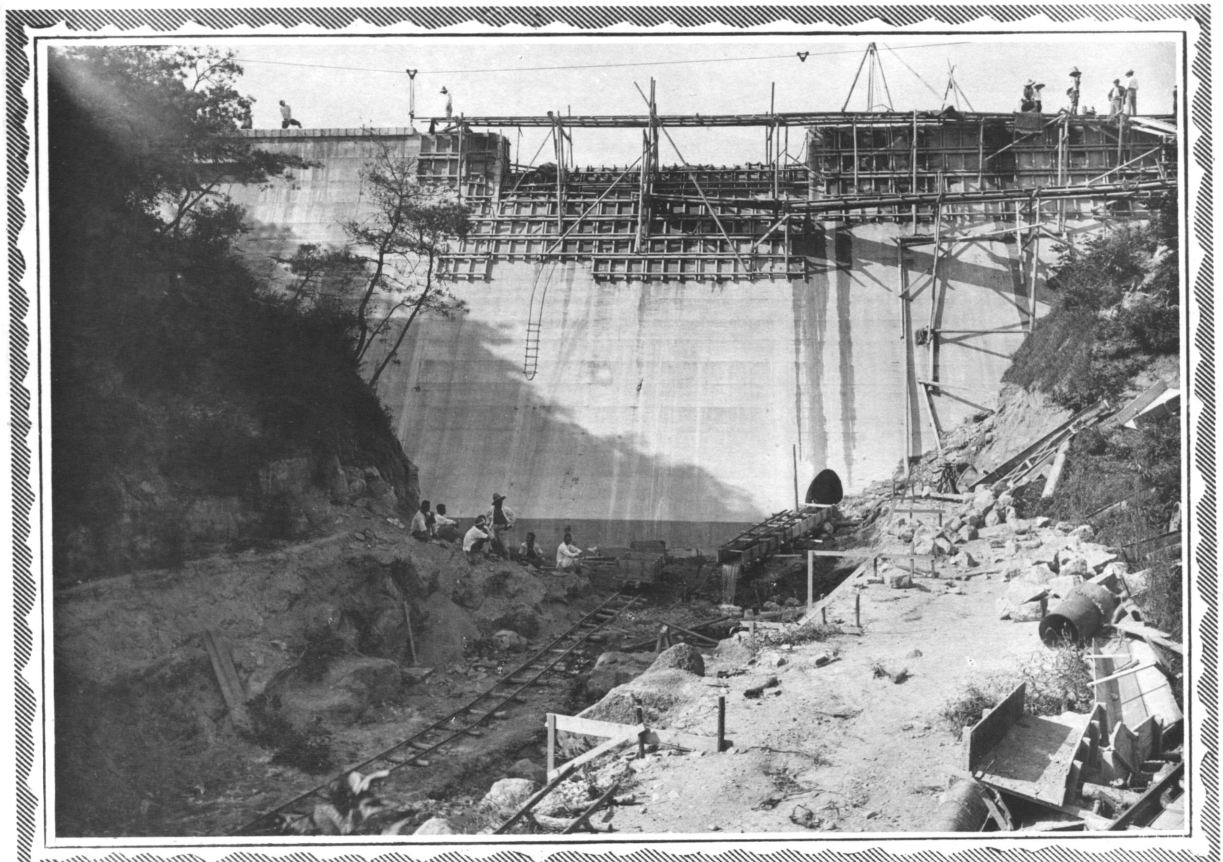
堰堤東山ヨリ濾過池ヲ望ム

馬ヶ城流域内第一砂防堰堤

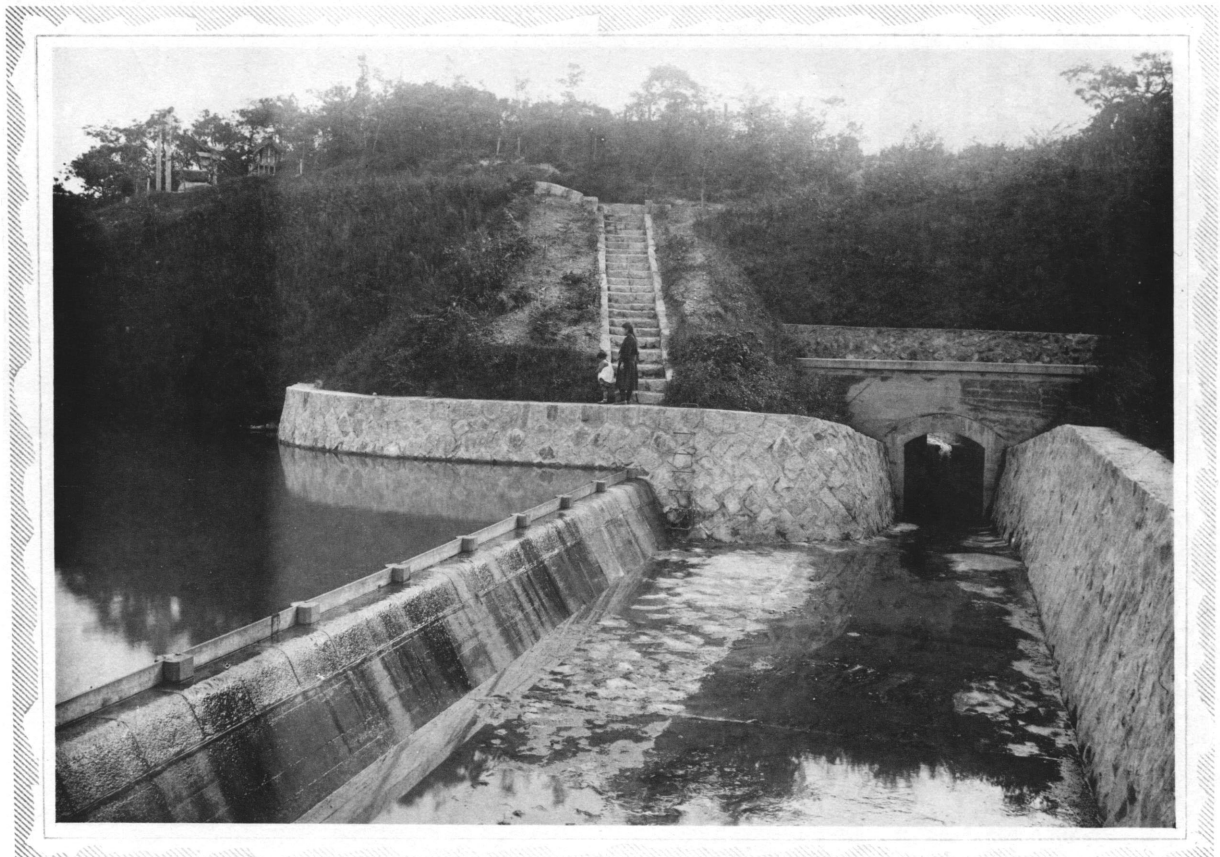
馬ヶ城流域内第二砂防堰堤



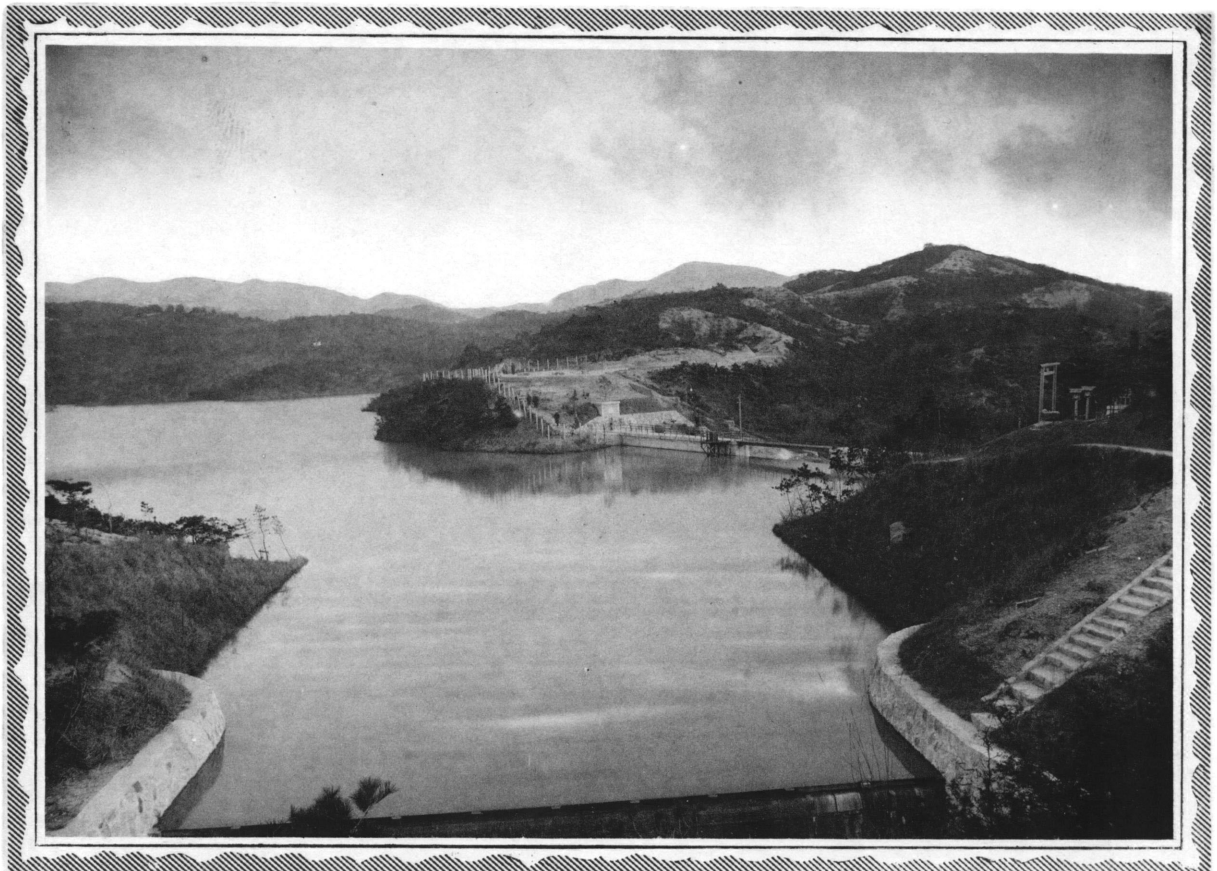
馬ケ城堰堤（東方）混凝土打初メ



馬ヶ城堰堤混凝土及水路掘鑿

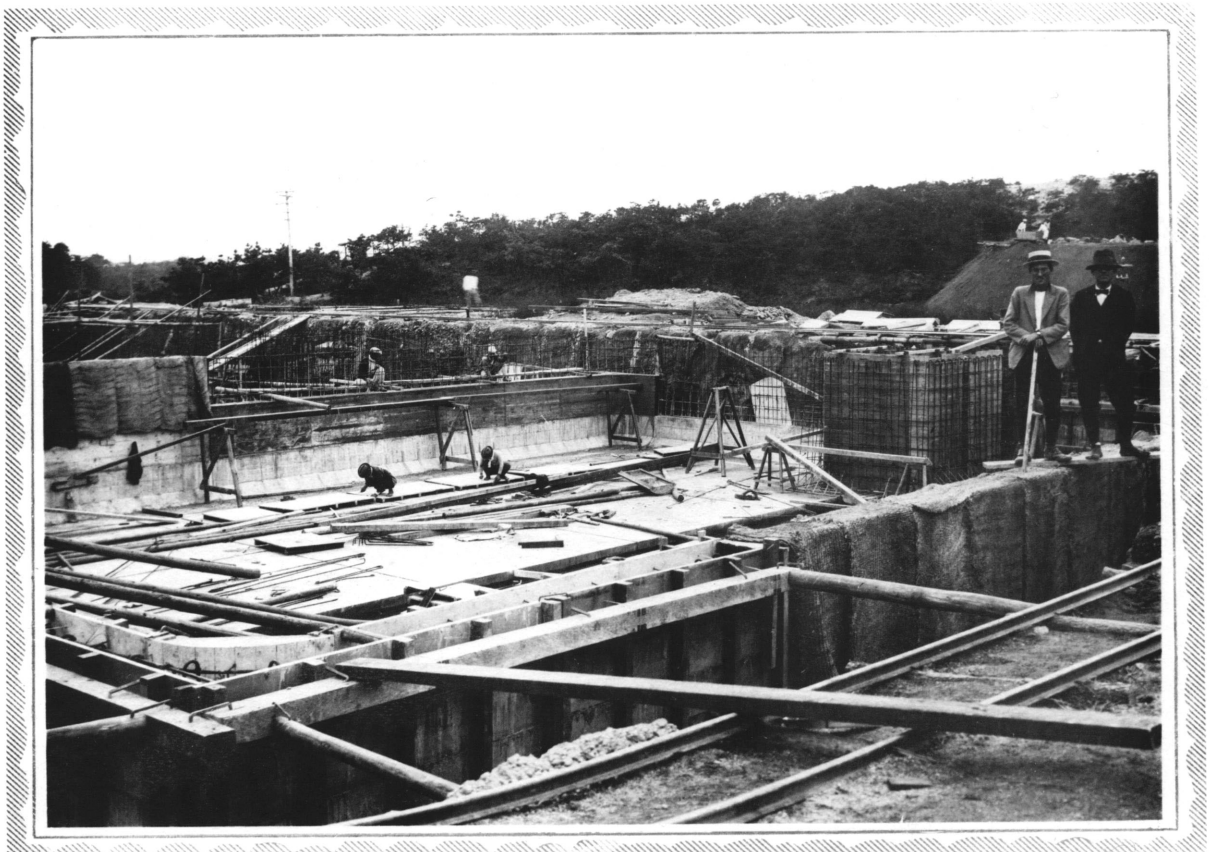


馬ヶ城溢流堰隧道北口及法石堰

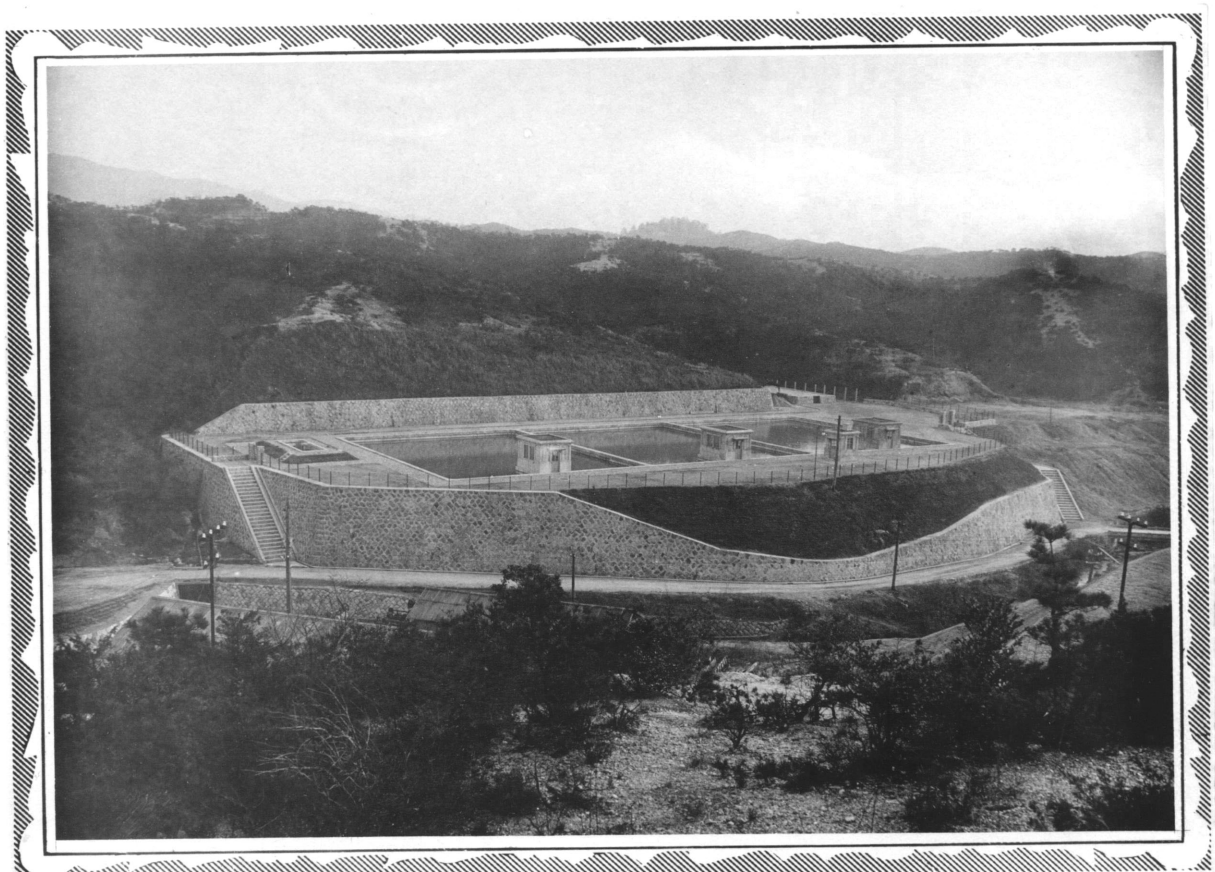


馬ケ城貯水池滿水　（溢流堰山上ヨリ）

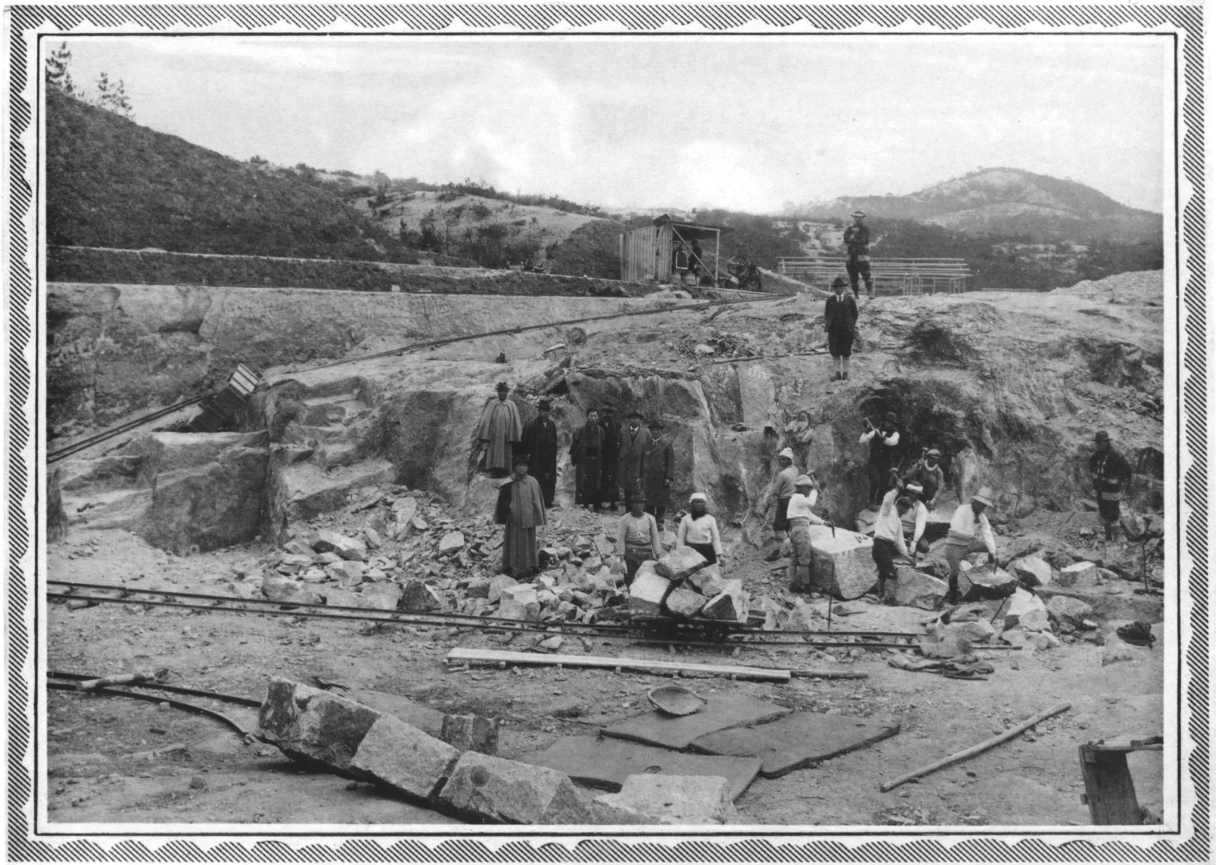
馬ヶ城貯水神社



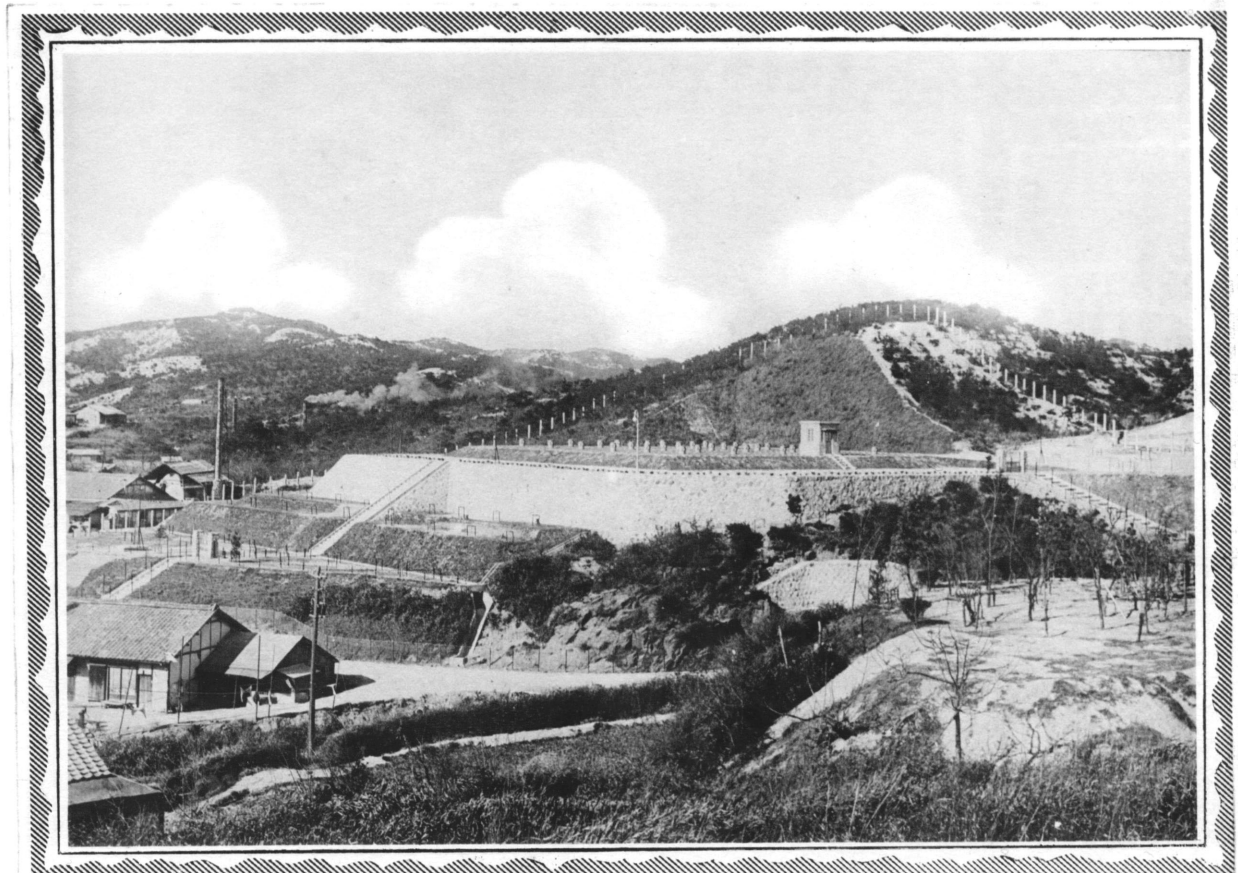
濾過池壁混凝土



濾過池全景　（水源事務所山上ヨリ）

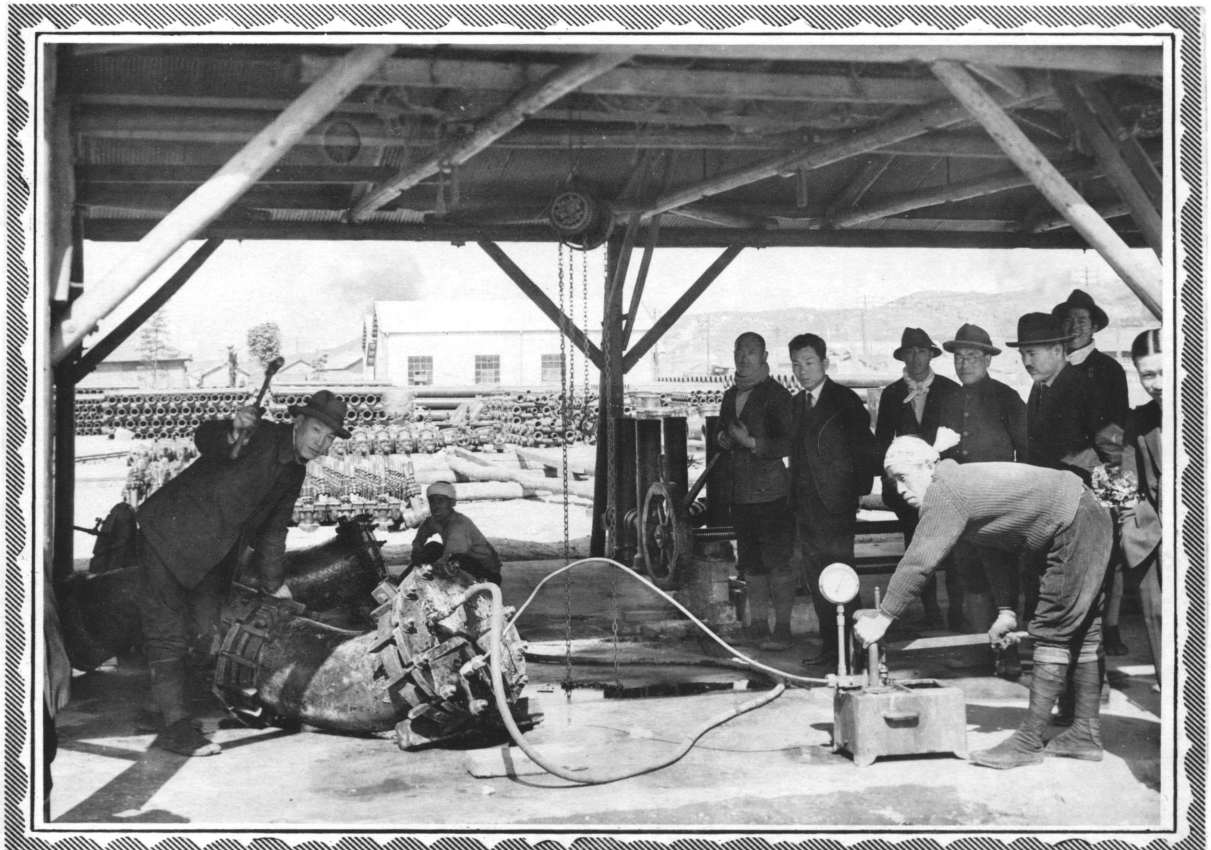


配水池掘鑿（花崗岩）



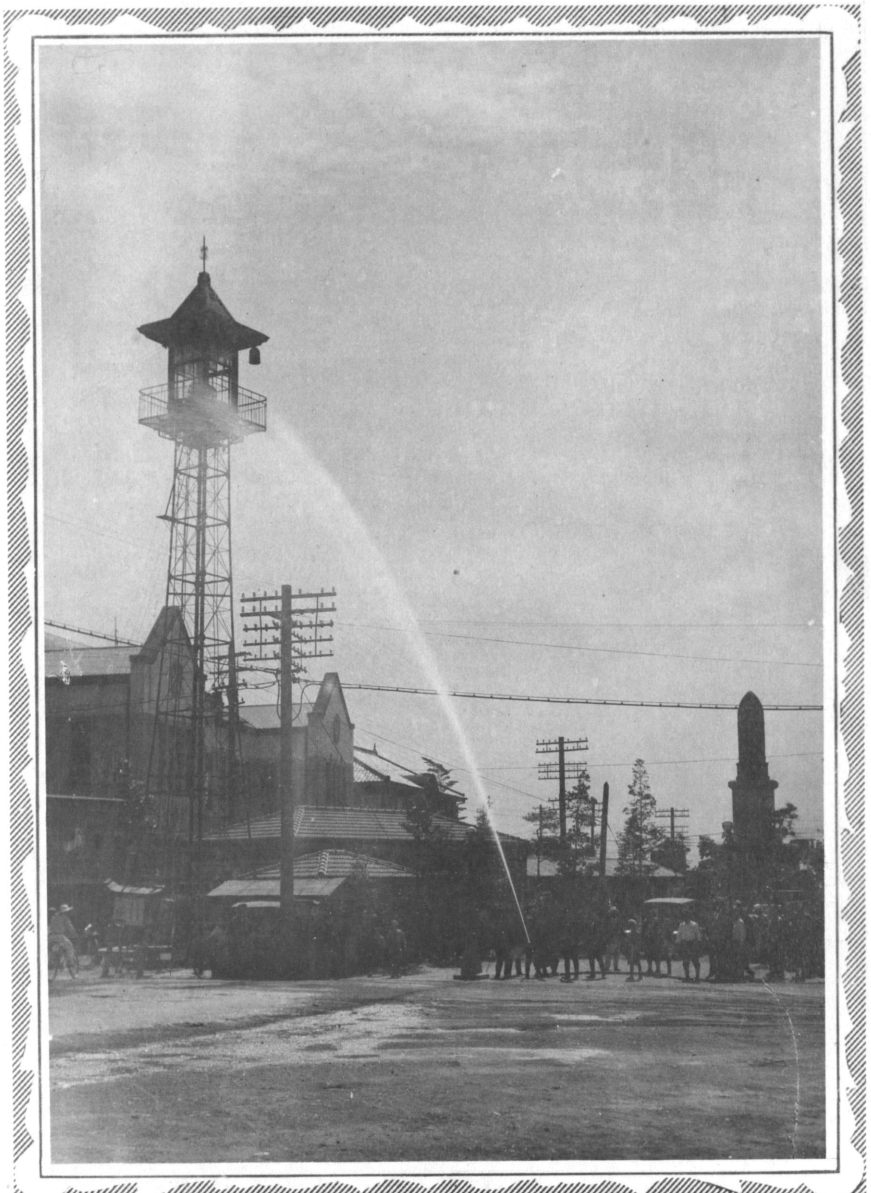
配水池全景

尾張瀬戸電鐵驛へ鐵管搬入



鐵管曲管水壓試驗

鐵管布設　（南本町十二叶）



消火栓放水（記念碑市役所前四叶）

瀬戸市水道小誌

目次

一、窯業の沿革と行政……一
一、沿革と水道形式……四
一、簡易水道……五
一、水道の經過……六
一、總說……八
一、水源に於ける水量と水質並に必要水量及月雨量……九
月雨量(自大正四年至昭和五年十六ヶ年)……九
各水源水質檢査と井戸水檢査……九
給水區域と戸口調査……一〇
水源水量調査、集水區域及算定と必要水量……一〇
一、導水設備、貯水池、濾過池、配水池連絡……一一
導水設備(猿投西谷、猿投本谷、着水井、導水樋)……一一
貯水池(貯水池、溢流堰堤)……一三
濾過池……一三
配水池……一三
市街配水、配水量、消火水量……一三
動水壓……一三
一、工事方法書……一四
導水線路(猿投西谷、猿投本谷、着水井、導水樋並ニ水路)……一四
貯水池(堰堤、溢流堰堤、土堰堤、砂防堰堤、砂止堰)……一五
濾過池(濾過池、量水池、塩素滅菌室、砂洗槽及砂置場、鐵管布設其他)……一七
配水池(配水池、上家、ヴェンチュリーメーター、鐵管布設其他)……一九

市街配水（送水線路、南北幹線及連絡制水辨、消火栓、電車横斷、內徑別延長、粘土硝子業者へ給水）……二〇
工事豫算書（昭和十一年ニ於ケル）……二三
一、實施設計目論見豫算書……二三
上水道布設目論見書（自昭和五年度至仝七年度布設費收支方法
仝繼續費收支計算表）……二四
上水道布設費繼續年期及支出方法（布設費豫算書、仝繼續費收
支計算表）……二六
昭和五年度瀨戸市特別會計上水道布設費歲入出豫算……三一
昭和六年度瀨戸市特別會計上水道布設費歲入出豫算……三四
一、自昭和五年度瀨戸市上水道布設費繼續年期及支出方法
至仝十一年度瀨戸市上水道布設費繼續年期及支出方法……三七
一、昭和十年度瀨戸市上水道布設費歲入出更正豫算……四〇
一、昭和十一年度瀨戸市上水道布設費歲入出豫算……四二
一、資　金　調　達……四四
一、上水道布設費起債方法（借入金償還年次表）……四五
借入金償還集計表……四六
借入金償還財源表……四八
一、灌漑其他補償關係（製土及硝子業者、幡山村外三村、赤津地內等
交涉）……四七
瀨戸製土及硝子業者陳情……四八
愛知郡幡山村村民大會決議書……五〇
東春日井郡旭村及仝守山町意見書……五一
愛知郡幡山村仝猪高村、東春日井郡旭村仝守山町（矢田川及上
流山口川水源擁護期成同盟委員總會宣言書）……五二
仝　上　決議書……五二
仝上關係委員、市關係委員對會見ニ對スル決議書……五三
瀨戸市長對幡山村長契約書（解說書、承認願、承認許可書）……五四
瀨戸市長對幡山村水車業者ニ對スル契約書……五七

市内大字赤津水道委員長ヨリノ決議書……五八
仝上ニ付市水道小委員對二十六區二十七區代表覺書……五九
仝上瀨戸市長對地主代表契約書(經過書)……六〇
仝上鐵管布設要項(證)……六一
瀨戸市長對大字赤津水車業者ニ對スル契約書……六二
一、臨時水道部諸例規……六三
臨時水道部處務規程……六三
上水道經濟特別會計規程……六三
臨時水道委員設置規程……六四
臨時水道吏員定員規程……六五
臨時水道吏員定員規程第二條ニヨル顧問囑託又ハ市吏員ノ手當
支給規程……六五
臨時水道吏員給料條例……六六
臨時水道工事請負物件購入賣却及勞力供給規程……六六
臨時水道布設工事施行ニ關シ一般競爭入札ニ付セザルコトヲ得
ルノ件……八〇
臨時水道吏員手當規程……八〇
一、認可及許可往復(提出及認可、許可年月日)……八一
水道布設認可指令書……八四
水道起債許可指令書……八四
水道國庫補助聽屆指令書……八五
目論見書變更(期日延長)認可指令書……八六
目論見書中變更認可指令書……八六
土木費(縣費補助)補助依命通牒……八七
馬ヶ城貯水池中縣有地借用請書……八八
一、水道關係名譽職、工事關係者……九〇
計畫當時(瀨戸町)關係名譽職……九〇
起工式當時關係名譽職……九一

其後關係名譽職……九二
工事關係者……九四
用地關係……九五
工事使用材料及使役職工、工夫、人夫……九六
工事用器具材料納入者……九七
工事請負者……九八

一、給水開始ニ付……九九
一、昭和九年度瀨戸市水道費歲入歲出豫算……一〇〇
一、昭和十一年度瀨戸市水道費歲入歲出豫算……一〇三
一、給水工事關係者……一〇七
一、瀨戸市水道給水條例附同施行細則……一〇八
一、給水開始ニ付宣傳（新聞折込及新聞廣告）……一三

せともの、

瀬戸市水道小誌

窯業の沿革

本市の窯業は既に一千餘年の往古、水藥を用ひたるものありたる事は古窯跡發掘品に依り證明さるゝ所なりと雖も、未だ後世々人が愛玩する程の陶器には非ず。

昭和を去る七百有餘年の昔時、大和國諸輪の人春慶加藤四郎左衛門景正は越前永平寺の開山道元禪師の好意に依り隨行して宋に渡り、留る事五年彼地製陶の奥技を學びて歸國し、各地に良土を求め轉々として尾張國山田郡瀬戸邑に來る。此の地陶土豊富にして土質比類なし、西方には尾濃の廣野を控へて人煙近く、殊に熱田は海陸交通の要衝として榮ゆ、幾年に亘り山野を跋渉せし甲斐ありて遂に祖母懐の良土を發見し此の地を卜して建業の基礎を固めたり。爾來星移り歳更り其の子孫に依つて祖業を傳へ、技益々進み名聲次第に擧る。降つて文明年間に至り將軍足利義政の臣志野宗臣屢々意匠を瀬戸工人に授けて茶器を作らしむ之を志野燒と稱す。

豪邁一世の英雄織田信長も親ら此の地を視察して陶業に保護を加へ、瀬戸以外に窯業を禁じ工人に對し諸役を免除するに至る。此の時加藤春永、加藤長十加藤俊白、加藤新兵衛、加藤春厚、加藤德庵、の名工現る、之を瀬戸六作と稱ふ。

天正年間には茶匠千利休瀬戸工人をして茶器を作らしむ、之を利休燒と呼ぶ其の門人古田織部正重勝亦、茶器の製作を赤津の加藤忠左衛門に托す、之れ世に傳ふる所の織部燒にして、優美と雅致に富み世人頗る愛玩す。其の製法今に殘りて成業とするもの多し、織部正又瀬戸に來りて名工十作を選み各々窯印を定む。

斯の如く瀬戸陶業は實に絶大の保護を得て幸する所大なりと雖も、當時久しき戰亂の影響を蒙り、やがて漸く不況に陷り業を他國に轉ずるものあるに至

る。

後天下德川氏の治下に一統さるゝや小堀遠江守政一、瀨戸の眞價を世に推稱せしかば其の名大いに著はれ、隣村赤津品野を初め附近旺に窯を開く、尾州初代の藩主德川義直、陶祖春慶の裔を他國に置くは策の得たるものに非ずとなし美濃に在る陶工を召喚して赤津に居らしめ、金品を給し、課役を免じ「御燒物御用」を勤めしむるに至り、散逸せる工人次第に集り祖業再び舊に復す。寛永年中義直復瀨戸の名工加藤仁兵衛、加藤唐三郎等の良工を名古屋に招き、城外に地を相して築窯し、瀨戸の祖母懷土を以て諸器を作らしむ御深井燒是なり。

今より約百三十年前磁祖加藤民吉現はれ熱田奉行津金文左衛門の啓發を享け萬難を排して九州肥前に製磁の法を探り辛苦慘澹其の秘奥を究めて歸る。爾來益々秘法を傳へ、在來の窯式に改良を加へ、瀨戸地方の原料を聚めて更に一種の磁器を發明し、精巧を極むるに至り名聲四方に顯る。隨つて陶業より磁業に轉ずるもの次第に多く相競つて其の技を研き良工愈々出て〻技益々巧妙を極め地方產業爲に大躍進をなす。

文化年中には製品の海外輸出を計る爲め、勸定奉行より尾張製を證する尾張の木印を下附され、安政年間には三井物產會社の紹介に依り、鎖國の禁を破り密に米國向器物を數百點を輸送す之を瀨戸物輸出の嚆矢とす。

藩制時代尾州家は瀨戸赤津品野の三ケ村の窯業場を除地とし、或は藩より窯元に資金を貸與し或は用木を下附し、或は陶祖末裔の外に窯業を禁じて世襲業となし永代轆轤一挺制を立て或は苗字帶刀を許し、國產品として私賣買を禁じ藏所を設け本業、染付各別に取締役をして之を管理せしめ、更に專賣權ある名古屋藏元商人に廻送せしむる等極力瀨戸物業に保護を加へ誘導頗る看るべきものあり。

王政維新後藩の保護を離れたれども、却て自營自立の要に迫られ自由活動の機を得て、窯業は逐年盛況に嚮ひ、海外貿易開くるに及びて販路次第に拓け、明治五年墺國博覽會、明治十一年の巴里萬國博覽會等を經へ、瀨戸物の聲價を海外に博する事愈々滋く、明治十八年井上延年支那向輸出品を創製し加藤松太郎に依つて半陶半磁品を發明さる、明治二十八年には現今の縣立窯業學校の前

身たる、町立陶器學校の設立ありて、學理應用を圖り、地方製陶磁界に稗益する所甚大なるものあり、同三十二年一千餘の工商を網羅して瀬戸陶磁工商同業組合を組織するに至り、協同一致斯業の改良進歩を圖り弊害を矯正し、取引上の信用を保持し聲價の伸張を期し、以て海外輸出販賣の擴張を計り各種組合の樞軸となれり、同三十四年農商務省の補助を得て瀬戸陶磁器試驗場石炭窯の創立を見るに至れり。爾來燃料の上に經營生産の上に一大革新を期し窯業日に進展せり。

由來本市窯業の過半は輸出貿易品の生産に懸れるも海外市場に於ける激甚なる競爭は勢生産過剩し價格の低廉を誘致せると世界的經濟界の變動は輸出貿易の不振を招來せるとは與つて窯業の進出を阻害すること甚し。今にして原料意匠圖案の改善檢査製法技術の改良促進燒窯及燒料の改革研究に依り企劃を統一し以て斯道を誘掖啓發し統制を圖らざれば七百有餘年連綿として宇内に冠たる我が「せともの」の聲價を漸く失墜せんとす。茲に於て昭和五年市立窯業試驗所設置の議成り以來着々として之が完成に努めたり此の時商工省は愛知、岐阜、三重の三縣は本市を中心として我國陶磁器の主要生産地なるを思ひ昭和八年四月二十四日市立試驗場の設備を以て國立陶磁器試驗所瀬戸試驗場を設置したり尚業者間には瀬戸陶磁器工業組合及瀬戸陶磁器商業組合を設立し製品の規格統一販賣上の統制を圖り其の經營に一段の進歩を劃するものと謂ふべし。

之れより曩陶磁器の製造に其の績顯著なるを以て明治三十九年十一月十八日明治天皇伊勢に行幸し給ひし時陶祖春慶に對し正五位を贈り給へり。又昭和三年十一月十日　今上天皇陛下御即位の大禮を擧げさせ給ふに當り磁祖民吉に從五位を追贈し給ふ。

行　政

本市は維新前に於ては山田郡の一部落にして明治十一年郡區町村編成の際山田郡廢されて後春日井郡に編入せられ、更に同十三年東春日井郡に入り瀬戸村と稱せしが同二十五年一月二十九日町制を布けり。

由來本市は其の産業の關係上山腹を利用し家屋を建築せるを以て他の都會地

と其の發展の道程を異にし轅近石炭窯の隆興に伴ひて漸く平坦部に進出し街衢を形成せるがため他都市に於けるが如く整然たる市街を爲さず、茲に於て市街區域の整備擴張の必要に迫られ大正十四年八月隣村赤津村及旭村の一部大字今並に美濃之池を合併し元瀬戸町の區域を大字瀬戸、合併區域を夫々大字赤津、大字今、大字美濃之池と稱し四大字を編成せり。爾來戸口逐年遞增し產業教育交通經濟等大に發達し市勢頓に隆昌に赴けり。

然れ共克く市の交通衞生保安經濟等に關し永遠に安寧を維持し福利を增進せむとせば都市計劃法並に市街地建築物法等の適用に依り本市百年の大計を樹立せざるべからず、茲に於て市制施行の議成り昭和四年六月其の筋に之に關する稟請を爲し同年十月一日より瀬戸町を廢し其の區域を以て瀬戸市を置かる、踰へて昭和五年九月一日より都市計劃法並に市街地建築物法適用され都市計劃區域の決定を見近く道路網の決定を見んとするに至れり。

◎沿革と水道形式

地勢と區域　○愛知縣瀬戸市は中京の都名古屋市を離る東方約五里に在り古來より陶都瀬戸として世界に其名聲を博せり陶祖加藤春慶翁磁祖加藤民吉翁を陶磁器の祖として今より約七百有余年前より連綿たり現に同時代は勿論遠く千余年前の行基菩薩時代の古窯跡は共に附近山地に散在せり市は東西三、二八里南北一、一九里面積一、五二方里周圍一〇、三四里にして舊瀬戸に屬する部は標高百米東南北の三面は約百六十米乃至二百米の山地に圍繞され其中央に幅約六間の瀬戸川により南北に別れ西方に流れ東春日井郡守山町にて矢田川に合す昭和四年其附近の赤津村旭村の一部と合併し市制を施行したるものにして現在全戸數九千六十九戸人口四萬七千三十一人(昭和十年末)なりとす舊瀬戸に屬する部分の井戸は水質惡しく且つ其量乏しかりし關係上大正十四年以來附近の谿流を利用し簡易水道を布設し市の中樞部住居者に便益を與へたり其の使用戸數約四百五十戸と言ふ。

計　畫　○窯業を專一とする都市なるに既往は火災數少なく殆んど皆無と言ふも過言に非す然りと言へとも近時燃料の變遷加ふるに人家は年を追ふて稠密

となるに於ては此の点大に考慮を要するものならんと思考す。昭和二年瀬戸町時代前記簡易水道にては衞生保健上の完全を期し難きと火災防備上上水道の布設緊要なりしと調査に着手したり然りと雖も市内に水源となるべき河川なく又鑿井に求むる能はず只谿流の水を集水貯水するより外なきを以て市内大字拜戸俗稱馬ヶ城谿流に堰堤を設置し其流域内の水を貯水することとし濾過池、配水池は其谿流の左右両岸に築造し市街へ配水するものとせり然して補助水源として大字赤津字白坂及同山路に取水堰堤を設け其各流域の谿流水を鐵管其他にて導水し馬ヶ城流域内に放流することとせり即ち自然流下式水道なり。

將來の擴張　○市の發展に伴ひ各擴張に對し水源は現在以外に雲興寺裏谷に堰堤を設置するものとし（白坂導水鐵管内徑四五〇ミリヨリ三〇〇ミリノ分岐の用意あり）又貯水池は馬ヶ城流域内北方に混凝土堰堤を設置し得又配水方法に付現配水池位置より高地へ給水の必要起りなば大字赤津地内に濾過池配水池を設置し配水せば其等の遺憾は滿足し得るものとす。

◎簡易水道

瀬戸市は大正十四年八月瀬戸町と隣村東春日井郡、赤津村及旭村の一部大字今並に同美濃之池を合併し昭和四年十月一日市制施行したるものなり然る所舊瀬戸に屬する市街區域を形成せる一般の飲料水は地質並に地勢上其量に於て乏しく又水質概して悪しく大正十五年市内井戸水の檢査の結果は總數約二千個の内飲料適七百七十個濾過適、煮沸適を合せ不適は千二百三十個にして全數の約百分の六十余は不適なり斯る狀態なるを以て飲料並に使用水として現在市民の苦痛を感しつゝあること甚大なり從て今后の發展に伴ひ到底耐ゆる所ならず此原因により市の發展を疎害することも又大なりとす事情斯くの如くなるを以て市民間に組合組織による簡易水道を布設するに至れり。

○簡易水道＝湯屋營業者其他個人の水道は別として組合によるものは櫻町、宮前、末廣、紺屋田の各水道とす。

○櫻町水道は大正十四年五月櫻町飲料水利用匿名組合とし代表者小林茂外二十

九名より願出市内拜戸俗稱馬ヶ城西南の谿流地下水を水源とし内徑一吋半の瓦斯管を延長約九百八十間布設し櫻町方面約五十戸に給水の目的とせり。

○宮前水道は鑿井にして昭和三年九月永井梅三郎より願出市内池田に鑿井し内徑二吋半瓦斯管を約二十間布設其町内約六十戸に給水の目的とせり。

○末廣水道は昭和四年四月末廣給水組合とし代表者三好熊吉其后木下順作より願出市内一里塚谿流を水源とし内徑二吋半及二吋瓦斯管を延長約千四百五十間を布設し末廣町方面約九十戸に給水の目的とせり。

○紺屋田水道は昭和四年十二月紺屋田上水組合とし代表者若山琢郎より願出愛知縣知事の許可を得たるものなり市内紺屋田谿流地下水を水源とし内徑二吋瓦斯管を延長約千四百間布設し字刎田、東郷、宮脇、藥師、藏所等の方面約百戸に給水の目的とせり其水量の如きも一人一日に對し平均四立方尺とし最大六立方尺とせる等當市隨一の簡易水道なりとす。

以上四簡易水道の給水計畫戸數合計は約三百戸なりとするも各配水區域は何れも市の樞要部に位するを以て約一倍半以上の需用戸數の增加あるものの如し。

○水道の經過

布設認可　○瀨戸市水道は前項に述べたる如き簡易水道の布設あるも市民の保健衞生上に遺憾あるのみならず一朝災火の害を慮るときは實に寒心に耐へさるものあり、茲に瀨戸町は水源を市内字拜戸俗稱馬ヶ城の流域「一三八丁歩」を利用し堰堤を設置し貯水することゝし給水區域現在人口二萬八千人に對し計畫人口を四萬五千人とし一人一日の水量を二、五立方尺とし全般の設計を完了し工事年度を昭和二年度より同四年度とし布設工事費五拾萬圓（布設費總額五拾六萬千八百七拾五圓）に關する一切の必要書類即ち上水道布設認可、起債許可並に國庫補助、縣費補助申請等の一切の書類を昭和二年七月町會の議決を經て監督官廳へ稟請したり其后調査の結果貯水量其他諸施設に付改良の必要生し據て第一期計畫人員を三萬五千人一人一日の使用水量を四立方尺とし水源は馬ヶ城貯水池と隣接せる字紺屋田（流域二〇丁歩）に各有効水深六米の堰堤を設置し両

池を隧道により連絡することゝし（若し后日源水の不足に備へる爲め豫算參拾參萬圓を以て庄内川上流より卿筒揚水施設をなすことを保證し）其他を變更し工事費六拾九萬圓とし工事年度を同五年度より同七年度迄とし同四年四月町會の決議を了し稟請したり其后同五年一月市會議決に決議換をなし申請し同年九月内務大臣より水道布設認可の指令を下附されたり同二年計畫に着手してより四ケ年を經過し茲に愈々實現を見ることゝなれり。

實設設計以后　實施設計は同年十月より調査に着手したり原計畫たる水源は馬ケ城並に紺屋田なるも其の流域のみにては水道水源として餘りに狹少にして給水上圓滑を缺く恨みなしとせず然りとて當時の市の財源上六拾九萬圓以外に參拾參萬圓を追加保證したる補助水源を施設するは到底市財政上許されざる狀態にありしを以て水源を他に求むることゝし選定したるは市内東方赤津猿投山（標高六二九米）分水嶺北方の一劃字白坂（流域五〇〇丁歩）と同分水嶺西方の一劃字山（流域一三六、五丁歩）とに各取水堰を設け自然流下にて鐵管に依り導水する補助水源となしたり馬ケ城流域を利用し有効水深八米の堰堤を築造し貯水池となし主として此れを水源となし若し水量に不足を生したるときは赤津補助水源より此の流域内に導水補給する施設とす故に原計畫の馬ケ城及紺屋田の兩池の貯水量を馬ケ城一池に貯水すべく變更し實施設計を稟請したり然る處字白坂及字山路の導水設備に關しては其下流なる隣村愛知郡幡山村、猪高村及東春日井郡旭村、守山町等の四ケ町村の灌漑關係により實施設計認可申請を二分し即ち馬ケ城貯水池堰堤以降濾過池、配水池、送水線路及市街配水鐵管等の設備に對し實施設計認可を同六年三月申請したり同年四月付認可指令を下附されたるに付同年九月工事に着手し同八年十二月大体工事の竣功を見たり又導水設備に對する實施設計は同九年十月申請したるに對し同年十一月認可指令に接せり據て諸般の準備をなし翌十年六月工事に着手し同十一年六月竣功したるものなり此間變更二回工事期間延長三回の認可指令を受けたり。

市長の時代　○水道は昭和二年五月小出町長着任以來計畫され引續市長に就任し實現したるものなり然れども其實施に當ては補助水源たる赤津地内導水線路即ち猿投本谷及同西谷の各工事は幡山村外三町村並に市内大字赤津等の反對

の爲め此の部に屬する實施設計申請は后日とし實施設計認可申請を両分し馬ヶ城貯水池以降市街配水工事迄を昭和六年二月申請し同年四月認可指令を受け同年十二月起工式を擧行以來同八年七月同市長退職迄には殆んど竣功し市街鐵管には假通水をなしたり此工事費約四拾壹萬五千圓(全額六拾九萬圓)とす此間乍遺憾關係各村の了解を得るを能はざりし同年九月稻葉市長就任以來幡山村外三町村の交涉進捗し同年十二月圓滿解決をなせり然れども同市長は翌九年三月退職となり同年五月泉崎市長就任后幡山村水車業者に對する補償問題解決し又赤津の紛爭も同年十二月覺書交換迄解決進行せるを以て十年二月導水線路工事に對する實設設計認可を申請し同年五月指令に接し同月赤津地主代表と契約の交換をなし直に猿投本谷、西谷及鐵管布設等の工事に着手し尙市内今及安土方面の配水鐵管の增設をもなし同十一年六月茲に全く落成するに至れり關係村等の問題の爲め工事着手より約二年六ヶ月餘を豫定より延期するの已を得ざるに至れり。

會　議　○昭和二年四月町會に於て水道布設計畫に付町會議員中加藤山名、伊藤四郎左工門、青山政五郎、加藤松兵衛、藤井源三郎、水野憲吾の六名を委員に選定してより町會開會二回市會八回水道委員會百回水道委員縣外視察四回を行ひたり。

◎總　說

○水源は何れも市内にして左の三個所の谿流水を(矢田川上流)聚集して水源とす。

一、猿投本谷＝大字赤津字白坂赤津川(山口川上流にして下流は矢田川)

二、猿投西谷＝大字赤津字山路山路川(右に同じ)

三、馬ヶ城貯水池＝大字瀨戸字拜戸(瀨戸川上流にして下流は矢田川)

一、二谿流に取水堰を設置し鐵管にて大字赤津字東女郎前なる着水井に導水し其れより鐵筋混凝土樋にて縣道品野街道を横斷し其れより水路により馬ヶ城流域内へ放流するものとす。

馬ヶ城には割石混凝土造堰堤を築造し馬ヶ城流域内の谿流水を貯水す水量不

足の場合は一及二より補水するものとす然して濾過池にて淨水となし配水池に貯水し其れより縣道多治見街道に出て市街へ配水するものにして自然流下式水道とす。

◎水源に於ける水量と水質並に必要水量

○大正四年より昭和五年に至る各月降雨量

年／月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
大正四	八四、二	六二、六	九〇、三	二九四、五	一五一、六	三三一、五	六八、七	二九三、四	二二、二	一五、四	七六、〇	三三、五	一、七三〇、九
五	四五、四	二六、四	三八、三	二五、六	二五六、〇	三四〇、〇	二四、一	七〇、〇	一三五、一	一九八、〇	一九〇、五	一〇一、〇	一、七二〇、四
六	三七、三	二八、〇	一四四、一	二一九、六	六八、三	二二、〇	一三七、九	二三五、五	四〇八、四	三〇〇、五	四〇、五	二〇、三	一、七四二、四
七	一三、八	七二、八	一四九、六	一五五、四	二三九、一	四四、一	五一四四、九	二〇九、四	二八五、七	一六六、九	七六、〇	八二、〇	一、六三七、四
八	八六、六	五〇、七	二一〇、四	二三八、四	九六、二	二四二、九	二五三、八	一五三、四	二二五、六	一七一、六	九六、四	四一、四	一、五五七、四
九	六二、三	九六、九	二一八、三	三五〇、五	二二一、八	二四五、八	七三、一	一五八、四	一六〇、五	七〇、六	一〇二、六	一〇一、四	一、四六二、二
一〇	八六、四	五七、八	八七、九	一八八、二	二六八、五	三三七、三	二六八、八	一四七、八	三九四、五	一三五、三	一六、五	三〇、四	一、九〇九、四
一一	六三、二	三九、五	二〇九、一	二三、七	一〇一、三	二六一、一	一三九五、七	四七、四	五二、四	一三三、〇	九八、三	三三、五	一、五三八、二
一二	五七、六	二四四、二	一四五、〇	二六三、八	二六四、八	三〇一、二	一二五九、六	四〇、四	一五九、〇	一四六、六	一三二、二	五五、八	一、八六一、二
一三	二、二	三〇、九	三三、五	二七、五	二六〇、八	一〇八、〇	四六、九	一二八、五	一三五、二	二五九、八	七一、一	一六、一	九六九、五
一四	一九、三	六八、六	四九、七	一〇八、三	一四八、六	二三一、七	七一、五	五五三、三	四六、二	九七、七	九五、一	六〇、六	一、九二〇、六
一五	二九、〇	八一、〇	七五、六	七〇、六	一八五、四	一二六、四	七四、九	七八、五	一五九、六	七一、七	三〇、四	九五、七	一、〇八八、八
昭和二	五〇、〇	三一、〇	一三五、〇	六四、五	一〇六、八	六六、三	三八、〇	一〇〇、五	二五六、七	七二、五	六三、五	三三、〇	一、二〇六、八
三	一三、五	五八、五	二六、〇	二七、〇	二七、五	五〇五、五	二〇、〇	一三三、〇	一四六、五	一四六、五	一〇一、五	五一、〇	一、六六二、五
四	三、〇	三七、〇	六二、〇	九七、〇	一四三、五	五四、五	一二五、五	一〇三、五	三九四、七	一二四、〇	一一九、〇	八五、〇	一、三四八、七
五	三四、五	五八、五	二七、五	六三、〇	一三四、五	三三六、〇	二四、〇	一〇六、九	一六五、五	八三、五	二一、五	一、三六八、四
平均	五七、五	九七、〇	二九、〇	一四一、四	二〇五、七	一五八、八	一六二、二	二三六、二	一四三、三	八六、四	五三、八	一、四七七、九

附記　十六ケ年間に於ける月雨量の最小降雨量は大正十三年一月の二、二ミリ又最大は同十四年八月の五五三、三ミリなり同月十五日は二十分間に四〇ミリの降雨量あり前日來の降雨にて雨量一日に三五五、六ミリにて瀬戸市未曾有の洪水となり市内橋梁全部流失し其后國庫支辨にて現在の瀬戸川改修されたるものなりと言ふ。

水質檢査　自昭和五年三月　至仝六年三月

各水源に於ける水質檢査は愛知縣警察部衛生課に依囑したるものなり。

谿流名	固形物總量	消費酸カメレオン	亞硝酸クロール	硬度	硫酸	アンモニア	細菌數
馬ヶ城	三〇、〇檢出セズ	一、五〇	四、六〇八檢出セズ	〇、三〇〇檢出セズ	檢出セズ	檢出セズ	一五六
本谷	〇、〇不檢出	〇、九四八	四、六〇八不檢出	一、一〇〇不檢出	不檢出	不檢出	三
西谷	〇、〇不檢出	〇、九四八	四、六〇八不檢出	一、一〇〇不檢出	不檢出	不檢出	四

井戸水檢査

市內給水區域內井戸水は量に於て乏しく質に於て惡し大正十五年八月檢査せる成績左の如し。

檢査總數　一、九八二個

內適七七四、濾過適三、煮沸適五四九、不適六五六、却ち不適は總數に對し約百分六十一となる。

◎給水區域と戸口調査　昭和五年十月調

○給水區域は全市とあるも人家稠密せる舊瀨戸を區域とす大字赤津、仝今等の人家粗なる部分又舊瀨戸內と雖現在配水池より給水し得ざる山の上に屬する分は何れも他日に讓ることゝせり昭和六年調査に依れば市戸數八、二六〇戸人口三七、三〇〇人なるも水道區域は五、八四〇戸人口二六、三〇〇人とし其れに對し三五、〇〇〇人とし其れに對し設備をなすことゝせり。

人口增加狀態は全市として大正十四年三五、七一〇人昭和五年三七、二八四人にして年平均三一四人とす。

○水源水量の調査に付ては馬ヶ城流域內の谿流水量を同所堰堤位置に於て自昭和三年十二月至仝四年七月間每秒時五、六立方尺を計量し得る矩形鈑「ノッチ」を建設したり計量せる結果一ヶ年の平均水量（計量設備以上の水量は除外す）を每秒一、四立方尺とし水量の最も少なき時期十二、一、二、三の四ヶ月の最小平均水量は每秒〇、六立方尺とす。

○各水源の集水區域面積は猿投本谷五〇〇丁歩同西谷一三六、五丁歩馬ヶ城一

三八丁歩の計七七四、五丁歩(〇、五方里)なりとす。

○聚集水量の算定は馬ヶ城觀測水量に基き猿投本谷及同西谷面積に適用し其最小水量を算定せり其結果猿投本、西両谷にて毎秒三、六立方尺馬ヶ城の〇、六立方尺と併せ合計毎秒四、二立方尺とす然れとも馬ヶ城にて計量せし量水鈑は毎秒五、六立方尺以上の水量を省き又猿投本谷には海抜六二九米の猿投山あり集水面積も馬ヶ城の三、六倍もあり又西谷共何れも山林狀態良好なれば實際流出水量は豫想以上大なりと推定す。

○必要水量は基本計畫人口三萬五千人に對し一人一日消費水量を四立方尺(六斗一升七合)とせば一日の水量は十四萬立方尺(二萬千五百九十五石)にして毎秒一、六二立方尺(二斗五升)を必要とす。

◎導水設備貯水池、濾過池、配水池並に連絡

○導水設備

○猿投本谷及西谷導水設備は何れも着水井へ送水するものにして尙両取水堰には灌漑用放水扉を設備せるものとす。

猿投西谷取水堰は堰長二六、二米高四、一五米にして其北端に集水井を設置す滿水位は二二八米とし導水鐵管内徑三五〇粍延長二、三八九、三米にして其最大送水量毎秒三、九二立方尺を着水井へ送水するものとす又堰堤南端に設けたる鐵扉は下流灌漑用の爲め四季を通して毎秒一立方尺を放流するものとす。

猿投本谷取水堰は堰長二〇、五米高三、七七米にして其南端に集水井を設置す滿水位二三七、一六米とし導水鐵管内徑四五〇ミリ延長一、八四四米にして其の最大送水量毎秒一、一、五立方尺を着水井へ送水するものとす又堰堤南端に設けたる鐵扉は下流灌漑用の爲め四季を通して毎秒五立方尺を放流するものとす。

○着水井は猿投本谷、西谷の導水量を各別に計量し然して導水樋に連絡せり同井の滿水位は二一二、九五米とす。

○導水樋は鐵筋混凝土にして内法幅〇、六七米深〇、七五米延長二九五、六八米にして毎秒一六、〇立方尺を送水するものとす然して水路より馬ヶ城貯水池へ流入するものとす水路の延長は四八米にして最終敷高は一九二、七米とす此れ

より貯水池滿水面迄の延長一、二二〇、〇米其高低差四八、六米とす。

◎貯　水　池

○貯水池は全水深四三、九尺滿水面一二、二二六坪にして全水量六、五八七、五二〇立方尺（一八二、九八七立方米一、〇一六、一二五石）送水有効水深二六、四尺此水量六、三八六、四一〇立方尺（九八五、一〇〇石）にして一人一日の消費水量を四立方尺とせば一日に要する水量は計畫人員三五、〇〇〇人に對し一四〇、〇〇〇立方尺となり貯水量は四十七日分となる尙堰堤上部溢流部に一尺の角落板を設け貯水の增加を計り此の水量五一六、五二〇立方尺即ち約四日分となるを以て前者と合計其貯水量五十日以上となる。

以上は給水開始より計畫人口三萬五千人に給水するものとしての計算なるも給水開始の曉は十分二乃至三其れより漸時增加するものにして一日十四萬立方尺を要する時期は數年后となるものなり然共貯水量に不足を生ずる時は補助水源たる猿投本谷又は同西谷より導水せば其補充をなし得るものとす。

溢流裝置は堰堤上部中央及同堰堤西方山の間に溢流堰を設置し山の西裏を隧道及水路により放流するものとす而して馬ヶ城流域の流水は前者より約二割二分を后者より七割八分を放水するものなり堰堤直下の川敷現狀は川幅を餘り大にするを得ざる恨みあり降雨量に付ては前表にある如く大正四年より昭和五年十六ヶ年間に於て年最大雨量は大正十四年の一、九二〇、六ミリ最小は仝十三年の九六九、五ミリ平均年雨量は一、四七七、九ミリとす溢流量に付ては大正十四年八月の月雨量五五三、三ミリ中十五日の三五五、六ミリを最大とす然して降雨量は三十分間に四〇ミリを基算とし馬ヶ城流域一三八丁歩に對し滲透蒸發を考慮して其流出量を毎秒八三〇立方尺とす從て溢流堰より五一〇立方尺を又堰堤上部溢流部より三二〇立方尺放流するものとせり。

◎濾　過　池

○濾過池は基本計畫人口三五、〇〇〇人に對し一人一日の消費量四方尺とし濾過速度を一晝夜一〇尺とす然るときは一四、〇〇〇平方尺を必要とす依て一濾

過池の大さを砂面に於て長八〇尺幅六〇尺此面積四、八〇〇平方尺（一池一三三、三三坪）三池にて一四、四〇〇平方尺となる三池連續隔壁仕切にて築造することゝせり。

◎配　水　池

○配水池は地形の關係上一池とせり幅長共八三、五尺とし有効水深一二尺とす此全水量八四、一〇八立方尺となるも有効貯水量は八一、四七七立方尺即ち一二、五六八石とす一日一人の消費水量四立方尺とせば約十四時間又六立方尺とせば約九時間余を貯水し得るものとす。

◎配水量及消火水量

○毎日の消費水量は期節天候及温度に據り增減あり夏期に多く冬期に少きを常とす配水鐵管は給水量一人一日四立方尺なるも時々刻々の變化に應する爲め一倍半の六立方尺を配水し得るものとす猶消火用水をも加ふるものとし配水管の口徑を定めたり消火水量は一分時六〇立方尺とす一個の消火栓の放出量を毎分二〇立方尺とし三個の消火栓を開放せる時の水量とす火災は通例夜間一般の使用水量少なき時多きを以て實際は豫定以上の水量を使用するを得尙各制水弁にて其使用範圍を制限せば局部的に水量を集中せしむることを得るものとす。

○消火栓は單口にして街道の交叉点其他必要と認むる地点に設置し其間隔は約三〇間乃至五〇間とし總數三一八個とす。

◎動　水　壓

○配水池水深は三、六四米（一二尺）にして滿水面は標高一三四、六九米なり水壓計算は配水池水深の二分一即ち一三二、八七米（四三八、四七尺）とす南北幹線の分岐点なる公園橋附近に於ては（内徑四五〇ミリ）有効水頭一八、二三米（六〇、二尺）其れより南部線蛭子橋（内徑三五〇ミリ）にて有効水頭一九、八六米（六五、五尺）瀨戸大橋（内徑三〇〇ミリ）にて二七、九二米（九二、一尺）吉田橋にて（内徑二〇〇ミリ）三五、四米（一一六、八尺）とす又北部幹線神明橋（内徑三五〇ミリ）

にて二二、八五米(七五、四尺)藏所橋北(内徑三〇〇ミリ)にて二四、八三米(八一、九尺)警察署西(内徑二五〇ミリ)にて二九、五四米(九七、五尺)十三橋東(内徑二五〇ミリ)にて三二、四七米(一〇七、二尺)吉田橋通(内徑二〇〇粍)にて三四、四三米(一一三、六尺)とす南北幹線は瀬戸川伏越にて三ヶ所に於て連結す即ち窯神橋下流にて内徑二〇〇ミリ、十三橋下流にて内徑二五〇ミリ、吉田橋下流にて内徑一五〇ミリとし南北各所に於ける給水上の圓滑を計るものとす。

◎工事方法書

◎導水線路

○猿投西谷導水線路の取水堰は赤津字山路なる赤津區灌漑水路下位の谿流に設置す堰長二六、二米上幅一米高四、一五米頂部溢流部は長六米間を六區劃に分ち高〇、六米の角落板を各々に嵌入し導水の便に備ふ中央部に幅一米の排土用角落を二重に裝置す堤体は割石入混凝土にして粗石と混凝土の配合は粗石〇、一五混凝土〇、八五にして混凝土の配合は一三、六とす堰北端に鐵筋混凝土造集水井を設け内法長一、八米幅一、二米深三、五九米にして其中央部に砂留用角落を設け其れより内徑三五〇ミリ鐵管延長二、三八九、三米により字東女郎前の着水井へ導水するものとす又堰堤溢流部に南接し深〇、三米幅〇、四六米の鐵扉を設け四季を通し毎秒一立方尺を放流するものとす、堰堤滿水位は二二八米又導水鐵管中心高は二二五、六六米とす。

取水場内に木造番舍一、五間角軒高九尺一棟を又石積門を建設用地周圍に鐵筋混凝土柱有刺鐵線長三三四、五米を建設す。

○猿投本谷導水線路の取水堰は赤津字白坂縣道(瀬戸、稻橋線)白山橋上流赤津川谿流に設置す堰長二〇、五米上幅一米高三、七七米頂部溢流部は長七、八米を五區劃にして高〇、三米の角落板を各々に嵌入し導水の便に備ふ中央部に幅一、二米の排水用角落を二重に裝置す堤体は割石入混凝土にして粗石と混凝土との配合は粗石〇、一五混凝土〇、八五にして混凝土の配合は一、三、六とす堰南端に鐵筋混凝土造集水井を設く幅内法三米長三、六五米深三、五五米にして其中央部に砂留角落を設け其れより内徑四五〇ミリ鐵管延長一、八四四米により字東女

郎前の着水井へ導水するものとす堰堤溢流部に南接し幅〇、九米深〇、一九米の鐵扉を設け四季を通して毎秒五立方尺を放流するものとす。

堰堤滿水位は二三七、一六米導水鐵管中心高は二三五、四三米とす。

取水場内に木造番舍一、五間角軒高九尺一棟を又石積門を建設用地縣道添に鐵筋混凝土柱有刺鐵線長三一三米を建設す。

○着水井は字東女郎前に設置す鐵筋混凝土造にして長内法五、二五幅三、一三米深二米にして三室に區劃す二室は量水用矩形鐵鈑を設く一室は猿投本谷より内徑四五〇ミリ鐵管の導水々量を毎秒最大一一、五立方尺を計量し他室は猿投西谷より内徑三五〇ミリ鐵管の導水水量毎秒最大三、九二立方尺を計量するものとす然して両谷よりの導水は他の一室に合し導水樋に放流するものとす集水井の滿水位は二一二、九五米とす。

○導水樋は東女郎前山地を堀鑿し線路を築造す敷幅三米最高七、七米延長二一三、五米を堀鑿し其路面下約平均〇、七米へ混凝土造内法幅〇、六七米深〇、七五米延長二九五、六八米を築造し長約五、五米毎に銅鈑繼手を挿入し鐵筋混凝土蓋をなす敷勾配は五百分の一水深〇、五七米を以て毎秒一五、四立方尺を送水するものとす。

○導水々路は導水樋の流水を受け馬ヶ城貯水池分水嶺中へ放流するものとす水路は敷混凝土両側粗石積にして導水樋と「クッション」にて連絡す敷幅一、四五米深一、一米延長四八米平均勾配十二分一により馬ヶ城流域内現在谿流に放流するものとす水路最終敷高は一九二、七米とす。

◎貯水池

○堰堤は字拜戸俗稱馬ヶ城谿流に設置す堤体は割石混凝土造にして全高一六、六米（有効水深八米）長五四、四五米上幅一、五敷幅一二、八五敷最深部川敷より五、一二米とす堰中央部に幅一一、一の溢流堰を設く堰堤は内部へ〇、〇九五分の一外部へ〇、七三五分の一の法を付す溢流頂部は二、六九米及一、一の半徑を有す尙溢流部を六、分劃し其各々に高〇、一五米の堰板を建て貯水量の增加を計る堤体混凝土は一、二、二、五配合混凝土〇、八四に對し雜割石〇、一六を混入して疊築せり体の氣温に對し伸縮繼手二ヶ所を設く繼手は凹形とし水接部方へ銅

鈑厚一ミリを挿入す堤の下部に池内排泥用とし倒卵形暗渠幅一、一米高一、二一底勾配百分一を型抜す暗渠と並列して内徑三五〇ミリ鐵管一條を埋戻し濾過池への送水用とす。

取水用竪管は内徑四五〇ミリとし貯水池滿水面一四四、一米より二米及三米毎共三ケ所に内徑二五〇ミリ鐵管を分岐し何れも制水弇及塵除金具を具備す竪管上部に幅二、三米長二、四の銅鈑持出を設置し各制水弇の開閉臺を設け送水量を調節するものとす。

堰堤基礎は花崗岩にして其上流部堤趾近くに遮水用として最深五、一二米に堀鑿し其他の盤面は堰堤合成力に對し抵抗性を強むる樣施工したり基礎の耐壓試驗は試驗型十八個を採り愛知縣廳にて試驗の結果は材質黑雲母花崗岩にして比重二、五九乃至二、六九吸水率〇、三乃至〇、三五パーセント耐壓强度平均六七八平方糎キログラムとす堤体中へ使用せし雜割石の檢査も同廳の結果によれば材質花崗岩錆色を呈せざるもの比重二、六二吸水率平均〇、一六耐壓强度九五三、四平方糎キログラムとす堤体中へ使用せし雜割石の檢査も同廳の結果によれば材質花崗岩錆色を呈せざるもの比重二六、二吸水率平均〇、一六耐壓强度九五三、四平方糎キログラム又材質錆色を呈したるもの比重二、六一吸水率〇、三耐壓强度九六三、五平方糎キログラムとす。

水位標示機を取水鐵管上部に据付水源事務所へ電送す機は淺野物産株式會社廣澤式標示機とす。

堰堤溢流水は現在川敷下流長二六、六米を整理し上幅平均一〇、二四米敷幅八、五六米高三、八米にして両護岸石垣は練積とし川底は平均厚〇、九米の混凝土築造とす。

堰堤上部両側に徑二吋高〇、八米延長五〇米の高欄を設け溢流部上部はヱビーム高一二吋を架し網目鋼鈑を張り通路とせり。

其他堰堤の東西両側に幅一、五米の昇降用階段を設け尙貯水池南側に混凝土柱有刺鐵線を以て二七三米又池の北側用地界へ同樣九一米を建設す道路幅二米長二三〇米は舊道の附換とす堰堤附近に照明用として地上三、七米徑八九ミリ段付鋼管柱を建設す。

水神社は池の西側に東向に鎭座す祭神は彌都波能賣神、天之水分神の二体を祭り水道の守護神となし例年十一月三日を例祭日となす。

○溢流堰は貯水池西側山の間に設置す基礎は岩盤とす堰上幅〇、二米高一米長一八米混凝土造にして前面水叩きは幅五、五米長さは堰に同し底部半は張石とし其他は混凝土とす對岸は練積石垣とす。

隧道は水路中にあり長三〇米幅一、六全高二、七米上部に〇、三米下部〇、一米の弧を有す厚〇、三米敷勾配三十五分一にして混凝土配合一、三、六とす尚水路部は延長八六、六米敷幅一、六米上幅二、三米高一、五米底部厚〇、三にして両壁共混凝土造とす。

○土堰堤は貯水池東南滿水面を離る約四七〇米の谿流に設置しあり該堰は愛知縣が砂防用として築造したるものにして大正十四年八月の洪水時に破壞せしものを市が水道施設に當り土砂留用として修築したるものにして長一六、六米上幅三米敷幅二四、六米高五、五米内法り二割三分外法り二割内法面は平均厚〇、二米の混凝土張り法尻に長九米高一、一米上厚〇、三米下厚〇、五米の壁を設く外法は筋芝とす餘水吐は上幅六、二米下幅四、六米深〇、九米にして粗石張目筋塗とす堤下に排水用として内徑一尺の鐵筋混凝土管を布設す堰堤滿水位は一六七、二米とす。

○砂防堰堤は貯水池東滿水面を離れ約二〇〇米の谿流に設置す長二五、六米高六、六米上幅一、七米敷幅五米体は粗石張混凝土造にして上部長五、六米は溢流堰とし其深一、一米とす堤体は混凝土配合一、四、八のもの〇、五栗石〇、五の割合とし基礎は花崗岩にして左右両岸も同樣とす堤下部に排水用混凝土管内徑一尺を布設す尚同堰堤滿水位は一五八、二米とす。

○砂止堰谿流の砂止として貯水池滿水面を離る約八〇米に設置す長七米上幅〇、六米高平均一、三米の張石混凝土にして長四米高〇、一五は溢流部とす基礎は花崗岩上に設置す滿水位は一四八、七米とす。

◎濾過池

○濾過池は貯水池下流約一六〇米川の東にして縣有林山地堀鑿一、二七五坪盛土三六九坪張芝一四七面坪筋芝五八面坪石垣二五八面坪を以て面積六七二、四面坪の敷地を築造す又池堀鑿は八六〇坪とす。

池は三池連續隔壁築造とし一池の上部内法長二四、二六幅七、六九米笠石下（壁際にて）二、六六米隔壁上厚は〇、四八米三方周壁厚は〇、三九米にして何れも〇、〇五の法を外側は垂直とす底部は両側より中央導水溝へ二百分一の勾配とす底は基礎配合一、三、六混凝土〇、〇九米配合一、二、四鐵筋混凝土〇、三米防水用コンプリート九ミリ更に押へ混凝土〇、〇九三瀝泥塗一二ミリを施工し笠石は花崗石幅〇、五五米、厚〇、二七米とす周壁は鐵筋混凝土厚〇、三米防水コンプリート九ミリ押へ混凝土〇、〇九三を施工す笠石は幅〇、四米厚〇、二七米とす周壁及仕切壁等へ銅板厚一ミリの伸縮繼手二〇ケ所を設置す。

濾過裝置は笠石下〇、二七二を水面とし水深〇、九一米砂〇、九一砂利〇、五六四米を六ミリ乃至九〇ミリを四種類に類別す濾床に常滑製半角土管〇、一五米及〇、四五を中心〇、四五毎に空伏せしたり。

中央導水溝は幅〇、六七米深平均〇、三七米二百分一の勾配にて濾過井へ流入す上部は燒過煉瓦を臺とし鐵筋混凝土幅〇、四五長〇、九一米厚〇、〇九米を以て蓋とす濾過砂面に内徑一〇〇ミリ鐵管を設け掃除排水用とす。

濾過井は内法幅二、一二米長三、〇三米深三、二七二米中央に厚〇、四五米の隔壁を設け久保田鐵工所製矩形水量調整扉長七呎六吋幅三呎二吋二分一を設く淺野物産株式會社廣澤式水位計を据付濾過池水位と井内水位の測定に供す井の蓋は網目鋼板を以てす上家は鐵筋混凝土造にして内法三、四七米二、六米角高二、三四米を建設せり又濾過池滿水位は一三六、一米とす。

○量水池は貯水池より濾過池へ送水する水量を計算するものにして濾過池東北寄に設置す、池は鐵筋混凝土造にして長内法六、四米幅二米深二、九八米壁厚〇、二米を二壁を以て三區劃し其一つは角落板厚一寸二分を以て水の動搖を防き他は厚〇、二米の混凝土壁とし其部に幅〇、五一米深〇、四八米の矩形「ノッチ」を取付け毎秒の送水を計算する裝置とす池の滿水位は一三六、六八米とす。

○塩素滅菌室は第三濾過池西北に設置す滅菌機は濕式エルレイボールド製にして配水池への送水鐵管に注入する方法なり室は内法一、八二米角高二、三四鐵筋混凝土造とす屋根上に〇、五五米及〇、六米高〇、六七米の水槽を設け注藥用水とす。

○砂洗槽及砂置場は何れも場内東南に設置す 槽は鐵筋混凝土にして 一、五二米角深〇、三米三個を階段式に設け貯水池水を 以て手洗するものとす 小屋屋根は波形亞鉛板葺とし柱は十二封度輕便軌條を以て七、五面坪とす 又砂置場は 内法長一二、七三米幅五、四六米深一、〇米とし周壁は上幅〇、四五米の粗石積とし豫備砂十二立坪を貯藏し得るものとす。

○場内鐵管布設は量水池より未濾過水を内徑三五〇ミリ延長五七米により第三濾過池迄又各池へは内徑二〇〇ミリにより送水す然して濾過水は濾過井より二〇〇ミリより三五〇ミリに入り延長七五、一米（貯水池より 直送施設鐵管を 含む）により配水池用鐵管に連絡するものとす。

○其他濾過池砂取換運搬用として十二封度輕便軌條八二米を敷設す、敷地北方及西方に昇降階段を設け何れも石積門を建設す敷地の西北方は川崎式菱形鐵網を高三尺長一五八米に張り又東南方の 山地は鐵筋混凝土柱に 有刺鐵線長二三、六米を張り以て敷地の境界とす 場内照明用電柱は 高四、三四米段付鋼管柱を建設す。

◎配　水　池

○配水池位置は濾過池下流二一〇米川の北方にして縣有山林及私有畑山林等を堀鑿六七二坪盛土四〇三坪張芝二一三面坪、筋芝一三六面坪、石垣一四九面坪にて敷地三二七、七面坪を築造す又池は普通土軟岩及硬岩にて五六七立坪の掘鑿をなせり。

池は鐵筋混凝土造一池にして五壁の導流壁を有す内法二五、三米角深四、二四米有効水深三、六四米壁厚上部〇、四下部〇、五米高四、六二米防水コンクリート九ミリ押混凝土厚〇、一一米内面垂直にして銅鈑厚一ミリ 伸縮繼手八ケ所を設置す敷は配合一、三、六混凝土厚〇、一五米 防水コンプリート九ミリ押へ 混凝土〇、一米滲泥一二ミリ施工す 配水管内徑四五〇ミリ及溢流管内徑三〇〇ミリの位置は池の西隅に底部より一、二米深く幅一、九五米長三、五五米の凹部に設置す導流壁は一列に〇、三米角七個柱を建て其の間を厚〇、一二米の壁にて連絡す覆混凝土の厚は〇、二九にして 上部へ防水用として 亞光塗料二回塗布す換氣

用として混凝土造内徑〇、三米高一、二五米を三十個設置す又覆土は深〇、六米とし池壁外側より〇、六五米外方に其れより法一割五分を以て在來地盤四周に取付其法尻は雜割石を以て保護するものとす而して平面部市松形法面共張芝とす昇降用階段は池上家前面に設置す濾過池より送水管は池南隅より内徑三五〇粍によるものとす滿水位は一三四、六九米とす。

○上家は鐵筋混凝土造にして内法一、八二米角高二、三四米とし壁厚〇、一二米とし〇、七五米角の人孔を造り池内掃除用昇降口とす尙室内は水位標示機及ヴエンチユリーメーター用メーターを備へたるものとす。

○量水器ヴエンチユリーメーターは市街配水計量用にして獨逸ボツプロイテル會社製水銀式内徑四五〇ミリにして敷地内下段に設置す室は鐵筋混凝土造にして内法一、三米角深四、三七米とす機能は表示水量は一時間に付最大三七五立方米最少二五立方米比率一五計量誤差二パーセント以内にて流量の記錄は水源地事務所にて配水池上家に於ては指針をなすものとす。

○場内鐵管布設は溢流及掃除用鐵管は内徑三〇〇ミリを二六、三米及貯水池水及濾過水を直接市街へ送水すへき即ち回避用鐵管は内徑三五〇ミリにして延長三二、七米を布設せり。

○敷地東南及西南方に石積門を建設し何れも昇降は階段による、道路添は川崎式菱形鐵網一八三、七米を張り山地は鐵筋混凝土柱有刺鐵線一五六、四米により境界す場内照明用として高四、三四米段付鋼管柱を建設す。

◎配水鉄管

○馬ケ城堰堤＝多治見街道間線路は上幅三米延長四六〇、五米にして掘鑿二三八、五坪盛土九四坪、張芝一九一面坪、筋芝三五面坪、石垣一三二面坪、混凝土橋徑間七、三米幅二、九米及徑間二、三米幅二、八米の二橋を線路に水源地事務所前に假木橋徑間四、六米幅三米を設置す排水用混凝土管内徑一尺を四六、五間敷砂利三二八、面坪を散布す。

線路鐵管布設は堰堤、濾過、池量水井間は内徑三五〇ミリ延長一三〇、七米とし、濾過池配水池間は内徑三五〇粍延長一九一、九米とす。

市街鐵管布設は配水池より内徑四五〇ミリにて多治見街道に出て此間一〇二、五米其れより公園橋附近にて瀨戸川を南北に分岐す。

南部幹線は末廣町を通り蛭子橋迄内徑三五〇ミリ其れより三〇〇ミリ南本町榮國寺前より瀨戸大橋附近茨橋に出て其れより内徑二五〇ミリにて新開地ブール前迄其れより内徑二〇〇ミリにて吉田橋通りは内徑一〇〇ミリとす幹線各部より内徑一五〇ミリ及一〇〇ミリにより縱横に分岐す北部幹線は公園下より瀨戸川を横斷し東橋、中橋、宮脇橋等瀨戸川北岸を通り神明橋に至る其れより内徑三〇〇及二五〇ミリにて警察署北裏を通り瀨戸電車を踏切り縣道に出て其れより約二五五米にて内徑二〇〇ミリとなり古田橋通りに至り内徑一〇〇ミリとなるものとす幹線各部より縱横に内徑一五〇及一〇〇ミリにより分岐す。

○南北幹線の連絡は瀨戸川を伏越し窯神橋下流にて内徑二〇〇ミリ、十三橋下流にて二五〇ミリ吉田橋下流にて一五〇ミリの三ケ所とす何れも川底より約深一米に布設し鐵管上半徑を混凝土配合一、三、六にて厚約〇、一五にて被覆するものとす。

鐵管内泥吐は公園橋、神明橋、瀨戸大橋下流、縣過假橋附近、十三橋、古田橋の六ケ所とし何れも瀨戸川へ排水するものとす。

排氣弁は全數十個所にして地盤高き峠及川伏越等の個所に設置し通水を完全ならしむ。

制水弁は内徑四五〇ミリ乃至七五ミリにして各幹線の各所は勿論分岐には必す弁を設置し一部斷水の便とし又火災の際に其給水區域を縮少し必要區域に集注せしむるの便に備ふるものとす幹線用内徑三〇〇ミリ以上の制水弁には弁室を設けたると言へとも其れ以下に對しては丸形鐵蓋をなしたり其内徑別制水弁數左の如し。

内徑四五〇ミリ	二個	内徑三五〇ミリ	三個
同　三〇〇ミリ	三個	同　二五〇ミリ	三個
同　二〇〇ミリ	二個	同　一五〇ミリ	三七個
同　一〇〇ミリ	一五九個	同　七五ミリ	四個
計	二一三個		

消火栓は單口にして排水口に町野式二吋二分一を市内三百十八個を混凝土枠内に設置し非常火災の際は直結放水、タンク内に喞筒サクションホース二個にて放水又は喞筒直結等の用意に資したるものとす。

○電車横斷は五ヶ所にして敷及壁は混凝土配合一、三、六にて溝形を造り鐵管周圍は「アスファルト」ジュート巻にして電氣絕緣とし厚〇、一五米の鐵筋蓋をなし其上に砂利約〇、六米を敷き線路軌條下に及ぶものとす市街配水鐵管の總延長九里五丁一六、五間にして内徑別左の如し。

内徑四五〇ミリ	七〇七、一一米	内徑三五〇ミリ	一、二三九、四九米
仝　三〇〇ミリ	一、四七八、一九米	仝　二五〇ミリ	一、六二四、九〇米
仝　二〇〇ミリ	八〇三、七五米	仝　一五〇ミリ	七、六二八、九九米
仝　一〇〇ミリ	二二、〇四五、三八米	仝　七五ミリ	三九三、〇九米
計	三五、九二〇、九〇米即ち一九、七五六、五間		

○古瀬戸粘土及硝子業者へ字紺屋田市有溜池より各業者間への送水は溜池内に混凝土取水桝内法幅二、六尺長深共四尺を設置し其れより内徑一五〇ミリ鐵管延長四八六、九米ヲ布設導水し其れより瓦斯管内徑七五ミリ二七、三米仝五〇ミリ一〇六、一米仝二五ミリ一一九、七米を以て需用戸數一〇戸へ給水せるものとす。

愛知縣瀬戸市上水道工事豫算書

一、金六拾九萬圓　　工事費

内譯

一、金四萬貳千參百七拾圓　　賠償費

八、九九〇、〇買收費　一、八九〇、〇借入費　三一、四九〇、〇補償費

二、金拾萬壹千參百六拾圓　　導水線路費

六、七〇〇、〇猿投本谷導水設備費　三九、三五〇、〇仝上鐵管及布設費

五、三一〇、〇猿投西谷導水設備費　三五、六六〇、〇仝上鐵管及布設費

一、一三〇、〇着水井費　二、八六〇、〇導水樋布設費

七、一五〇、〇導水線路費　三、二〇〇、〇導水々路費

三、金八萬貳千九百圓　　貯水池費

五八、〇八四、〇堰堤費
一、四五〇、〇土堰堤修築費
一〇、〇八六、〇雜工事費
四、金六萬貳千五百四拾參圓
三八、二五八、〇濾過池費
一五、七九〇、〇土工費
五、金四萬四千貳百參拾五圓
二六、四二五、〇配水池費
一〇、〇九〇、〇土工費
六、金拾六萬九千五百七拾圓
四、二四九、〇配水線路費
一二一、四八五、〇市街鐵管費
一、五一七、〇雜工事費
七、金壹萬六千六百五拾圓
八、金貳千六百圓
九、金四千五百七拾八圓
一〇、金壹萬參千百圓
一一、金拾貳萬九千百四拾貳圓
五五、三一八、〇俸給費
二、七四一、〇需用費
一二、金壹千參百七拾圓
七七〇、〇電話建設費
五〇、〇移轉料
一三、金壹萬九千四百四拾圓
一四、金壹百四拾貳圓

瀨戸市會第拾五號議案　昭和六年二月二十七日議決

昭和五年一月二十八日議決上水道布設目論見書別紙ノ通リ施行スルモノトス
但シ工費ノ總額其ノ收入支出ノ方法及豫算其他ニ付テハ附屬書ノ通リトス

一〇、二一〇、〇溢流費
三、〇七〇、〇砂防堰堤費

濾過池費
五、五九二、〇鐵管及布設費
二、九〇〇、〇雜工事費

配水池費
五、二〇〇、〇鐵管及布設費
二、五二〇、〇雜工事費

配水費
五、四四一、〇送水鐵管及布設費
三六、八七八、〇鐵管布設費

器具機械費
測量製圖費
檢查費
建築費
事務費
七一、〇八三、〇雜給費

電話費
五五〇、〇電話料

雜費
豫備費

昭和六年二月二十七日提出

瀬戸市長　小出釰三

愛知縣瀬戸市上水道布設目論見書

第一　水道事務所ノ所在地

瀬戸市役所内

第二　水源ノ位置

瀬戸市大字赤津字白坂谿流及同市大字赤津字山路谿流ヨリ導水シ尚同市大字拜戸俗稱馬ケ城ノ谿流水トス

水量及水質ハ別紙説明書ノ通リトス

第三　水道線路ハ瀬戸市内トス

第四　給水區域ハ瀬戸市内トス

人口ハ昭和五年十月現在參萬七千貳百八拾四人ニシテ水量一人一日ノ最大給水量ヲ四立方尺トス

第五　人口增殖及給水量見込

人口增殖ノ割合ハ大正十四年十月參萬五千七百拾人昭和五年十月參萬七千貳百八拾四人ニシテ五ケ年間ニ於ケル增加平均ハ每年參百拾四人トナルモ當市地勢ノ關係上給水不能ナル戸數九百六拾戸此人口四千四百五拾四人給水可能見込戸數七千貳百九拾九戸此人口參萬貳千八百四拾八人ナリ然レトモ給水引用戸數ハ普通百分ノ八十ナルヲ以テ即チ戸數ニ於テ五千八百參拾九戸此人口貳萬六千貳百七拾八人トナルモ累年ノ增加率ヲ見込計劃人口ヲ參萬五千人トセリ

水道完成ノ後ハ益々增殖多キヲ豫想シ貯水池、濾過池、配水池及市内配水小管ハ人口參萬五千人ニ對シ設計セシモ配水本管ハ四萬壹千人ヲ豫想シ設計セリ

第六　水壓ノ概算ハ有効最大水頭百拾參尺トス

第七　工事方法ハ設計説明書ノ通リトス

第八　起工ハ昭和六年四月竣工ハ昭和八年三月トス

第九　工費ノ總額ハ金六拾九萬圓トス

第十　給水料徴收ノ方法竝經常費收支概算ハ別紙ノ通リトス

自昭和五年度
至昭和七年度　愛知縣瀨戸市上水道布設費收支方法

收　入

一金七拾四萬五千百四拾貳圓　總收入高

內譯

金貳千圓　國庫補助額
金八百圓　縣費補助額
金六拾八萬七千貳百圓　市債額
金五萬五千百四拾貳圓　(市債利子)市費繰入額

支　出

一金七拾四萬五千百四拾貳圓　總支出高

內譯

金七千八百圓　賠償費
金七萬八千七百九拾圓　導水線路費
金九萬四千四百四拾圓　貯水池費
金七萬參千四百參拾圓　濾過池費
金七萬壹千百六拾圓　配水池費
金貳拾貳萬七千九百六拾圓　配水器具機械費
金壹萬八千貳百六拾圓　測量製圖費
金壹千六百五拾圓　檢查費
金六千參百圓　建築費
金壹萬五千百圓　事務費
金八萬參千百貳拾圓　電話費
金參千九百貳拾圓　雜費
金四千八百六拾圓　豫備費
金參千貳百拾圓　市債利子
金五萬五千百四拾貳圓

愛知縣瀨戸市上水道布設費繼續費收支計算表

收入

科目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	計	說明
款	項	円	円	円	円	種目	金額
一補助金	一國庫補助金	—	一、四〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一國庫補助金	二、〇〇〇
	二縣費補助金	—	四〇〇	四〇〇	八〇〇	一縣費補助金	八〇〇
二市債	一市債	一九〇、〇〇〇	二四八、六〇〇	二四八、六〇〇	六八七、二〇〇	一市債	六八七、二〇〇
三市費繰入金	一市費繰入金	七七五	一七、七八	三六、五八九	五五、一四三	一市費繰入金	五五、一四三
計		一九〇、七七五	二六七、七八	二八六、五八九	七四五、一四三		

支出

科目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	計	說明
款	項	円	円	円	円	種目	金額
一工事費	一賠償費	三、六〇〇	二、八〇〇	一、四〇〇	七、八〇〇	一買收費	三、三九八
	二導水線路費	二三、九四〇	三四、六〇〇	二〇、三九〇	七八、七九〇	二借入費	二、四〇〇
						三補償費	二、〇〇二
						一猿投本谷導水設備費	三、二六〇
						二猿投本谷導水布設費	八、四二〇
						三猿投西谷導水設備費	七、四二〇
						四猿投西谷導水布設費	二七、三四〇
						五着水井費	一、三五〇
						六導水管布設費	四、八〇〇
						七導水隧道費	三、二〇〇

八導水水路費	四、一〇〇	九四、四四〇	一堰堤費	六二、四五〇	九、六一〇	三貯水池費
			二溢流費	二一、九四〇		
			三土堰堤費	一、四九〇		
			四雜工事費	八、五一〇		
四濾過池費	一、五九〇	七三、四三〇	一濾過池費	五二、七六〇	二六、五一〇	
			二鐵管及布設費	六、五八〇		
			三敷地土工費	二三、五〇〇		
			四雜工事費	一、五九〇		
五配水池費	二、一一〇	七一、二六〇	一配水池費	五〇、九〇〇	三七、〇〇〇	
			二鐵管及布設費	八、一一〇		
			三敷地土工費	九、六五〇		
			四雜工事費	二、五〇〇		
六配水費	二六、四〇〇	三三七、九六〇	一配水線路費	四、四〇〇	三二、九〇〇	
			二送水鐵管及布設費	五、二六〇		
			三鐵管費	一五五、六二〇		
			四鐵管布設費	五九、〇八〇		
			五雜工事費	三、六〇〇		
七器具機械費	四、二〇〇	一八、二六〇	一器具機械費	一八、二六〇	一〇、〇〇〇	
八測量製圖費	一、〇〇〇	一、六五〇	一測量製圖費	一、六五〇	四三〇	
九檢查費	一〇〇	六、三〇〇	一檢查費	六、三〇〇	三、一〇〇	
一〇建築費	二〇〇	一五、一〇〇	一建築費	一五、一〇〇	一四、一〇〇	
一一事務費	一〇、四九〇	八三、一三〇	一俸給	四一、二四〇	三九、七一〇	
			二雜給	三八、七五〇		
			三需用費	三、一三〇		
一二電話費	二、五五〇	三、九一〇	一電話費	三、九一〇	一、二五〇	

一雜費	一、七一〇	一、七五〇	一、四〇〇	四、八六〇	一雜費	四、八六〇
一豫備費	二、五〇〇	四六〇	二五〇	三、二一〇	一豫備費	三、二一〇
二市債利子						
一市債利子	七七五	一七、七七八	三六、五八九	五五、一四三	一市債利子	五五、一四三
合計	一九〇、七七五	一七、七七八	三六、五八九	五五、一四三		
	二六七、七七八					
			二六六、五八九			
				七四五、一四三		

瀨戶市會第拾六號議案　　昭和六年二月二十七日議決

昭和五年一月二十八日議決上水道布設費繼續年期及支出方法ヲ左ノ通リトス

自昭和五年度
至昭和七年度愛知縣瀨戶市上水道布設費繼續年期及支出方法

一金七拾四萬五千百四拾貳圓　　上水道布設費

內譯

金拾九萬七百七拾五圓　　昭和五年度支出額
金貳拾六萬七千七百七拾八圓　　昭和六年度支出額
金貳拾八萬六千五百八拾九圓　　昭和七年度支出額

昭和六年二月二十七日提出

瀨戶市長　小出飢三

愛知縣瀨戶市上水道布設費豫算書

一金七拾四萬五千百四拾貳圓

內譯

金七千八百圓	賠償費
金七萬八千七百九拾圓	導水線路費
金九萬四千四百四拾圓	貯水池費
金七萬參千四百參拾圓	濾過池費
金七萬壹千百六拾圓	配水池費
金貳拾貳萬七千九百六拾圓	配水費
金壹萬八千貳百六拾圓	器具機械費
金壹千六百五拾圓	測量製圖費

金六千參百圓　檢查費
金萬萬五千百圓　建築費
金八萬參千百貳拾圓　事務費
金參千九百貳拾圓　電話費
金四千八百六拾圓　雜費
金參千貳百拾圓　豫備費
金五萬五千百四拾貳圓　市債利子

愛知縣瀨戸市上水道布設費繼續費收支計算表

收入

科目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	計	說明
款項	円	円	円	円	種目 金額
一補助金					
一國庫補助金	—	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇	一國庫補助金 二、〇〇〇
二縣費補助金	—	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一縣費補助金 八〇〇
二市債					
一市債	二九〇、〇〇〇	二四八、六〇〇	二四八、六〇〇	六八七、二〇〇	一市債 六八七、二〇〇
三市費繰入金					
一市費繰入金	七七五	一七、七七八	三六、五八九	五五、一四三	一市費繰入金 五五、一四三
計	二九〇、七七五	二六七、七七八	二八六、五八九	七四五、一四三	

支出

科目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	計	說明
款項	円	円	円	円	種目 金額
一工事費	二九〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	六九〇、〇〇〇	一買收費 三、三九八
一賠償費	三、六〇〇	二、八〇〇	一、四〇〇	七、八〇〇	二借入費 二、四〇〇
					三補償費 二、〇〇二

二導水線路費	二三、九四〇	三四、六〇〇	二〇、二五〇	七八、七九〇	一猿投本谷導水設備費	三、二六〇
					二猿投本谷導水鐵管及布設費	八、四三〇
					三猿投西谷導水設備費	七、四三〇
					四猿投西谷導水鐵管及布設費	二七、三四〇
三貯水池費	九、六一〇	二六、五一〇	五八、三一〇	九四、四四〇	五着水井費	一、二五〇
					六導水管布設費	四、八〇〇
					七導水隧道費	三三、二〇〇
					八導水水路費	四、一〇〇
四濾過池費	一、五九〇	一六、三八〇	五五、四六〇	七三、四三〇	一堰堤費	六二、四七〇
					二溢流費	二一、九七〇
					三土堰堤費	一、四九〇
					四雜工事費	八、五一〇
					一濾過池費	五三、七六〇
					二鐵管及布設費	六、五八〇
					三敷地土工費	二二、五〇〇
					四雜工事費	一、五九〇
五配水池費	二、一一〇	三七、〇〇〇	三一、〇五〇	七一、一六〇	一配水池費	五〇、九〇〇
					二鐵管及布設費	八、一一〇
					三敷地土工費	九、六五〇
					四雜工事費	二、五〇〇
六配水費	一三六、四〇〇	六八、六〇〇	三二、九六〇	三三七、九六〇	一配水線路費	四、四〇〇
					二送水鐵管及布設費	五、二六〇
					三鐵管費	一五五、六二〇
					四鐵管布設費	五九、〇八〇
					五雜工事費	三、六〇〇
七器具機械費	四、二〇〇	一〇、〇〇〇	四、〇六〇	一八、二六〇	一器具機械費	一八、二六〇
八測量製圖費	一、〇〇〇	四三〇	二三〇	一、六五〇	一測量製圖費	一、六五〇
九檢查費	一〇〇	五、一〇〇	三、一〇〇	六、三〇〇		

	一〇建築費	二〇〇	一四、二〇〇	七〇〇	一五、一〇〇	一檢査費	六、三〇〇
	二事務費	一〇、四九〇	三二、九二〇	三九、七一〇	八三、一二〇	一建築費	一五、一〇〇
						一俸給	四一、二四〇
						二雜給	三八、七五〇
						三需用費	三、一三〇
	三電話費	二、五五〇	一、二五〇	一二〇	三、九二〇	一電話費	三、九二〇
	三雜費	一、七一〇	一、七五〇	一、四〇〇	四、八六〇	一雜費	四、八六〇
	一四豫備費	二、五〇〇	四六〇	二五〇	三、二一〇	一豫備費	三、二一〇
二市債利子		七七五	一七、七七八	三六、五八九	五五、一四二		
	一市債利子	七七五	一七、七七八	三六、五八九	五五、一四二	一市債利子	五五、一四二
合計		一九〇、七七五	二六七、七七八	二八六、五八九	七四五、一四二		

瀬戸市會第拾七號議案

昭和六年二月二十七日議決

昭和五年度愛知縣瀬戸市特別會計上水道布設費歳入出豫算

歳入

一金拾九萬七百七拾五圓　歳入豫算高

歳出

一金拾九萬七百七拾五圓　歳出豫算高

歳入出差引殘金ナシ

昭和五年度愛知縣瀬戸市特別會計上水道布設費歳入出豫算

歳入

豫算			豫算説明 △印ハ減				
科目		本年度豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較増減	附記
款	項						
一補助金	一國庫補助金	円		円	円	円	

歲出

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
一國庫補助金				
二縣補助費				
一繰入金	七七五	七七五	七七五	
二市債	一九〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	
三繰入金	七七五	七七五	七七五	借入金利子
一市債	一九〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	
一繰入金	七七五	七七五	七七五	
一補助費				
一國庫補助金				
合計	一九〇、七七五	一九〇、七七五	一九〇、七七五	

豫算

豫算說明 △印ハ減

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
一工事費	一九〇、〇〇〇円		一九〇、〇〇〇円	
一賠償費	三、六〇〇		三、六〇〇	○買收費貳千五百圓
二導水線路費	二三、九四〇		二三、九四〇	○借入費參百圓 ○補償費八百圓 ○猿投本谷導水設備費
三貯水池費	九、六一〇		九、六一〇	○猿投本谷導水鐵管及壹千圓
四濾過池費	一、五九〇		一、五九〇	○猿投本谷導水鐵管及布設費四百貳拾圓 ○猿投西谷導水設備費貳千圓 ○猿投西谷導水鐵管及布設費壹萬九千參百七拾圓 ○着水井費五拾圓 ○導水管布設費八百圓 ○導水隧道費貳百圓 ○導水水路費百圓 ○堰堤費九千貳百拾圓 ○溢流費四百圓 ○濾過池費壹千圓 ○鐵管及布備費八拾圓 ○敷地土工費五百圓 ○雜工事費拾圓
一賠償費	三、六〇〇		三、六〇〇	
二導水線路費	二三、九四〇		二三、九四〇	
三貯水池費	九、六一〇		九、六一〇	
一貯水池費	九、六一〇		九、六一〇	
四濾過池費	一、五九〇		一、五九〇	
一濾過池費	一、五九〇		一、五九〇	

昭和六年二月二十七日提出

瀬戸市長　小出釩三

五配水池費	二、一一〇		二、一一〇	—	二、一一〇	○配水池費九百圓 ○鐵管及布設費百拾圓 ○敷地土工費壹千圓
		一配水池費	二、一一〇	—	二、一一〇	
六配水費	二六、四〇〇					○雜工事費百圓 ○配水線路費貳百圓 ○送水鐵管及布設費四
		一配水費	二六、四〇〇	—	二六、四〇〇	千貳拾圓 ○鐵管費拾貳萬貳千圓 ○鐵管布設費八拾圓 ○雜工事費百圓
七器械費	四、二〇〇					
		一器械費	四、二〇〇	三、三七八	八二三	
八測圖費	一、〇〇〇					
		一測圖費	一、〇〇〇	二、五六五	△一、五六五	
九檢查費	一〇〇					
		一檢查費	一〇〇	四、六五九	△四、五五九	
一〇建築費	二〇〇					
		一建築費	二〇〇	七、〇〇〇	△六、八〇〇	
二事務費	一〇、四九〇					
		一俸給	六、〇〇〇	二、一二五	△五、二七五	
		二雜給	三、七九〇	一、六九〇	△七、九〇〇	
		三需用費	七〇〇	一、二八〇	△四八〇	
二電話費	二、五五〇					
		一電話費	二、五五〇	六八五	一、八六五	
一三雜費	一、七一〇					
		一雜費	一、七一〇	—	一、七一〇	
一四豫備費	二、五〇〇					
		一豫備費	二、五〇〇	二、五九九	△九、〇九九	
二市債利子	七七五					
		一市債利子	七七五	二四、〇五〇	△二三、二七五	
一市債利子	七七五					
		一市債利子	七七五	二四、〇五〇	△二三、二七五	
合計	一九〇、七七五		一九〇、七七五	三四、〇五〇	△一五三、二七五	

瀨戸市會第十八號議案　　昭和六年二月二十七日議決

昭和六年度愛知縣瀨戸市特別會計上水道布設費歲入出豫算

歲入

一金貳拾六萬七千七百七拾八圓　　歲入豫算高

歲出

一金貳拾六萬七千七百七拾八圓　　歲出豫算高

歲入出差引殘金ナシ

昭和六年度愛知縣瀨戸市特別會計上水道布設費歲入出豫算

歲入

豫算		豫算說明（△印ハ減）		
科目	本年度豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
款項						
一補助金	一、四〇〇円	一國庫補助金	一、四〇〇円	一、〇〇〇円	四〇〇円	
			一、〇〇〇	六〇〇	四〇〇	
		二縣補助金費	四〇〇	四〇〇	—	
			四〇〇	四〇〇	四〇〇	
二市債	二四八、六〇〇	一市債	二四八、六〇〇	二三〇、〇〇〇	△七一、四〇〇	市債貳拾五萬圓ノ內
			二四八、六〇〇	二三〇、〇〇〇	△七一、四〇〇	
三繰入金	一七、七七八	一市繰入金費	一七、七七八	一七、七七八	△五、二二二	借入金利子
	一七、七七八		一七、七七八	二三、〇五〇	△五、二二二	
			一七、七七八	二三、〇五〇	△五、二二二	
合計	二六七、七七八		二六七、七七八	二四〇、〇五〇	七六、二二二	

歲出

豫算		豫算說明（△印ハ減）		
科目	本年度豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
款項						
一工事費	二五〇、〇〇〇円	一市繰入金費	二五〇、〇〇〇円	二三〇、〇〇〇円	△二〇、〇〇〇円	

一 賠償費	二、八〇〇	一 賠償費	二、八〇〇	二、八〇〇	－	－	二、八〇〇	二、八〇〇	○買收費六百圓 ○借入費壹千貳百圓 ○補償費壹千圓
二 導水線路費	三四、六〇〇	一 導水線路費	三四、六〇〇	三四、六〇〇	－	－	三四、六〇〇	三四、六〇〇	○猿投本谷導水設備費貳千圓 ○猿投本谷導水鐵管及布設費百圓 ○猿投西谷導水設備費四千圓 ○猿投西谷導水鐵管及布設費貳百圓 ○着水井費壹千圓 ○導水管布設費參千八百圓 ○導水隧道費貳万圓 ○導水水路費參千五百圓
三 貯水池費	二六、五一〇	一 貯水池費	二六、五一〇	二六、五一〇	－	－	二六、五一〇	二六、五一〇	○堰堤費貳万五千圓 ○溢流費壹千圓 ○雜工事費五百拾圓
四 濾過池費	一六、三八〇	一 濾過池費	一六、三八〇	一六、三八〇	－	－	一六、三八〇	一六、三八〇	○濾過池費七千八拾圓 ○鐵管及布設費參千圓 ○敷地土工費六千圓 ○雜工事費參百圓
五 配水池費	三七、〇〇〇	一 配水池費	三七、〇〇〇	三七、〇〇〇	－	－	三七、〇〇〇	三七、〇〇〇	○配水池費貳万五千圓 ○鐵管及布設費七千圓 ○敷地土工費四千六百圓 ○雜工事費四百圓
六 配水費	六八、六〇〇	一 配水費	六八、六〇〇	六八、六〇〇	－	－	六八、六〇〇	六八、六〇〇	○配水線路費四千圓 ○送水鐵管及布設費壹千四拾圓 ○鐵管費參万參千五百六十圓 ○鐵管布設費貳万九千五百圓 ○雜工事費五百圓
七 機械器具費	一〇、〇〇〇	一 機械器具費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、三七八	三、三七八	六、六二二	六、六二二	
八 測量製圖費	四三〇	一 測量製圖費	四三〇	四三〇	二、五六五	二、五六五	△二、一三五	△二、一三五	
九 檢査費	三、一〇〇	一 檢査費	三、一〇〇	三、一〇〇	四、六五九	四、六五九	△一、五五九	△一、五五九	
一〇 建築費	一四、二〇〇	一 建築費	一四、二〇〇	一四、二〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、二〇〇	七、二〇〇	

二 事務費	三二、九二〇		三二、九二〇	二四、一二五	八、七九五
		一 俸給	一七、六二〇	一一、二七五	六、三四五
		二 雜給	一三、九三〇	一一、六九〇	二、二四〇
		三 需用費	一、三七〇	一、一六〇	二一〇
三 電話費	一、二五〇		一、二五〇	六八五	五六五
		一 電話費	一、二五〇	六八五	五六五
三 雜費	一、七五〇		一、七五〇	—	一、七五〇
		一 雜費	一、七五〇	—	一、七五〇
四 豫備費	四六〇		四六〇	一一、五九九	△一一、一三九
		一 豫備費	四六〇	一一、五九九	△一一、一三九
水源費	—		—	五七、九三五	△五七、九三五
水道線路費	—		—	六、〇七五	△六、〇七五
濾水場及配水池費	—		—	六七、三九〇	△六七、三九〇
配水管工費	—		—	二七、六〇〇	△二七、六〇〇
運搬費	—		—	四、三六四	△四、三六四
補償費	—		—	二、六二五	△二、六二五

○技師年俸貳千五百圓壹人
○技手四人一人平均月俸百圓此金四千八百圓
○技手補六人一人平均月俸六拾圓此金四千參百貳拾圓
○書記四人一人平均月俸八拾圓此金參千八百四拾圓
○書記補四人一人平均月俸四拾五圓此金貳千百六拾圓

○現場手當參千八百四拾圓
○小使四人一人平均壹ヶ月貳拾八圓此金壹千參百四拾四圓
○給仕四人一人平均壹ヶ月拾貳圓此金五百七拾六圓
○職工工夫八人平均日給貳圓五拾錢延貳百四拾人此金六百圓
○吏員以下賞與參千百七拾圓
○旅費壹千六百圓
○報酬壹千圓
○慰勞及死傷手當壹千八百圓

二市債利子		一七、七五八		一七、七五八	二四、〇五〇	△六、二三
	一市債利子	一七、七五八		一七、七五八	二四、〇五〇	△六、二三
合計		三六七、七五八	一市債利子	一七、七五八	二四、〇五〇	△六、二三
				三六七、七五八	三四、〇五〇	△七、二三

昭和六年二月二十七日提出

瀬戸市長　小出釩三

瀬戸市會第二七號議案　　昭和十一年三月十二日議決

繼續費變更ノ件

本市上水道布設費繼續年期及支出方法ヲ左ノ通リ變更スルモノトス

昭和十一年三月十二日提出

瀬戸市長　泉崎三郎

記

自昭和五年度
至昭和十一年度愛知縣瀬戸市上水道布設費繼續年期及支出方法

一金七拾參萬九千貳百貳拾五圓

内譯

金拾九萬七百七拾五圓　昭和五年度支出額
金貳拾六萬七千七百七拾八圓　昭和六年度支出額
金拾五萬參千八圓　昭和七年度支出額
金七萬壹千參百四圓　昭和八年度支出額
金四萬四千百七拾圓　昭和九年度支出額
（既定額金壹萬貳千百九拾圓）
金壹萬貳千百參拾圓　昭和十年度支出額
金六拾圓　昭和十一年度支出額

說明

本案ヲ發スル所以ハ工事ノ都合ニ依リ事業ノ繰延ヲ行ハムトスルニ由ル

愛知縣瀨戸市上水道布設費繼續費變更收支計算表

收入

科目 款	科目 項	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	計	說明 種目	說明 金額
一 補助金		円	一、四〇〇円	一、二〇〇円	—円	—円	—円	—円	二、六〇〇円		円
	一 國庫補助金		一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	—	—	—	二、〇〇〇	一 國庫補助金	二、〇〇〇
	二 縣費補助金		四〇〇	二〇〇	—	—	—	—	六〇〇	一 縣費補助金	六〇〇
二 市債		一九〇、〇〇〇	二四八、八〇〇	二四八、八〇〇	—	—	—	—	六八七、四〇〇		
	一 市債	一九〇、〇〇〇	二四八、八〇〇	二四八、八〇〇	—	—	—	—	六八七、四〇〇	一 市債	六八七、四〇〇
三 繰入金		七七五	一七、七七八	三〇、六七二	—	—	—	—	四九、二二五		
	一 市費繰入金	七七五	一七、七七八	三〇、六七二	—	—	—	—	四九、二二五	一 市費繰入金	四九、二二五
計		一九〇、七七五	二六七、七七八	二八〇、六七二	—	—	—	—	七三九、二二五		

昭和十一年度支出額金六拾圓ハ前年度繰越金ヲ以テ充當ス

支出

科目 款	科目 項	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	計	說明 種目	說明 金額
一 工事費		一九〇、〇〇〇円	二五〇、〇〇〇円	一三、三三六円	七一、三〇四円	四四、一七〇円	三一、一三〇円	六〇円	六九〇、〇〇〇円		円
	一 賠償費	三、六〇〇	二、八〇〇	一、三七〇	一〇	五	三	三	七、八〇〇	一 買收費	三、三九八
										二 借入費	二、四〇〇
										三 補償費	二、〇〇二
	二 導水線路費	三、九四〇	三四、六〇〇	一、三五〇	七、八八〇	二、一二〇	八、八九七	三	七八、七九〇	一 猿投本谷導水設備費	三、二六〇

三　貯水池費	九、六一〇	二六、五一〇	三五、七七〇	八、七六〇	一三、七七〇	二〇	〇	九四、四四〇
四　濾過池費	一、五九〇	一六、三八〇	四四、九六五	三、一一五	七、三六〇	二〇	〇	七三、四三〇
五　配水池費	二、一一〇	三七、〇〇〇	二一、一〇〇	六、〇三〇	四、九〇〇	二〇	〇	七一、一六〇
六　配水費	一二六、四〇〇	六八、六〇〇	一、八三〇	一九、五九〇	一一、五二〇	一七	三	二三七、九六〇

二　猿投本谷導水鐵管及布設費	八、四二〇
三　猿投西谷導水設備費	七、四二〇
四　猿投西谷導水鐵管及布設費	二七、三四〇
五　着水井費	一、二五〇
六　導水樋築造費	四、八〇〇
七　導水路線築造費	三、二〇〇
八　導水路費	四、一〇〇
一　堰堤費	六二、四七〇
二　溢流費	二二、九七〇
三　土堰堤費	一、四九〇
四　雜工事費	八、五一〇
一　濾過池費	五二、七六〇
二　鐵管及布設費	六、五八〇
三　敷地土工費	一三、五〇〇
四　雜工事費	一、五九〇
一　配水池費	五〇、九〇〇
二　鐵管及布設費	八、一一〇
三　敷地土工費	九、六五〇
四　雜工事費	二、五〇〇
一　配水線路費	四、四〇〇
二　送水鐵管及布設費	五、二六〇
三　鐵管費	一二五、六二〇
四　鐵管布設費	五九、〇八〇

	七 機械器具費	四、二〇〇	一〇、〇〇〇	二、〇六〇	一、〇〇〇	五〇〇	四九五	五	一八、二六〇
	八 測量製圖費	一、〇〇〇	四三〇	一七〇	一〇	二〇	一〇	一〇	一、六五〇
	九 檢査費	一〇〇	三、一〇〇	一、一〇〇	二〇〇	八二〇	九七〇	一〇	六、三〇〇
	一〇 建築費	二〇〇	一四、二〇〇	四六〇	四〇	一〇〇	九八	二	一五、一〇〇
	一一 事務費	一〇、四九〇	三二、九二〇	一〇、七二二	二四、五九九	二、九一〇	一、四七七	三	八三、一二〇
	一二 電話費	二、五五〇	一、二五〇	二〇	五〇	四〇	九	一	三、九二〇
	一三 雜費	一、七一〇	一、七五〇	一、三八〇	一〇	五	四	一	四、八六〇
	一四 豫備費	二、五〇〇	四六〇	四〇	一〇	一〇〇	八一	一九	三、二一〇
二 市債利子		七七五	一七、七七八	三〇、六七二	—	—	—	—	四九、二三五
	一 市債利子	七七五	一七、七七八	三〇、六七二	—	—	—	—	四九、二三五
合計		一九〇、七七五	二六七、七七八	一五三、〇〇八	七一、三〇四	四四、一七〇	二二、一三〇	六〇	七三九、二二五

五 雜工事費	三、六〇〇
一 機械器具費	一八、二六〇
一 測量製圖費	一、六五〇
一 檢査費	六、三〇〇
一 建築費	一五、一〇〇
一 俸給	四一、二四〇
二 雜給	三八、七五〇
三 需用費	三、一三〇
一 電話費	三、九二〇
一 雜費	四、八六〇
一 豫備費	三、二一〇
一 市債利子	四九、二三五

瀬戸市會第二八號議案

昭和十年度愛知縣瀬戸市上水道布設費歲入歲出追加更正豫算

歲入

歲入既定豫算高　金壹萬貳千百九拾圓

歲入追加更正豫算高　金壹萬貳千百參拾圓

歲出

金壹萬貳千百九拾圓

金壹萬貳千百參拾圓

歲入歲出差引殘高ナシ

歲出既定豫算高

歲出追加更正豫算高

昭和十年度愛知縣瀨戸市上水道布設費歲入歲出追加更正豫算

歲入

豫算說明

款項目	追加更正豫算額	種目	追加更正豫算額	既定豫算額	增減△印	附記
一繰越金	三、一二九円	一繰越金	三、一二九円	三、一二九円	△六一	
前年度繰越金	三、一二九	前年度繰越金	三、一二九	三、一九〇	△六一	
二雜入	一	一雜入	一	一		
二雜入	一	一雜入	一	一	△一	前年度剩餘金
歲入合計	三、一三〇		三、一三〇	三、一九〇	△六〇	不用品賣却代

歲出

豫算說明

款項目	追加更正豫算額	種目	追加更正豫算額	既定豫算額	增減△印	附記
一設費本年度支出額						
上水道布設費本年度支出額	三、一三〇円	一賠償費	三、一三〇円	三、一九〇円	△六〇円	○買收費四圓○借入費一圓○補償費七圓
上水道布設費本年度支出額	三、一三〇	一賠償費	三	一五	△一二	○猿投本谷導水設備費六七五圓○同鐵管及布設費三、五五二圓○同西谷導水設備費五五〇圓○同鐵管及布設費二、二〇五圓○着水井費一四二圓○導水樋布設費四五圓○導水線路築造費四〇六圓○導水路築造費一六二圓
		二導水線路費	八、八九七	八、九〇〇	△三	

歲出合計	三、一三〇			
三　貯水池費	二〇	二〇	｜	○堰堤費一七圓○溢流費一圓○土堰堤費一圓○雜工事費一圓
四　濾過池費	二〇	二〇	｜	○濾過池費一五圓○敷地鐵管及布設費一圓○土工費三圓○雜工事費一圓
五　配水池費	二〇	二〇	｜	○配水池費一五〇圓○鐵管及布設費一圓○敷地土工費三圓○雜工事費一圓
六　配水費	一七	二〇	△三	○配水線路費一圓○送水鐵管及布設費一圓○鐵管費一一圓○鐵管布設費三圓○雜工事費一圓
七　器具機械費	四九五	五〇〇	△五	器具機械費
八　測量製圖費	一〇	二〇	△一〇	測量製圖費
九　檢查費	九七〇	九八〇	△一〇	檢查費
一〇　建築費	九八	一〇〇	△二	建築費
一一　事務費	一、四七七	一、四八〇	△三	
一二　電話費	九	一〇	△一	電話費
一三　雜費	四	五	△一	雜費
一四　豫備費	八一	一〇〇	△一九	豫備費
	三、一三〇	三、一九〇	△六〇	

昭和十一年三月十二日提出

瀬戸市長　泉崎三郎

瀬戸市會第二九號議案

昭和十一年度愛知縣瀬戸市上水道布設費歲入歲出豫算

歲入

一金六拾圓　歲入豫算高

歲出

一金六拾圓　歲出豫算高

歲入歲出差引殘金ナシ

昭和十一年度愛知縣瀨戸市上水道布設費歲入歲出豫算

歲入

豫算

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減△印減	附記
款 項				
一繰越金	五円	五円	△二、〇七〇円	
一繰越金	五	五、二九〇	△二、〇七〇	
二雜入				
一雜入	一	一	〇	
一雜入	一	一	〇	
歲入合計	六	五、二九〇	△二、〇七〇	

豫算說明

種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減△印減	附記
一繰越金	五円	五円	△二、〇七〇円	
一繰越金	五	五、二九〇	△二、〇七〇	前年度剩餘金
一雜入	一	一	〇	
一雜入	一	一	〇	
一雜入	一	一	〇	

歲出

豫算

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減△印減	附記
款 項				
上水道布設費本年度支出額	六〇円	三、一三〇円	△三、〇七〇円	
上水道布設費本年度支出額	六〇	三、一三〇	△三、〇七〇	

豫算說明

種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減△印減	附記
一賠償費	三	一三	△九	○買收費一圓○借入費一圓○補償費一圓
二導水線路費	三	八、八九七	△八、八九四	○猿投本谷導水鐵管布設費一圓○仝西谷導水鐵管布設費一圓○導水線路費一圓
三配水費	三	一七	△一四	○鐵管費一圓○鐵管布設費一圓○雜工事費一
四機械器具費	五	四九五	△四九〇	圓
五測量製圖費	一〇	一〇	〇	測量製圖費
六檢查費	一〇	九七〇	△九六〇	檢查費
七建築費	二	九八	△九六	建築費
八事務費	三	一、四七七	△一、四七四	事務費
九電話費	一	九	△八	電話費

歳出合計	六〇	二〇雜費	一	四	△ 三	雜費
		二豫備費	一九	八一	△ 六二	豫備費
		貯水池費	—	二〇	△ 二〇	
		濾過池費	—	二〇	△ 二〇	
		配水池費	—	二〇	△ 二〇	
			六〇	二二、一三〇	△二二、〇七〇	

昭和十一年三月十二日提出

瀬戸市長　泉崎三郎

◎資金調達

水道布設工事費ハ金六拾九萬圓ニシテ國庫並ニ縣費補助金ハ同工事費ヲ限度トセル精算補助ナルモ今指令額ヲ述ブレバ國庫補助額ハ工事費ノ四分ノ一金拾七萬貳千圓縣費補助額ハ同七分ノ一金九萬八千五百七拾壹圓ナリ補助額合計貳拾七萬五百七拾壹圓ナリ故ニ市費負擔額ハ四拾壹萬九千四百貳拾九圓ニシテ工事費ノ約六分ノ一强ナリ。

然レトモ國庫補助ハ二十四ケ年縣費補助ハ二十二ケ年間ニ不均等ニ交附アルヲ以テ工事ノ着手ニ當テハ借入金ノ必要ヲ生ス本市ハ次ノ通リ借入金ヲナセリ。

借入金ハ工事費六拾九萬圓全額起債ヲナシ得ル認可アルモ實際ノ借入ニ付テハ六年七年ノ両年度ハ國庫及縣費補助額金貳千六百圓ノ交附アルヲ以テ借入金總額ハ六拾八萬七千四百圓トス借入年月借入先及利率ハ左ノ通リトス。

借入年月	償還年月	借入金	利率	借入先
昭和六年六月	同廿五年三月	一五六、〇〇〇・〇〇円	四分二厘	内務省地方貸付資金
同　七年六月	同廿六年三月	一〇二、五〇〇・〇〇	四分二厘	同
同　八年三月	同廿七年三月	四八、八〇〇・〇〇	三分二厘	同
同　八年三月	同廿八年三月	三三〇、一〇〇・〇〇	五分五厘	簡易生命保險局
同　八年九月	同廿八年三月	五〇、〇〇〇・〇〇	五分五厘	同
計		六八七、四〇〇・〇〇	平均四分八厘五毛	

但シ別紙起債方法書ニ據リ工事期間即チ昭和五、六、七年ハ据置トシ其ノ間ニ於ケル利子ハ一般市費ヨリ支辨シタリ。

昭和九年九月簡易生命保險局ヨリ年利五分五厘借入ノ分ヲ繰上償還シ年利四分四厘市債發行ヲナシ昭和十年度ヨリ十八ケ年償還トナセリ其結果借入金全額ノ平均利率ハ年四分二厘七毛ニ減少シ利子總額ニ於テ參萬參千九百貳拾七圓餘ノ剩餘ヲ得タリ。

上水道布設費起債方法

一、起債金額　金六拾九萬圓也

一、起債ノ目的　水道布設費ニ充當ス

一、借入金利率　年六朱五厘以内

一、借入先　地方貸付資金、遞信省簡易保險局又ハ銀行其他

一、借入時期　昭和五年度金拾九萬圓、昭和六年度金貳拾五萬圓、昭和七年度金貳拾五萬圓、但借入時期ハ工事ノ都合又ハ經濟界ノ狀況ニヨリ總額ノ異動ヲ來サヾル範圍ニ於テ各年度間ノ起債額ヲ變更シ若クハ分割借入ヲナスコトヲ得

一、据置期間　自昭和五年度至昭和七年度ノ三ケ年ハ据置トス

一、償還期限及償還方法　自昭和五年度至昭和七年度ノ三ケ年ハ利子ノミ償還シ自昭和八年度至昭和二十七年度二十ケ年賦ヲ以テ毎年度別紙年次表ノ通リ償還スルモノトス

一、償還財源　給水料其ノ他ノ收入ヲ以テシ尙不足ヲ生スルトキハ市稅ヲ以テ充當スルモノトス

一、市財政ノ都合ニヨリ繰上償還ヲナシ或ハ償還年期ヲ短縮シ又ハ低利債ノ借替ヲ爲スコトヲ得

上水道借入金償還年次表

年次	年度	償還期別	元金	償還金		
				元金	利息六朱五厘	計
一	昭和五	三	一九、〇〇〇、〇〇		六、一五〇〇	六、一五〇〇

二	六	三九	月	一九〇、〇〇〇 〇〇	四四〇、〇〇〇 〇〇	—		六、一七五 〇〇	一四、三〇〇 〇〇	六、一七五 〇〇	一四、三〇〇 〇〇
三	七	三九	月	四四〇、〇〇〇 〇〇	六九〇、〇〇〇 〇〇	—		一四、三〇〇 〇〇	二三、四二五 〇〇	一四、三〇〇 〇〇	二三、四二五 〇〇
四	八	三九	月	六九〇、〇〇〇 〇〇	六八一、三五五 七一	八、六四四 二九	八、九二五 二三	二三、四二五 〇〇	二三、一四四 〇六	三一、〇六九 二六	三一、〇六九 二六
五	九	三九	月	六七二、四三〇 四八	六六三、二一五 一九	九、二一五 二九	九、五一四 七九	二二、八五四 〇〇	二二、五四四 五〇	三一、〇六九 二六	三一、〇六九 二六
六	一〇	三九	月	六五三、七〇〇 四〇	六四三、八七六 三七	九、八二四 〇三	一〇、一四三 三〇	二一、二四五 二六	二〇、九二五 九九	三一、〇六九 二六	三一、〇六九 二六
七	一一	三九	月	六三三、七三三 〇七	六二三、二六〇 一一	一〇、四七二 九六	一〇、八一三 三三	二〇、五九六 三三	二〇、二五五 九六	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
八	一二	三九	月	六一二、四四六 七八	六〇一、二八二 〇二	一一、一六四 七六	一一、五二七 六二	一九、九〇四 五三	一九、五四一 六七	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
九	一三	三九	月	五八九、七五四 四〇	五七七、八五二 一四	一二、九〇二 二六	一三、二八九 〇八	一九、一六二 〇三	一八、七八〇 二一	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一〇	一四	三九	月	五六五、五六三 〇六	五五二、八七四 五九	一三、六八八 四七	一三、一〇〇 八五	一八、三八〇 八二	一七、九六八 四四	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一一	一五	三九	月	五三九、七七三 七四	五二六、二四七 一二	一三、五二六 六二	一三、九六六 二四	一七、五四二 六七	一七、一〇三 〇五	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一二	一六	三九	月	五二一、二八〇 八八	四九七、八六〇 七四	一四、四二〇 一四	一四、八八八 八〇	一六、六四九 一五	一六、一八〇 四九	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一三	一七	三九	月	四八二、九七一 九四	四六七、五九九 二五	一五、三七二 六九	一五、八七二 三〇	一五、六九六 六〇	一五、一九六 九〇	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一四	一八	三九	月	四五一、七二六 九五	四三五、三三八 八〇	一六、三八八 一五	一六、九二〇 七七	一四、六八一 一四	一四、一四八 五二	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一五	一九	三九	月	四一八、四一八 〇三	四〇〇、九四七 三四	一七、四七〇 六九	一八、〇三八 四九	一三、五九八 六〇	一三、〇三〇 八〇	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一六	二〇	三九	月	三八二、九〇八 八五	三六四、二八四 一一	一八、六二四 七四	一九、二三〇 〇五	一二、四四四 五五	一一、八三九 二四	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一七	二一	三九	月	三五四、〇五四 〇六	三三五、一九九 〇四	一九、八五五 〇二	二〇、五〇〇 三一	一一、二一四 二七	一〇、五六八 九八	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一八	二二	三九	月	三〇四、六九八 七三	二八三、五三三 一六	二一、一六六 五七	二一、八五四 四八	九、九〇二 七二	九、二一四 八一	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
一九	二三	三九	月	二六一、六七七 六八	二三九、一一二 九三	二三、五六四 七五	二三、二九八 一〇	八、五〇四 五四	七、七七一 一九	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
二〇	二四	三九	月	二二五、八一四 八三	一九一、七五九 五四	二四、〇五五 二九	二四、八三七 〇九	七、〇一四 〇〇	六、二三三 二〇	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
二一	二五	三九	月	一六六、九二三 四五	一四一、二七八 一六	二五、六四四 二九	二六、四七七 七三	五、四二五 〇〇	四、五九一 五六	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
二二	二六	三九	月	一一四、八〇〇 四三	八七、四六一 一七	二七、三三八 二六	二八、二三六 七五	三、七三一 〇三	二、八四二 五四	三一、〇六九 二九	三一、〇六九 二九
二三	二七	三九	月	五九、二三五 四二	三〇、〇九一 三〇	二九、一四四 一二	三〇、〇九一 三〇	一、九二五 一七	九七七 四八	三一、〇六九 二九	三一、〇六八 七八
						六九〇、〇〇〇 〇〇		六一六、一四六 〇九		一、三〇六、一四六 〇九	

還集計表

（昭和九年九月二十一日最終借換后調製）

受者 株式會社	利率 0.044	簡易生命保險積立金	利率0.06	簡易生命保險積立金	利率0.06	合計	
金	円 364.000.00	借入金	円 330.100.00	借入金	円 50.000.00	借入金	円 687.172.89
年 償還	18年	据置1年	償還20年	据置 年	償還20年	据置 年	償還 年
還	金	償還	金	償還	金	償還	金
利息	計	元金	利息	計	元金	利息	計	元金	利息	計	元金	利息	計
円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
									287.21	287.21		287.21	287.21
									7.617.66	7.617.66		7.617.66	7.617.66
			4.026.49	4.026.49					16.289.42	16.289.42		16.289.42	16.289.42
		8.887.16	19.674.66	28.561.82	1.346.13	2.521.09	3.867.22	22.488.69	34.491.67	56.980.36	22.488.69	34.491.67	56.980.36
8.675.00	8.675.00	4.897.74	11.562.78	16.460.52	741.86	1.751.40	2.493.26	18.395.76	33.784.34	52.180.10	18.395.76	33.784.34	52.180.10
16.016.00	26.016.00							23.277.56	27.289.76	50.567.32	23.277.56	27.289.76	50.567.32
15.576.00	27.576.00							25.820.45	26.306.87	52.127.32	25.820.45	26.306.87	52.127.32
15.048.00	29.048.00							28.385.70	25.213.62	53.599.32	28.385.70	25.213.62	53.599.32
14.432.00	30.432.00							30.974.27	24.009.05	54.983.32	30.974.27	24.009.05	54.983.32
13.728.00	29.728.00							31.587.09	22.692.23	54.279.32	31.587.09	22.692.23	54.279.32
13.024.00	29.024.00							32.225.19	21.350.13	53.575.32	32.225.19	21.350.13	53.575.32
12.320.00	28.320.00							32.889.64	19.981.68	52.871.32	32.889.64	19.981.68	52.871.32
11.616.00	29.616.00							35.581.47	18.585.85	54.167.32	35.581.47	18.585.85	54.167.32
10.824.00	28.824.00							36.301.87	17.073.45	53.375.32	36.301.87	17.073.45	53.375.32
10.032.00	32.032.00							41.052.04	15.531.28	56.583.32	41.052.04	15.531.28	56.583.32
9.064.00	31.064.00							41.833.15	13.782.17	55.615.32	41.833.15	13.782.17	55.615.32
8.096.00	32.096.00							44.646.56	12.000.76	56.647.32	44.646.56	12.000.76	56.647.32
7.040.00	31.040.00							45.493.56	10.097.76	55.591.32	45.493.56	10.097.76	55.591.32
5.984.00	31.984.00							48.375.57	8.159.75	56.535.32	48.375.57	8.159.75	56.535.32
4.840.00	30.840.00							49.294.04	6.097.28	55.391.32	49.294.04	6.097.28	55.391.32
3.696.00	31.696.00							39.183.56	4.132.64	43.316.20	39.183.56	4.132.64	43.316.20
2.464.00	30.464.00							31.366.72	2.545.02	33.911.74	31.366.72	2.545.02	33.911.74
1.232.00	29.232.00							28.000.00	1.232.00	29.232.00	28.000.00	1.232.00	29.232.00
183.707.00	547.707.00	13.784.90	35.263.93	49.048.83	2.087.99	4.272.49	6.360.48	687.172.89	368.551.60	1.055.724.49			

九年度利息11.562.78ノ內期限前償還ノ違約金3.212.13チ含ム

九年度利息1.751.40ノ內期限前償還ノ違約金486.53チ含ム

借入金償

年度	内務省低利資金 利率 0.042 借入金 156.000.00円 据置3年 償還17年			内務省低利資金 利率 0.042 借入金 102.500.00円 据置2年 償還18年			内務省低利資金 利率 0.032 借入金 48.800.00円 据置1年 償還19年			償券引 後藤證券株 借入 据置1 償
	償還金			償還金			償還金			
	元金	利息	計	元金	利息	計	元金	利息	計	元金
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
5		287.21	287.21							
6		7.482.87	7.482.87		134.79	134.79				
7		7.176.00	7.176.00		4.711.63	4.711.63		375.30	375.30	
8	6.446.10	6.485.02	12.931.12	3.908.07	4.264.39	8.172.46	1.901.23	1.546.51	3.447.74	
9	6.719.68	6.211.44	12.931.12	4.073.93	4.098.53	8.172.46	1.962.55	1.485.19	3.447.74	
10	7.004.87	5.926.25	12.931.12	4.246.83	3.925.63	8.172.46	2.025.86	1.421.88	3.447.74	10.000.00
11	7.302.17	5.628.95	12.931.12	4.427.08	3.745.38	8.172.46	2.091.20	1.356.54	3.447.74	12.000.00
12	7.612.08	5.319.04	12.931.12	4.614.97	3.557.49	8.172.46	2.158.65	1.289.09	3.447.74	14.000.00
13	7.935.15	4.995.97	12.931.12	4.810.83	3.361.63	8.172.46	2.228.29	1.219.45	3.447.74	16.000.00
14	8.271.92	4.659.20	12.931.12	5.015.01	3.157.45	8.172.46	2.300.16	1.147.58	3.447.74	16.000.00
15	8.622.98	4.308.14	12.931.12	5.227.85	2.944.61	8.172.46	2.374.36	1.073.38	3.447.74	16.000.00
16	8.988.96	3.942.16	12.931.12	5.449.73	2.722.73	8.172.46	2.450.95	996.79	3.447.74	16.000.00
17	9.370.46	3.560.66	12.931.12	5.681.01	2.491.45	8.172.46	2.530.00	917.74	3.447.74	18.000.00
18	9.768.14	3.162.98	12.931.12	5.922.12	2.250.34	8.172.46	2.611.61	836.13	3.447.74	18.000.00
19	10.182.72	2.748.40	12.931.12	6.173.47	1.998.99	8.172.46	2.695.85	751.89	3.447.74	22.000.00
20	10.614.88	2.316.24	12.931.12	6.435.47	1.736.99	8.172.46	2.782.80	664.94	3.447.74	22.000.00
21	11.065.39	1.865.73	12.931.12	6.708.61	1.463.85	8.172.46	2.872.56	575.18	3.447.74	24.000.00
22	11.535.02	1.396.10	12.931.12	6.993.32	1.179.14	8.172.46	2.965.22	482.52	3.447.74	24.000.00
23	12.024.57	906.55	12.931.12	7290.13	882.33	8.172.46	3.060.87	386.87	3.447.74	26.000.00
24	12.534.91	396.21	12.931.12	7.599.53	572.93	8.172.46	3.159.60	288.14	3.447.74	26.000.00
25				7.922.04	250.42	8.172.46	3.261.52	186.22	3.447.74	28.000.00
26							3.366.72	81.02	3.447.74	28.000.00
27										28.000.00
	156.000.00	78.775.12	234.775.12	102.500.00	49.450.70	151.950.70	48.800.00	17.082.36	65.882.36	364.000.00

{國庫補助¼24ヶ年交付
縣費補助½22ヶ年交付
借入金三年据置二十ヶ年償還}

愛知縣瀨戸市上水道布設費財源表

年次	年度	收入						支出				
		國庫補助金	縣費補助金	市債	市費繰入	水道純益收入	各年剩餘金	工事費	借入現在高	償還金 元金	償還金 利息	償還金 計
		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
1	5			156.000.00	287.21			9.792.12	156.000.00		287.21	287.21
2	6	1.000.00	400.00	102.500.00	7.617.66			169.728.52	102.500.00		7.617.66	7.617.66
3	7	1.000.00	200.00	428.900.00	16.289.42			510.479.36	428.900.00		16.289.42	16.289.42
4	8	1.000.00	1.500.00		45.603.36	8.877.00				22.488.69	34.491.67	56.980.36
5	9	1.000.00	8.000.00		31.398.10	11.782.00				18.395.76	33.784.34	52.180.10
6	10	1.000.00	5.500.00		32.375.32	11.692.00				23.277.56	27.289.76	50.567.32
7	11	1.000.00	4.000.00		31.435.32	15.692.00				25.820.45	26.306.87	52.127.32
8	12	1.000.00	4.500.00		28.407.32	19.692.00				28.385.70	25.213.62	53.599.32
9	13	1.000.00	5.000.00		25.291.32	23.692.00				30.974.27	24.009.05	54.983.32
10	14	1.000.00	5.000.00		20.587.32	27.692.00				31.587.09	22.692.23	54.279.32
11	15	1.000.00	5.000.00		15.883.32	31.692.00				32.225.19	21.350.13	53.575.32
12	16	5.000.00	5.000.00		7.179.32	35.692.00				32.889.64	19.981.68	52.871.32
13	17	5.000.00	5.000.00		4.475.32	39.692.00				35.581.47	18.585.85	54.167.32
14	18	5.000.00	5.000.00			43.692.00	316.68			36.301.87	17.073.45	53.375.32
15	19	7.000.00	5.000.00			47.692.00	3.108.68			41.052.04	15.531.28	56.583.32
16	20	3.000.00	2.400.00			51.692.00	1.476.68			41.833.15	13.782.17	55.615.32
17	21	3.000.00	3.500.00			55.692.00	5.544.68			44.646.56	12.000.76	56.647.32
18	22	10.000.00	2.000.00			59.692.00	16.100.68			45.493.56	10.097.76	55.591.32
19	23	10.000.00	2.000.00			63.692.00	19.156.68			48.375.57	8.159.75	56.535.32
20	24	20.000.00	4.600.00			67.692.00	36.900.68			49.294.04	6.097.28	55.391.32
21	25	30.000.00	5.000.00			71.692.00	63.375.80			39.183.56	4.132.64	43.316.20
22	26	10.000.00	3.200.00			75.692.00	54.980.26			31.366.72	2.545.02	33.911.74
23	27	30.000.00	16.771.00			79.692.00	97.231.00			28.000.00	1.232.00	29.232.00
24	28	5.000.00				83.692.00	88.692.00					
25	29	19.000.00				87.692.00	106.692.00					
計		172.000.00	98.571.00	687.400.00	266.830.31	1.014.499.00	493.575.82	690.000.00	687.400.00	687.172.89	368.551.60	1.055.724.49

◎灌漑其他補償關係

當市水道布設ニ關シ關係各町村並ニ區民ヨリ反對陳情ノアリタルモノ左ノ通リトス。

○製土及硝子業者ヨリ陳情　昭和五年九月二十六日市内大字古瀬戸業者永谷金松、河合茂八、山中磯次郎、太田三郎、大島庄太郎、山中須九郎、大竹京太郎、加納銘祐、大島鍬十ノ諸氏其使用人九十四名ヨリ馬ヶ城貯水池堰堤設置ニ付其業者ノ水源水ヲ失フノモノナリトシ反對陳情アリ其后再回ノ陳情ニ對シ代表委員永谷金松、山中磯次郎、太田三郎、加納銘祐ノ諸氏ト屢々交渉ノ結果市内字紺屋田ナル市有溜池ヲ水源トシ其ヨリ各業者各戸ヘ配水ノ施設ヲナシ圓滿解決ヲ見ルニ至レリ此工事費約貳千六百圓ヲ要セリ。

○灌漑關係ニ付陳情　當市水道補助水源ハ矢田川上流ナル市内赤津川ニシテ其施設ハ字白坂及字山路ニ導水設備ヲ設置シ馬ヶ城貯水池ヘ導水スル計畫ナリ然ルニ其下流沿岸ナル愛知郡幡山村、同猪高村、東春日井郡旭村、同守山町ノ四ヶ町村ヨリ昭和六年五月一日以降灌漑水ニ付意見書、決議書及宣言書等ヲ愛知縣廳及市ヘ提出アリタリ之ニ對シ交渉ヲ重ネタルモ解決ヲ見ルニ至ラザリシ然ルニ其后縣會議員側トシテ樋口善右工門氏、野田正昇氏、外山眞太郎氏、水野憲吾氏(地元選出)縣廳側トシテ元土木部長宮島三郎氏、現部長川越篤氏、元河港課長小坂忠一氏、現河川課長山極二郎氏、同技師水谷鏘氏等ノ熱誠懇篤ナル盡力ニ據リ昭和八年十二月圓滿解決ヲ見ルニ至レリ。

○取水堰設置ニ付陳情　市内大字赤津區民ヨリ同地内字白坂及字山路ノ導水設備設置ニ付反對陳情アリタルニ付屢々交渉ヲ重ネタルモ圓滿解決ニ至ラザリシガ其后昭和九年十二月二十一日大字赤津萬德寺ニ於テ市水道小委員並ニ立會人ト赤津二十六區委員長宮田時平、二十七區委員長鈴木仙十郎其他島代表ト協議シ漸ク覺書交換ノ運トナレリ然ル處旬日ヲ出ズシテ両委員長ノ辭職ヲ見タリ后任委員長ノ決定ヲ聞カズ反對期成同盟會ハ一時解散ノ型トナリタリ同十年五月十四日市役所ニ於テ水道小委員ト地主代表藤井淺太郎外六名ト覺書ノ内容ニ變更ヲナサズ契約書取交シヲナシタリ當初ヨリ五ヶ年ニ渉ル紛爭

モ茲ニ圓滿ナル解決ヲナスニ至レリ。

○大字赤津導水線路鐵管布設ハ瀨戸市對赤津地主代表トノ契約ノ趣意ニ基キ昭和十年九月九日私有地鐵管布設ニ付照會並ニ承諾書ヲ配達シ以來水道小委員會ト地主代表並ニ赤津選出議員ト協議ノ結果別紙要項書ニ據リ布設スルコトヽナリ各關係地主ノ承諾ハ地主代表及赤津選出議員ニヨリ得ルコトヽナリ地主ノ大部分ハ承諾セシモ加藤義一名義管理人加藤鈴太郎及加藤鈴太郎名義ノ分ニ對シテハ曩キニ瀨戸市ト赤津地主代表ト契約ナシタル一部ニ對シ二十六區內町島區ノ反對シタル事項アルニモ不拘契約ナシタルハ不都合ナリトノ理由ニ據リ鐵管布設ニ承諾ヲナサズ終ニ昭和十一年一月二十九日市長ヲ被申請人トシ土地立入禁止假處分ノ訴願ヲ名古屋區裁判所ニナシタリ口頭辯論ノ結果三月五日假處分ノ申請ハ之ヲ棄却スノ判決アリタルモ尙鐵管布設ニ付テハ承諾セズ各市議員ノ調停ニモ承諾ヲ得ル能ワサルニ至レリ依テ市長ハ瀨戸警察署長渡邊敏氏ニ調停ヲ依賴シタリ其后署長ハ地主代表ト町島總代トノ間ニ數次ノ交涉ヲ重ネタル結果別紙『證』ノ通リ同年四月二十六日紛爭ノ解決ヲ見タリ同時ニ鐵管布設ニ對シテモ承諾ヲ得ルニ至レリ茲ニ工事施工上支障ナキヲ得タリ。

瀨戸市營上水道施設ニ付陳情書

右ハ今回當廳ニ於テハ曩年ノ計劃ニ成ル市營上水道施設ノ議ニ付目下着々トシテ之レカ進涉方御取運中ノ趣キ豫而聽知スル所ニ因レハ右水源地ハ當區ノ上流ニ位置スル通稱（馬ケ城）附近ナルヤニ存知致居候就テハ同地ハ恰モ當區內ノ硝子原料等ニ製土業者ニ於テ從來營業上ニ補給スル其ノ水量ノ流源地ニ有之リ現今ニ及ヒ右當業者モ幾多ノ增加ヲ來シタル爲メ漸クニシテ辛シテ之レカ供給ヲ得ツヽ有之候次第若一今回當局ニ此ノ御計劃御施行ノ結果之レカ爲メ當業者唯一ノ主原トスル其給水ニ減少ヲ來スカ或ハ枯渴セントスルカ如キ場合ニ接スルニ於テハ其當業主ハ勿論之レニ從業スル幾多ノ區民等ニ其他ノ勞働等ニ至ル迄影響ハ其ノ家庭ニ及ヒ遂ニ死活ニ關係ヲ生スル事萬一無之キヤト遺憾ニ不堪ルモノニ有之リ之而ナラス當一般區民ニ於テハ其ノ上流ニ何レカ設置相成ル事

ト存居候築積貯水池工事等ニ就テモ同流域ハ一旦降雨ノ場合ハ當市内中又格別ナル增水位ヲ常ニ見ル所ニシテ從來幾多ノ其實例支障ヲ生シタル事虛幻ニ無之ク或ハ右ノ如キ施設后ニ於ケル大降雨流水ノ場合若一貯水積堤等ニ溢水ヲ爲シ之レカ欠潰ヲ生スルカ如キ事アリトセハ此ノ流域關係上當區民ハ恰モ其腋下ニ起居スルモノニ付此ノ危急ヲ避クル事全然不可能ニシテ只々之レニ溺沒スルノ途ナキ情態ニ有之リ候然シテ吾々區民ハ當局ノ御施行設備ニ迄斯樣ナル私意ヲ弄スルハ一面無理解ノ樣且又當局ノ御意向ニ對シ誠ニ恐縮ノ至リニ存候ヘ共此儘忘意スルニ忍ヒス折角本市民ノ爲メ御計劃相煩ス事吾々擧ツテ感喜致スヘキモノニ御座候單ニ吾々區民トシテ考察スレハ事重大ニ關係ヲ有スルモノヲ慮ヒ本義ニ付此邊特ト御賢察ノ上適切ナル御施行ヲ仰キ重テ之ニ對スル御聽ノ御意向拜聽仕度茲ニ吾々區民一同連署ヲ以テ

此段及陳情候也。

昭和五年九月　日

瀨戸市大字瀨戸千貳百八拾四番地　山田新作㊞

外壹百貳名

字拜戸俗稱馬ケ城ニ堰堤設置ニ付字古瀨戸粘土及
硝子粉製造業者ニ對スル送水契約書案

第一條　瀨戸市大字瀨戸字拜戸俗稱馬ケ城ニ堰堤設置ニ付同谿流水使用者タル下流字古瀨戸在住ノ粘土及硝子粉製造ニ係ル山中喜芳外九名ノ營業者ニ對シ使用水量ニ付契約スルコト左ノ如シ

第二條　現在同谿流水使用量ハ別紙略圖ニ於テ(一)ニ於テハ平均水量〇、六立方尺(二)ニ於テハ平均水量〇、五五立方尺ナルヲ以テ右水量ニ適應スベキ裝置ヲ瀨戸市ニ於テ施行スルモノトス

第三條　前條ニ對スル水源ハ差當リ字紺屋田市有溜池トシ同池排水管ヨリ鐵管ヲ布設シ字古瀨戸ヘ送水設備(各戸配水設備ヲ含ム)ヲ爲スモノトス

第四條　前條ノ設備ニ對シ水量使用者ニ於テハ有効ニ使用スルモノトス而シテ若シ其水量ニ不足ヲ生シタル時ハ各關係者ト協議ノ上市ニ於テ補充ノ方法ヲ

講スルモノトス

第五條　馬ヶ城堰堤竣功後同谿流ニ於テ使用水量アルトキハ紺屋田溜池水源其他ノ施設ヲ縮少又ハ停止スルコトアルモノトス

附　則

第六條　本契約書ハ瀬戸市並瀬戸市大字瀬戸字古瀬戸粘土及硝子粉製造業關係代表ニ各壹通ヲ領置スルモノトス

昭和七年三月十八日

愛知縣瀬戸市
右代表者　瀬戸市長

愛知縣瀬戸市大字瀬戸字古瀬戸
粘土及硝子粉製造業
代表者　尾形喜九市㊞
仝　永谷金松㊞
仝　伊藤亮㊞
仝　河合茂八㊞
仝　兒島鶴市㊞
仝　加藤光吉㊞
仝　伊藤梅次郎㊞
仝　山田新作㊞
仝　加藤蔦次郎㊞
仝　鈴木藤市㊞

決　議

瀬戸市上水道水源ヲ同市大字赤津地内矢田川上流山口川流域ヨリ引用スルハ本村灌漑用水利ノ既得權ヲ被害セラルヽニ因リ絶對之ガ反對ヲ爲ス

右決議ス

昭和六年五月一日

愛知縣愛知郡

理　由

水源地域山林濫伐ノ結果ニ伴フ砂防工事ノ奏功ニ依リ河床底下並ニ植栽樹木盛育期ニ屬シ水量激減シ殆ド連年用水ノ不足ヲ痛感スル折柄上流ニ於テ他ヘ引用セラルヽハ本村ノ死活問題ニ付之ガ阻止ノ目的ヲ貫徹スル爲メ擧村一致全力ヲ傾注シ以テ本村永遠ノ禍根ヲ絕滅セントス

矢野國太郎㊞
外五百九拾貳名

瀨戸市長　小出釰三殿
瀨戸市會議長　水野憲吾殿

意見書

今般貴市上水道布設計劃成リ之ガ水源ヲ矢田川流域ニ需メラルヽ由仄聞致候此流域沿岸ハ四ケ町村ニ跨ル耕地七百餘町歩唯一ノ灌漑用水ナルハ開陳スルマデナク御了承ノ事ニ候其灌漑水量ハ元來不充分ニテ平時ニ於テモ多大ナル勞力ト經費ヲ以テ辛ジテ需給ヲ計リ偶々早天ニ遭遇セハ忽チ水論ニ死力ヲ盡シ遂ニ鬪爭ノ慘劇ヲ生シタル實例再三ニ止マラズ特ニ近年ハ水量激減シ殆ンド旱害ヲ被リ之ニ起因シ小作問題ニ次グ思想ノ惡化ハ地方啓發ヲ阻害スル等幾多ノ障害ヲ釀シ衷心憂慮ニ堪ヘザル所ニシテ且ツ又從來經營シツヽアル水車業ノ動力モ途絕ノ運命近キニアルノ憾ミアリ斯ル不安ヲ除去スルハ焦眉ノ急ニ迫リ一昨年豫備貯水池造築ヲ企テ既ニ縣當局ノ實地踏査ヲ仰ギ指示ヲ請フ所アリシモ目下農村ノ窮乏ハ到底財務ノ許サヾル所ニシテ乍遺憾實現ニ至ラズ斯ク困憊ノ折柄貴市上水道水源ニ充用セラレ農業ノ生命タル水利ノ杜絕トナリ爲ニ生計ノ脅威ハ勿論財產價値ニ甚大ナル惡影響ヲ來シ愈々紛擾ヲ惹起スレバ自治体ノ破壞トナリ收拾シ得ザル難事ハ期シテ明ニ候願クハ農家經濟ノ窮迫シタル現狀ニ鑑ミ國本培養地方產業ニ想倒セラレ下流農民ノ危懼ノ念ヲ除去シ安定シ得ル樣情狀御洞察ノ上愼重御詮議相成度依テ茲ニ意見書及提出候也

昭和六年六月十八日

瀬戸市長　小出釰三殿

愛知縣東春日井郡旭村
松原伊三郎㊞
外五百八十五名
愛知縣東春日井郡守山町
加藤喜代松㊞
外五百二名

宣言書

今ヤ我國ノ現狀ハ經濟國難ニ直面シ特ニ農村ハ生產物ノ暴落ニ起因シ將ニ瀕死ノ狀態ニ陷リ倍〻前途不安ヲ加重シツヽアル折柄瀬戸市上水道敷設ノ計劃進捗シ不日起工式ヲ擧行セントス然ルニ其ノ內容中水源池タルヤ曩ニ灌漑水利關係町村ガ絕對反對ヲ高唱シ主務大臣ニ哀願シ屢々縣當局ニ陳情シタル同市赤津地內ニ計劃シ取入口トナシ引用許可ヲ得ルノ確信ヲ以テ專ラ工事ノ方針ヲ立ツルト仝時ニ各方面ニ策動シ殊ニ正式許可ヲ得ザル仝地內ニ水源地点ヲ表示シタル圖面ヲ公表スルガ如キハ全ク農民ノ衷情ヲ無視シタル行爲ニシテ愈々灌漑水利權ヲ橫奪セントスルノ目的顯著ナルニ至レリ斯ノ如キハ實ニ關係農民ヲシテ噴火山上ニ在ラシムルノ感アリ現下ノ世想ニ鑑ミ眞ニ憂慮ニ堪ヘス此實情ハ實ニ縣當局ニ陳情シ嚴正公平ナル批判ヲ請ヒ一面瀬戸市ノ反省ヲ求メ農民ヲシテ危惧ノ念ヲ除去スルハ目下ノ急務ナルヲ認ム

昭和六年十二月五日

幡山村
旭村
猪高村
守山町

矢田川及上流山口川水源擁護期成同盟委員總會

決議

今回瀬戸市上水道起工式擧行ニ際シ水源池反對地点ヲ明示シタル圖面ヲ添付シ矢田川水利關係ノ町村會議員ニ對シ案內狀ヲ送致シタル目的奈邊ニアルヤ其眞

意ヲ知ルヲ得ザルモ全ク關係町村ヲ輕視シ農民ヲ愚弄スルノ所爲ナリト思惟ス
依テ本會ハ益々結果ヲ鞏固ニシテ協力一致萬難ヲ排シ誓テ矢田川水源擁護ノ目
的ヲ貫徹センコトヲ期ス
右決議ス
昭和六年十二月五日
幡山村
旭村
猪高村
守山町
矢田川及上流山口川水源擁護期成同盟委員總會

昭和六年十二月十二日
愛知郡幡山村長　朝井清市郎
瀬戸市長　小出釩三殿
上水道水源池ニ關シ關係委員ト會見相成度件回答
去ル十日御市上水道水源池ノ件ニ關シ御來駕當村關係委員ト懇談被致度トノ由
ニツキ早速其ノ筋ニ通ジタルニ本日別紙ノ如キ決議文ヲ以テソノ回答ニカヘラ
レ候條乍遺憾本件ニ關スル會見懇談等ノ事ハ不可能ト存ゼラレ候ニ付不悪ズ御
諒承相成度
右回答及候也

決議

瀬戸市上水道起工式ニ際シ市當局ノ不誠意ニ端ヲ發シ關係農民多數出動シ會場
附近ヲ混亂セシメ折角ノ盛儀ニ汚点ヲ胎シタルヲ遺憾トス當日小出市長ハ關係
町村ニ絶對迷惑ヲ掛クル意志無キ旨言明シタルモ同市赤津地内水源池ニ對シテ
ハ曩ニ絶對反對ヲ決議シ市當局ニ提示シアルニ拘ラズ爾來其目的ヲ達成スベク
計劃ヲ續行シツヽアリシハ橫暴ノ所爲ナリト言ハザルヲ得ズ
然ルニ昨十日小出市長市會議員關係町村役場訪問善後策ニ付當該委員ト會見懇
談ヲ要望セラレタル由ナルモ本會ハ既往ノ實蹟ニ鑑ミ將來ノ影響ヲ數次研究審
議ヲ重ネ妥協考慮ノ餘地ナキヲ確メ絶對反對ヲ表明シアリ尙瀬戸川流域ト雖モ
更ニ水源池ニ編入セラル可キ事ハ絶對反對ナル事ヲ附加決定セリ

故ニ瀬戸市ヨリ會見協調ノ交渉ヲ受クル場合ハ隣接市町村ノ禮儀ヲ失スルニ忍ビザルモ本件ニ關シテハ今後會見ノ必要ヲ認メズ若シ會見ヲ要スル事情アリタル時ハ關係町村全委員會合ノ上ニテ交渉ニ應ズルモノトス

右決議ス

昭和六年十二月十一日

蟠山村
旭山村
守山町
猪高村

矢田川及上流山口川水源擁護期成同盟委員總會

契約書

瀬戸市上水道ニ給水ノ爲メ山口川上流及其ノ支川ノ水ヲ取水スルニ付愛知郡幡山村ト瀬戸市トノ間ニ左ノ通リ契約ヲ締結ス

一、幡山村ハ瀬戸市ガ同市大字赤津字白坂地内ニ於テ山口川上流並ニ字山路地内ニ於テ其ノ支川ヨリ取水スルコトヲ承認シ瀬戸市ハ之レガ取水ニ必要ナル設備ヲ施スモノトス但シ右工事ノ施行ニ付テハ愛知縣知事之レヲ監督ス

二、前項取水量ハ下流灌漑ニ支障ナキ場合ノ餘水ニ限ルモノトシ灌漑期中ニ於ケル余水ノ取入ニ付テハ其ノ都度愛知縣知事ノ許可ヲ得ルヲ要ス但シ灌漑關係町村代表者ノ承認ヲ得ル場合ハ此ノ限リニアラズ

三、前項取水設備ノ構造並ニ取水方法ニ就テハ灌漑ニ支障ヲ來サヾルコトヲ條件トシ愛知縣知事ノ決スル所ニヨルモノトス

四、幡山村ハ同村大字山口地内ニ工費金六萬圓ヲ以テ山口川調節池ヲ築造スルモノトシ瀬戸市ハ前項取水ニ關スル補償トシテ右調節池築造ニ要スル工費並ニ維持管理費トシテ幡山村ニ對シ金貳萬五千圓ヲ本年十二月末日迄ニ提供スルモノトス

五、幡山村ハ前項調節池築造ニ關シ設計並ニ工事施工ノ監督ヲ愛知縣知事ニ委託スルモノトス

六、幡山村ハ調節池ノ維持管理、利用其他灌漑水ニ對シ東春日井郡旭村同郡守山町及ビ愛知郡猪高村ト協定ヲ遂グルモノトス

七、瀬戸市ハ山口川上流及其支川ヨリノ取水ニヨリ下流既設水車業者ニ影響ヲ及ボスモノニ就テハ別途協議ヲ遂グルモノトス

八、本契約ニ反シ灌漑水ニ支障ヲ來シ爲メニ損害ヲ及ボシタル場合ハ瀬戸市ハ其ノ損害ニ對シ賠償スルモノトス

九、本契約ノ條項ニヨル義務ヲ履行セザル爲メ損害ヲ及ボシタル者ハ其ノ損害ニ對シ賠償ノ責ニ任ズルモノトス

右契約書ハ両者締結ノ上縣ニ關係ヲ有スル事項ハ愛知縣知事ノ承認ヲ受クルモノトシ各三通ヲ作製シ愛知縣知事、瀬戸市及幡山村ニ各一通ヲ保管スルモノトス

昭和八年十二月十四日

瀬戸市長　稻葉俊太郎㊞

愛知郡幡山村長　朝井清市郎㊞

瀬戸市上水道給水ノ爲メ山口川上流並ニ支川ヨリノ分水ニ關シ昭和八年十二月十四日幡山村ト瀬戸市トノ間ニ締結セル契約書ニ付左ノ如ク解說ス

解說書

一、契約書第一項「取水スルコトヲ承認シ」トアルハ仝契約書第二項ニ規定セル灌漑ニ支障ナキ餘水ニ限リ取水スルコトヲ承認スルノ意ナルコトヲ明示ス

二、契約書第二項中灌漑期ト稱セルハ毎年五月一日ヨリ九月三十日迄ヲ指示スルモノナルコト尙仝項中灌漑期中ノ余水ニ付テハ灌漑關係町村内山口川及矢田川筋全川ニ流水ヲ認メ且ツ愛知縣知事ノ管理スル量水所ニ於テ規定水量以上ノ水量アル場合ニ限リ愛知縣知事ノ許可ヲ受ケ又ハ灌漑關係町村代表者ノ承認ヲ得タル場合ニ限ルモノナルコトヲ明示ス但シ上記量水所ノ位置及構造並ニ規定水量ニ付テハ幡山村ニ諮問ノ上愛知縣知事ニ於テ決定セラルヽコト

三、契約書第三項取水設備構造ニ付テハ契約書各項並ニ灌漑關係者ノ意見ヲ充分尊重シ瀬戸市ニ對シ詳細ナル指示ヲ與ヘタル上設計セシメ且ツ縣ハ許可前右設備ノ適否ニ關シ幡山村ニ諮問セラルヽコト

四、白坂及山路ニ於ケル瀬戸市取水門扉開閉用鍵ハ灌漑期中愛知縣知事ニ保管ヲ委託スルコト

五、契約書第六項ノ協定ハ從來ノ灌漑狀況ニ準據シ協定スルヲ原則ト認ムルコト

六、契約書第七項ハ瀬戸市取水工事着手前協議スルコトヽシ影響ヲ及ボスモノニ付テハ相當賠償スルノ意ナルコト

本解說書ハ調停者ニ於テ三通ヲ作製シ契約書ニ添付ス

昭和八年十二月十四日

調停者　樋口善右ヱ門㊞

調停者　外山眞太郎㊞

瀬戸市長　稻葉俊太郎㊞

愛知郡幡山村長　朝井清市郎㊞

承認願

今般愛知縣瀬戸市上水道布設ニ關シ愛知郡幡山村、瀬戸市トノ間ニ別紙ノ通リ契約致候ニ就テハ右契約書中貴官ノ御承認ヲ要スル事項ニ付キ承認相成候樣致度此ノ段兩當事者連署ヲ以テ御願候也

追テ御承認ニ際シテハ兩當事者ニ於テ承諾書各一通宛保管ノ必要有之候ニ付正副二通御下附相成度候

昭和八年十二月十四日

幡山村長　朝井清市郎㊞

瀬戸市長　稻葉俊太郎㊞

愛知縣知事　三邊長治殿

（追而承認願ニハ瀬戸市對幡山村契約書並ニ解說書ヲ添付セリ）

河第一五〇六號

昭和八年十二月十四日

愛知縣知事㊞

瀬戸市長殿
愛知郡幡山村長殿

瀬戸市上水道布設ニ關スル契約ノ件

昭和八年十二月十四日附願出ノ件承認候也

愛知縣愛知郡幡山村山口川沿岸水車業者補償契約書

愛知縣愛知郡幡山村山口川沿岸水車業者補償ニ付契約

瀬戸市上水道ニ給水ノ爲メ山口川上流及其ノ支川ノ水ヲ取水スルニ付愛知郡幡山村ト瀬戸市トノ間ニ契約セル契約書第七項及解說書第六項ニ依ル下流既設水車業者山田健治外拾軒ニ對シ左ノ通リ契約スルモノトス

參照

契約書第七項瀬戸市ハ山口川上流及其ノ支川ヨリノ取水ニヨリ下流既設水車業者ニ影響ヲ及ホスモノニ付テハ別途協議ヲ遂クルモノトス

解說書第六項契約書第七項ハ瀬戸市取水工事着手前協議スルコトヽシ影響ヲ及ホスモノニ付テハ相當賠償スルノ意ナルコト

第一條　瀬戸市ハ上水道ニ給水ノ爲メ取水スル場合ハ下流水車業者ノ爲メニ山口堰堤ニ於テ毎秒十二立方尺ノ水ニ相當スル水量ヲ放水シアル時ニ限ルモノトス

但シ既設水車中最モ多量ノ水ヲ使用スル山田健治所有水車ノ平常水ハ毎秒十一、五立方尺ナル故山口堰堤ニ於テ平常水量ヲ毎秒十二立方尺ト定ム

第二條　前條水車業者ノ爲メ放流スル水量ヲ瀬戸市上水道ニ給水ノ爲メ取水シタル結果水車業者ニ損害ヲ與ヘタルトキハ瀬戸市ハ其ノ損害ニ對シ補償スルモノトス

第三條　瀬戸市ハ山口川沿岸既設水車業者山田健治外拾軒ニ對シ此ノ契約締結スルニ當リ慰藉補償金トシテ金壹千五百圓ヲ交付スルモノトス

第四條　本契約ヲ適用スル水車ノ所有者氏名ハ別表ノ通リトス

附則

本契約書ハ瀬戸市長及幡山村長各壹通ヲ保管スルモノトス

昭和九年八月拾日

愛知縣瀨戸市長　泉崎三郎
愛知縣愛知郡幡山村長代理助役　大津豊三郎

水車所有者氏名

愛知郡幡山村大字山口　大澤藤太郎
同　山田淺太郎
同　川原力松
同　山田健治
同　山田盛孝
同　金谷岩三郎
愛知郡幡山村大字菱野　水野悦太郎
愛知郡幡山村大字本地　矢野鉄太郎
同　伊藤豊
同　伊藤鹿之助
同　中切水車組合

別紙ノ通リ委員會ニ於テ決議候條本件ニ關シテハ左樣御承引相成度シ

昭和六年十月

第貳拾六區長　加藤定信㊞
第貳拾七區長　藤井兼四郎㊞

決議

昭和六年十月十日水道委員會ニ依リ左ノ通リ決議ヲナス

左記

一、赤津地内ヨリ水道ノ取水堰設置ニ絶對之ヲ反對ス

右決議ヲ證スル爲メ左記ニ署名捺印スルモノ也

瀨戸市大字赤津
水道委員長　中島武三郎㊞

外參拾壹名

覺　書

一、瀨戸市ハ水道布設ニ付補助水源トシテ赤津字白坂及山路ヨリ余水ヲ導水スルモノトス但シ灌漑ニ支障ヲ與ヘザルモノトス

一、瀨戸市ハ大字赤津區ニ灌漑用水豫備溜池壹個所ヲ築造スルモノトス

一、溜池ノ浚渫ハ瀨戸市ニ於テナスモノトス

一、赤津區ハ溜池築造並其用地買收等ニ付ヲハ誠意ヲ以テ便宜ヲ圖ルモノトス

一、灌漑用水其他ニ付キ節水ヲ目的トスル各施設及水路等ノ完備ヲ圖ル爲メ瀨戸市ハ赤津關係區ヘ一切ノ補償トシテ金壹千五百圓ヲ交付スルモノトス

一、本覺書ハ二通ヲ作製シ瀨戸市水道小委員及赤津區水道委員間ニ各壹通ヲ保管スルモノトス

昭和九年十二月二十一日

瀨戸市水道小委員　松原明道
仝　井上春
仝　加藤章
仝　吉田九藏

赤津區水道委員

仝　二十六區代表　宮田時平
仝　二十七區代表　鈴木仙十郎
仝　中島豊三郎
仝　中島健市
仝　中島永一
仝　藤井利吉
仝　山口正一
仝　藤井勘一
仝　近藤万次郎
仝　鈴木兼治郎
仝　鈴木嘉一
立會人　水野憲吾

仝　中島源作
仝　鈴木增太郎
仝　藤井晴二
仝　藤井喜三

愛知縣瀨戸市水道布設ニ付大字赤津區トノ契約書

第壹條　愛知縣瀨戸市上水道布設ニ付補助水源トシテ市内大字赤津地内ヨリ導水スルニ付テハ灌漑ニ支障ヲ與ヘサル事ヲ前提トシテ瀨戸市長ハ大字赤津區居住民ト左ノ契約ヲナスモノトス

第貳條　瀨戸市ハ水道布設ニ付補助水源トシテ赤津字白坂及字山路ヨリ馬ケ城貯水池水量ノ必要ニ應シ餘水ヲ導水スルモノトス

第參條　瀨戸市ハ大字赤津區ニ灌漑用水豫備溜池壹個所ヲ築造スルモノトス
但シ溜池ノ浚渫ハ瀨戸市ニ於テナスモノトス

第四條　字山路ノ取水堰ハ灌漑水路ノ下位ニ設置スルヲ以テ灌漑期ニ於テハ其溢水ヲ導水スルモノトス又字白坂ニ於テハ四季ヲ通シテ毎秒五立方尺以上ノ水量アリタル時ニ限リ市ハ導水スルモノトス

第五條　前四條ニ關シ灌漑用水ニ付規定水量以上ヲ必要トスル請求アリタル場合ハ瀨戸市ハ赤津區ノ要求ニ應スルモノトス又市ヨリ導水上ニ付請求アリタル場合ハ規定水量以内ト云ヘトモ支障ナキ限リ要求ニ應スルモノトス

第六條　市ハ赤津區灌漑用水其他ニ付節水ヲ目的トスル各施設及水路等ノ完備ヲ計ル爲メ市ハ關係區居住民ヘ一切ノ補償トシテ金壹千五百圓ヲ交附スルモノトス

第七條　市ハ水道導水ニ基因シ其爲關係區居住民ニ損害ヲ與ヘタルトキハ其損害ヲ賠償スルモノトス

附　則

本契約書ハ貳通ヲ作製シ瀨戸市長及大字赤津區居住民代表者間ニ各壹通ヲ保管スルモノトス

昭和十年五月十四日

瀬戶市長　泉崎三郎

瀬戶市大字赤津地主代表

藤井淺太郎

加藤定信

中島豐三郎

加藤作助

鈴木莊一

中島金吾

中島武三郎

大字赤津區トノ契約書捺印ニ付經過書

大字赤津區トノ契約ニ付テハ昭和九年十二月二十一日字赤津萬德寺ニ於テ瀬戶市水道小委員並ニ立會人トノ間ニ覺書交換シタルモ其后契約書ノ捺印ニ付テハ遲々トシテ進マザリシ然ル處十年四月十五、六日頃二十六區代表委員長宮田時平、二十七區同鈴木仙十郎辭職シタリ其后二十六區代表委員長中島龜太郎十年四月十六日、瀬戶市役所ニテ水道小委員及立會人ト會談セシモ要領得ス今日ニ至リシニ同年五月十三日付市長宛同人ヨリ委員長辭職ノ通知アリタリ時偶々水道工事ハ字白坂並ニ字山路ノ取水堰及導水線路工事中ノ導水樋施工箇所等ノ關係地主ヘ用地買收ニ先立チ使用承諾ノ交涉方ヲ四月二十五日ヨリ開始中ナルニ對シ赤津地元トシテハ五月十二日頃水道關係用地所有者中二反歩以上ノ所有者約四十名會合ノ結果翌十三日議員中島源作ヨリ二十六區代表トシテ中島武三郎、中島金吾、加藤作助、二十七區代表中島豐三郎、鈴木莊一、藤井淺太郎外ニ地主會長加藤定信等ガ十四日市役所ヘ出向スル旨ノ通知ニ接シタリ依テ十四日午前十時市役所ニテ水道小委員加藤章、吉田九藏、井上春、當時立會人中島源作、藤井喜三、ト共ニ協議ノ結果作製シアリシ契約書ニ無修正ニテ捺印ヲ午后十二時二十分終リタリ依テ其經過ヲ認タメ覺トス

鐵管布設要項（昭和十一年　月　日水道小委員地主代表及地元選出議員立會決定）

一、工事着手ハ稻刈取后直ニ着手シ十二月末頃迄ニ全部終了ノ見込
一、布設ニ當テノ復舊ハ地主ノ指示ノ通リ耕作ニ支障ナキ樣ナスモノトス
但シ復舊后耕作ニ當テ支障ヲ生シタルトキハ直ニ復舊ヲナスモノトス
一、鐵管布設ニ當テハ無償承諾ヲ願ヒ工事中ノ踏荒ニ對シテハ乍些少踏荒料ヲ支拂フモノトス
一、鐵管布設ニ當テ麥作ニ損害ヲ與ヘタルトキハ市ニ於テ其部分ニ對シ補償スルモノトス

證

一、瀨戸市上水道赤津補助水源地問題ニ關シ曩ニ瀨戸市ヨリ地主代表ノ交付ヲ受ケタル金壹千五百圓也ハ一時拘者ニ於テ保管シ赤津廿六、廿七區全島意見一致ノ時之ヲ相渡スベク茲ニ證書ヲ作製ス

昭和十一年四月二十六日

瀨戸警察署長
調停者　渡邊敏㊞

町島總代
戸松龜作殿

契約書

愛知縣瀨戸市長ト同大字赤津地内赤津川及山路川沿岸水車業者ト左ノ通リ契約ヲナスモノトス

第一條　瀨戸市ハ上水道ニ導水ノ爲メ大字赤津川及山路川沿岸水車業者ニ損害ヲ與ヘタルトキハ瀨戸市ハ其損害ニ對シ調査ノ上補償スルモノトス

第二條　瀨戸市水道ハ各取水堰ニ於テ四季ヲ通シテ赤津川ヨリ毎秒五立方尺山路川ヨリ毎秒壹立方尺以上ノ時導水スルモノトス但前項ノ水量以内ト雖水車業者ト協議ノ上導水スルモノトス

第三條　瀨戸市ハ大字赤津赤津川及山路川沿岸水車業者別紙添付其業者ニ對シ慰藉、補償金トシテ金壹千圓ヲ交附スルモノトス

附則

本契約書ハ瀨戸市長及水車業者代表間ノ各壹通ヲ保管スルモノトス

昭和十年　月　日

瀬戸市長

瀬戸市大字赤津

赤津川及山路川水車業者代表

◎臨時水道部諸例規

瀬戸市臨時水道部處務規程

昭和六年四月廿八日制定
昭和六年規程第二號

第一條　水道布設ノ爲メ市役所ニ臨時水道部ヲ設置ス

第二條　臨時水道部ニ於テ掌理スヘキ事務ノ概目左ノ如シ

一、職員以下ノ人事ニ關スル事項
二、文書物品ノ收受發送ニ關スル事項
三、文書ノ編纂並ニ保存ニ關スル事項
四、印章保管ニ關スル事項
五、歲入歲出豫算及ヒ決算ニ關スル事項
六、收入支出命令ニ關スル事項
七、市債ニ關スル事項
八、工事又ハ勞力供給ノ請負入札及ヒ契約ニ關スル事項
九、工事用材料及ヒ物品ノ購買賃借及ヒ不用物品ノ處分ニ關スル事項
十、土地建物其ノ他地上物件ノ買收賃借移轉及ヒ補償ニ關スル事項
十一、給水ニ關スル事項
十二、統計及ヒ報告ニ關スル事項
十三、出勤簿整理及ヒ日誌ニ關スル事項
十四、出納檢查ニ關スル事項
十五、測量製圖及ヒ設計ニ關スル事項
十六、工事ノ施行監督及ヒ檢查ニ關スル事項
十七、工事ノ出來形精算ニ關スル事項

十八、工事用材料及ヒ物品ノ保管及ヒ受拂ニ關スル事項
十九、工事用材料及ヒ物品並ニ不用物品ノ檢査ニ關スル事項
二十、既成工作物ノ維持竝ニ管理ニ關スル事項
二十一、水質檢査ニ關スル事項
二十二、職工人夫ノ使役及ヒ監督ニ關スル事項
二十三、水道誌編纂ニ關スル事項
二十四、其ノ他工務ニ關スル事項

第三條　臨時水道部ニ部長ヲ置ク

第四條　部長ハ上司ノ命ヲ承ケ部員ヲ指揮監督シ事務ヲ掌理ス
部員ハ上司ノ命ヲ承ケ其ノ事務ニ從事ス

第五條　本規程ニ定ムルモノヽ外ハ總テ市役所處務規程ヲ準用ス

第六條　本規程施行ニ必要ナル細則ハ市長ノ決裁ヲ經テ部長之ヲ定ム

瀨戸市上水道經濟特別會計規程

昭和五年一月二十八日議決
規程第一五號
昭和五年一月二十九日告示第七號

第一條　上水道經濟ニ屬スル歲入歲出ヲ特別會計トシテ之ヲ經理ス

第二條　上水道事業ニ關スル補助金借入金繰入金給水料及ヒ雜收入等一切ノ收入ヲ以テ工事費經營費借入償還元利金一切ノ支出ニ充テ尙剩餘金ヲ生スルトキハ繰越若クハ蓄積ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

瀨戸市臨時水道委員設置規程

沿革
昭和五年九月十二日議決
昭和五年九月十三日告示
昭和五年規程第十六號
昭和六年十二月二十四日議決
昭和六年十二月二十四日告示
昭和六年規程第九號改正

第一條　市制第八十三條ニ依リ瀨戸市ニ臨時水道委員ヲ置ク

第二條　委員ハ拾壹名トシ市會議員ヲ以テ組織ス

第三條　委員ハ水道布設ニ關シ市長ニ於テ委員ノ審査ヲ必要ト認メタル事項ヲ議定ス

第四條　委員會ハ市長ニ於テ隨時開會ス

第五條　本規程ハ水道布設工事完成ト共ニ廢止ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年規程第九號）

瀨戸市臨時水道吏員定員規程

沿革

昭和五年九月十二日議決
昭和五年九月十三日告示第八八號
規程第一一七號
昭和五年十二月二十七日
規程第一九號改正
仝日告示第一二九號

第一條　臨時水道布設事務ニ從事セシムル爲左ノ有給吏員ヲ置キ其ノ定數ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル　但シ市長ハ豫算ノ範圍内ニ於テ雇員ヲ置クコトヲ得

技　師
書　記
書記補
技　手
技手補

第二條　市長ハ必要ニ應シ顧問囑託ヲ置キ尙市吏員ヲシテ臨時水道布設事務ヲ兼ネシムルコトヲ得

瀨戸市臨時水道吏員定員規程第二條ニヨル顧問囑託又ハ市吏員ノ手當支給規程

昭和五年九月十二日議決
昭和五年九月十三日告示第八九號
規程第一一八號

第一條　臨時水道吏員定員規程第二號ニヨル顧問囑託又ハ市吏員ヲ兼務セシム

ルトキハ手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ支給額ハ豫算ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

第二條　年手當ハ年俸ニ月手當ハ月俸ニ準シ之ヲ支給ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

瀨戸市臨時水道吏員給料條例

昭和五年九月十二日議決
昭和五年九月七日許可
條例第十號
昭和五年十月八日告示

第一條　臨時水道吏員定員規程第一條ニヨル有給吏員ノ給料額ハ本市有給吏員給料條例ヲ準用ス　但シ技師ニ在リテハ特ニ貳千五百圓迄支給スルコトヲ得

第二條　臨時水道吏員定員規程第一條ニヨル有給吏員給料支給方法ハ本市有給吏員給料支給條例ヲ準用ス

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

瀨戸市臨時水道工事請負物件購入賣却及勞力供給規程

昭和六年四月廿八日制定
昭和六年六月十九日規程第六號

第一章　總　則

第一條　本市臨時水道工事ノ執行物件ノ購入竝賣却及勞力ノ供給ハ總テ本規程ニ依ルモノトス

第二條　工事請負及物件ノ購入竝賣却及勞力供給ハ一般競爭入札ニ付スルモノトス

第三條　左ニ揭クル場合ニ於テハ直營ト爲スコトヲ得

一、請負ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二、急施ヲ要シ請負ニ付スル暇ナキトキ

三、請負契約ヲ締結スルコト能ハサルトキ

四、特ニ直營ト爲スノ必要アリト認ムルトキ

第四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ指名競爭入札又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一、一般競爭入札ニ附スルヲ不適當ト認ムルトキ

二、急施ヲ要シ一般競爭入札ニ附スルノ暇ナキトキ

三、一般競爭入札ニ附スルモ入札人又ハ落札人ナキトキ

四、豫定價格二千圓未滿ノ工事ナルトキ

五、豫定價格千圓未滿ノ物件ノ購入竝賣却及勞力供給ナルトキ

六、特ニ指名競爭入札又ハ隨意契約ニ依ルノ必要アリト認メタルトキ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入札人若クハ請負人又ハ其ノ代理人トナルコトヲ得ス

一、無能力者

二、破產若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五、責付又ハ保釋中ノ者

六、入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者

第六條　一般競爭入札ニ付スルトキハ入札期日ヨリ五日前迄ニ入札ニ必要ナル事項ヲ公告スルモノトス

第七條　入札人ハ左ニ揭クル要件ヲ具備スルコトヲ要ス

但シ市長ニ於テ相當ト認ムル學識經驗ヲ有スル技術者ヲシテ工事ヲ擔當セシムルモノ又ハ物件賣却ニ在リテハ此ノ限ニアラス

一、引續キ二年以上其業ニ從事スルコト

二、其ノ他市長ノ定ムル要件

第八條　入札ヲ爲サムトスル者ハ入札金額ノ百分ノ三以上ノ入札保證金ヲ納付スヘシ

但シ指名競爭入札又ハ豫定價格貳千圓未滿ノ工事ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第九條　入札ニ加ハラムトスル者ハ左ノ事項ニ關スル市區町村長ノ證明書ヲ豫メ提出スベシ

一、第五條第一號乃至第四號ニ該當セサル證明

二、第七條第一號ノ證明

前項證明書ヲ提出シタル者ニ對シテハ證明ノ內容ニ異動ヲ生セサル限リ更ニ證明書ヲ提出セシメサルコトヲ得

第十條　入札ヲ爲サムトスル者ハ豫メ設計仕樣書圖面竝實地又ハ註文書見本ヲ熟覽シタル上入札書ニ入札保證金ニ對スル本市收入役領收書ヲ添付シ且封皮ニ「何々入札書在中」ノ旨ヲ表記シ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

但シ時宜ニ依リ直接之ヲ入札場ニ差出サシムルコトアルヘシ

本市行政區劃外ヨリ入札書ヲ郵送スルモノニ付テハ有價證券ヲ其ノ儘入札書ニ添付スルコトヲ得

第十一條　代理人ヲシテ入札ニ關スル行爲ヲ爲サシメムトスルトキハ工事其他ノ名稱ヲ記載シタル委任狀ヲ差出スベシ

第十二條　入札書ハ訂正取消又ハ引換ヲ求ムルコトヲ得ス

第十三條　開札ハ二名以上ノ吏員立會ノ上執行スルモノトス入札人ハ開札ノ際參觀ヲ求ムルコトヲ得

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ之ヲ無效トス

一、入札條件ニ違反シタルトキ

二、入札人又ハ其代理人二以上ノ入札ヲ爲シタルトキ

三、入札人協定シテ入札ヲ爲シタルトキ

四、入札ニ際シ不正ノ行爲アリタルトキ

五、入札ノ要件ヲ確認シ難キトキ

第十五條　入札人中豫定價格以內ニシテ豫定價格ノ三分ノ二ヲ下ラサル最低價格ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札人トス但シ指名競爭入札又ハ物件購入及勞力供給ノ場合ニ於テハ最低價格ヲ以テ落札人ト定ムルコトアルヘシ

物件ノ賣却ニアリテハ豫定價格以上ニ於ケル最高價格ノ者ヲ以テ落札人トス

同一價格ノ入札アリタルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム落札人ナキトキハ直ニ再入札ニ附スルコトヲ得

第十六條　落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ請負請書又ハ物件拂受請書、設計書、仕樣書圖面注文書ニ依ル内譯書竝契約保證金ヲ差出スベシ

落札人前項ノ期間内ニ契約ヲ締結セサルトキハ落札ハ其ノ効力ヲ失フ

落札人ノ入札保證金ハ本人ノ都合ニ依リ契約保證金ノ一部ニ充當スルコトヲ得

第一項ノ設計書ニハ職工人夫ノ數及單價金額ノ内譯ヲ記載スルコトヲ要セス但シ必要アルトキハ之ヲ記載セシムルコトアルヘシ

第十七條　請負人又ハ買受人ハ契約金額ノ百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ納付スヘシ

但シ指名競爭入札又ハ隨意契約ノ方法ニ依リ契約ヲ締結スル場合ニアリテハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十八條　入札保證金及契約保證金ハ國庫債券、勸業債券、農工債券、拓殖債券、興業債券、貯蓄債券其ノ他市長ニ於テ適當ト認ムル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

但シ代用スベキ有價證券ハ無記名債券ニ限ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ國庫債券ハ其額面金額ニ依リ其ノ他ハ時價十分ノ八ヲ以テ之ヲ換算ス

第十九條　入札保證金ハ入札終了後之ヲ還付ス

但シ落札人ニ對シテハ契約保證金納付ノ際之ヲ還付ス契約保證金ハ工事完成檢查終了後之ヲ還付ス但シ契約ニ依リ擔保義務終了迄又ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ相當期間其ノ全部又ハ一部ヲ留保スルコトヲ得

第二十條　請負人ハ市長ノ承認ヲ得スシテ工事ノ執行ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

第廿一條　左ニ揭クル場合ニ於テハ契約ヲ解除スルコトヲ得

一、契約期間内ニ工事竣工物件竝勞力供給ノ見込ナキトキ
二、工事ノ執行竝物件供給ニ付不正ノ行爲アリタルトキ
三、正當ノ事由ナクシテ市長ノ指揮監督ニ從ハサルトキ
四、本規程ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタルトキ

第廿二條　落札人入札ニ付キ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ落札人契約ヲ締結セサルトキハ入札保證金ヲ市ノ所得トス

第廿一條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ヲ市ノ所得トス請負人ノ責ニ歸スベキ事由ニ依リ契約無效トナリタル場合亦同シ

第二章　工事請負

第廿三條　請負人ハ第十六條ノ手續ヲ經ルト同時ニ工事施行區域ノ引渡ヲ受ケ工事ニ着手スベシ請負期間ハ請負契約締結ノ日ヨリ起算ス

第廿四條　請負人ハ工事ノ執行ニ付係員ノ指揮監督ニ從フヘシ

第廿五條　天災事變其ノ他不可抗力ニ依リ工事ノ着手ヲ延期シ又ハ工事ヲ休止セムトスルトキハ市長ノ承認ヲ受クベシ

第廿六條　天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ契約期間内ニ工事竣工スルコト能ハサルトキハ市長ニ期間ノ延長ヲ求ムルコトヲ得

第廿七條　請負人ハ常ニ工場ニ詰切リ工事ニ關スル一切ノ事ヲ處理スヘシ若シ事故アルトキハ係員ノ承認ヲ受ケ適當ノ代人ヲ差出スヘシ
但シ其ノ代人ヲ不適當ト認ムルトキハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第廿八條　工事ニ使用スヘキ材料ハ豫メ係員ノ檢查ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ合格セサル材料ハ係員ノ指定スル期間内ニ工場外ニ搬出スヘシ

第廿九條　設計書中實地ニ現存ノ材料ヲ使用セシムルモノアルトキハ契約締結ト同時ニ受授ヲ了シタルモノト看做シ不足又ハ損失アルトキハ請負人ノ負擔トス
現存ノ工作物ヲ充當スル場合亦同シ

第三十條　請負工事ノ爲使役スル職工人夫等ノ行爲ニ就テハ請負人ニ於テ一切ノ責ニ任スヘシ職工、人夫等ニシテ技能拙劣又ハ不都合ノ行爲アリト認ムル

トキハ其ノ使役ヲ禁スルコトアルヘシ

第卅一條　市ノ都合ニ依リ工事ヲ增減變更シ又ハ着手竣工期日ヲ變更スルコトアルヘシ

工事ヲ增減變更シタル場合ニ於ケル請負金額ノ査定ハ請負金額ト市ノ設計書トニ基キテ算出ス若シ之ニ準據シ難キトキハ市長ノ査定スル所ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ材料中不用ニ屬スルモノアルトキハ檢查濟ノ分ニ限リ前項ノ規定ニ依リ算出シタル代價ニ依リ買上クルコトアルヘシ

工事ノ增減變更ヲ命シタル爲金額ニ增減ヲ生スルコトアルモ契約保證金ハ之ヲ追徵又ハ返付セサルコトアルヘシ

第卅二條　市ノ都合ニ依リ工事ノ全部又ハ一部ヲ中止セシメ若クハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ契約解除ノ場合ニ於テハ契約保證金ヲ還付シ尙工事設計書、仕樣書圖面ニ適合シ又ハ市長ニ於テ有效ト認メタルモノニ限リ左ノ區分ニ依リ代價ヲ支拂フモノトス

一、工事出來形ニ對シテハ請負金額ト市ノ設計書トニ基キテ算出シタル工費若シ之ニ準據シ難キトキハ市長ニ於テ定ムル金額

二、檢查濟材料ニ對シテハ請負金額ト市ノ設計書トニ基キテ算出シタル價格

前項ノ規定ハ請負人死亡ノ爲契約消滅シタル場合ニ準用ス但シ承繼人ニ於テ繼續請負ヲ請フトキハ之ヲ承認スルコトアルヘシ

第卅三條　請負人ハ工事ノ全部ヲ終了シタルトキハ係員ヲ經由シ竣工屆書ヲ差出シ檢查ヲ受クヘシ

第卅四條　竣工檢查ハ竣工屆出ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ行フモノトス

但シ豫メ其ノ日時ヲ請負人ニ通知スルコトアルヘシ

第卅五條　工事施行中仕樣書圖面又ハ工事設計書ニ適應セサル個所アリト認ムルトキハ何時ニテモ其改築又ハ修補ヲ命スヘシ

竣工檢查ニ際シ不適應ノ個所ヲ發見シタルトキハ期限ヲ定メ改築又ハ修補ヲ命スヘシ若シ其ノ期間內ニ竣工セサルトキハ第三十九條ノ例ニ依ル

第卅六條　請負金ハ工事竣功檢查終了ノ後支拂フモノトス但シ工事出來形ニ對シ其ノ價格ノ十分ノ八以內ヲ左ノ制限ニ依リ假拂ヲ爲スコトアルヘシ

請負金額	五百圓以上	千圓未滿	一回
請負金額	千圓以上	參千圓未滿	二回
請負金額	參千圓以上	五千圓未滿	三回
請負金額	五千圓以上	壹萬圓未滿	四回

請負金額壹萬圓以上ハ五千圓ヲ增ス每ニ一回ヲ加フ工事出來形ニ對スル價格ハ市長ノ認定スル所ニ依ル

第卅七條　工事竣工檢查終了前ニ生シタル損害ハ總テ請負人ノ負擔トス但シ天災事變其ノ他不可抗力ニ因リ請負金半額以上ノ損失アリト認ムルトキハ市ハ其ノ損失ノ三分ノ一以內ヲ補助スルコトアルヘシ

第三十二條第一項ノ工事中止中天災事變其他不可抗力ノ爲工事ニ損害ヲ生シタリト認ムルトキハ其ノ損害額ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトアルヘシ市ヨリ交付シタル工事用材料ニシテ天災事變其他不可抗力ニ依リ亡失シタルトキハ特ニ再交付スルコトアルヘシ

第卅八條　請負契約解除ノ場合ニ於テ工事出來形竝檢查濟材料ニシテ工事設計書仕樣書、及圖面ニ適合シタルモノニ對シテハ第三十二條ニ依リ計算シタル價格ノ十分ノ八以內ヲ交付ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事ニ於ケル各個ノ竣功部分ニ對シテハ其ノ價格ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

前項ノ規定ハ請負契約後請負ヲ辭シタルニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ準用ス

但シ契約保證金ハ市ノ所得トス

第卅九條　契約期間內ニ工事ヲ竣工セサルトキハ遲延日數一日ニ付請負金額ノ千分ノ一ノ違約金ヲ徵收ス

前項ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ控除シ尙不足シタルトキハ追徵ス

第三章　物件購入

第四十條　請負人ハ契約期間內ニ指定ノ場所ニ納入シ檢查ヲ受クヘシ

第四十一條　請負人若クハ代人ハ物件ノ檢查ニ立會スヘシ

第四十二條　檢查ノ結果合格セサル物件ハ指定スル期間內ニ指定場所外ニ搬出スヘシ

第四十三條　請負金ハ物件納入檢查終了ノ後支拂フモノトス

但シ既納ノ內檢查濟ノ分ニ對シテハ其ノ價格ノ全額ヲ第三十六條ノ制限ニ依リ支拂ヲ爲スコトアルヘシ

第四十四條　物件納入終了前ニ生シタル損害ハ總テ請負人ノ負擔トス

第四十五條　請負契約解除ノ場合ニ於テハ第三十二條ニ依リ計算シタル價格ノ全額ヲ交付ス

前項ノ規定ハ請負契約後請負ヲ辭シタルニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ準用ス

但シ契約保證金ハ市ノ所得トス

第四十六條　合格セサル物件ニシテ市長ニ於テ使用上差支ナシト認ムルトキハ相當價格ヲ低減シテ納付セシムルコトアルヘシ

第四十七條　契約期間內ニ物件ヲ納入セサルトキハ遲延日數一日ニ付未納ノ分ニ對スル價格ノ千分ノ一ノ違約金ヲ徵收ス

前項ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ控除シ尙不足ヲ生シタルトキハ追徵ス

第四十八條㊂第二十五條第二十六條第三十一條第三十二條第三十五條ノ規定ハ之ヲ本章ニ準用ス

第四章　物件賣却

第四十九條　買受人ハ指定期間內ニ其ノ代金ヲ完納シ物件ノ受授ヲ爲スモノトス

但シ公共團體ニ讓渡スル場合ハ此ノ限リニアラス

前項期間內ニ代金ヲ完納セサル場合ハ契約ヲ解除シタルモノト看做シ契約保證金ヲ市ノ所得トス

第五十條　買受人ハ物件ノ受授ニ際シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

但シ數量ヲ以テ契約シタルモノニ限リ數量ニ異動アルコトヲ發見シタルトキハ契約價格ニ依リ增減スルコトヲ得

第五十一條　第二十六條第三十九條ノ規定ハ之ヲ本章ニ準用ス

第五章　勞力供給

第五十二條　請負人ハ契約期間中指定ノ場所ニ勞務者ヲ供給スルモノトス

第五十三條　所要人員及出場時限ハ前日迄ニ供給者ニ通知ス供給者ハ確實ニ始業時限五分前迄ニ供給シ指定ノ勞務ニ服セシムヘシ臨時ニ供給ヲ命シタル時ハ指定ノ時限迄ニ出場セシムヘシ

第五十四條　就業時間ハ市ノ定ムル所ニ依ル

第五十五條　定期時間外ニ服業セシムル場合若ハ自己ノ都合ニヨリ始業時限迄ニ就業セス又ハ終業時限前ニ退場セシ場合ニ於ケル支給賃金ハ市長ノ定ムル處ニ依ル但シ一時間ニ滿タサル賃金ハ支給セス

第五十六條　作業ノ都合ニ依リ定時間内ニ退場ヲ命シタルトキハ當日賃金ノ全額ヲ支給ス

第五十七條　左ノ各號ニ該當スルトキハ當日賃金ヲ支給セス

一、許可ヲ得スシテ妄ニ勞務ヲ離レタル者

二、所定以外ノ場所ニ於テ焚火又ハ喫煙シタル者

三、不都合ナリト認メ退場ヲ命シタル者

第五十八條　賃金ハ毎月十五日及月末ノ二回ニ請負人ノ請求ニヨリ五日以内ニ支拂フモノトス

第五十九條　就業中死傷シ又ハ疾病ヲ生シタルトキハ請負人ノ費用ヲ以テ處置スルモノトス

第六十條　市ノ都合ニ依リ他ノ勞務者ヲ傭入ルヽコトアルモ請負人ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第六十一條　第廿七條第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ之ヲ本章ニ準用ス

附　則

第六十二條　本規程ニ依ル市長ノ認定處分又ハ命令ニ對シテハ入札人若クハ請負人買受人ニ於テ異議ノ申立ヲ爲シ又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第六十三條　請負人買受人ニ於テ施行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ市ニ於テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ之ニ要シタル費用ハ請負人又ハ買受人ノ負擔トス

第六十四條　市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本規程ニ定ムルモノヽ外特ニ條件ヲ付スルコトアルヘシ

第六十五條　資格證明書入札書請負請書保證金納付書及其他ノ書式ハ第一號乃至第九號樣式ニ準スヘシ

第六十六條　本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

證明書

住所

氏名

生年月日

一、左ノ各號ノ一ニ該當セス

一、無能力者

二、破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

四、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

二、引續キ二年以上土木建築請負業ニ從事ス

前記ノ通相違無之候也

年　月　日

市區町村長

第貳號樣式

入札書

一金　何　程

但シ何々個所　何々工事請負金

（物件　何）

（勞力　何）

右御市關係規程其他遵守ノ上入札候也

年　月　日

入札人

住所
氏名 ㊞

瀬戸市長 氏 名 宛

備考 入札書ハ一廉毎ニ調製シ金額ノ數字ハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用フヘシ又改竄塗抹ノ所ニハ捺印スヘシ

第三號樣式

請負請書

何々工事

別紙設計書、仕樣書、圖面ノ通

一請負金 何 程

一契約保證金 何 程

內

何國債證券、額面何程、何枚、記號番號

第何回何證券、額面何程、何枚、記號番號

現金 何 程

一期間 何 日 着手 昭和何年何月何日

竣功 昭和何年何月何日

右ノ通御市關係規程及別記特定條件ニ基キ請負候也

年 月 日 住所

請負人 氏 名 ㊞

瀬戸市長 氏 名 宛

備考

一、入札書式ノ備考ハ本書式ニモ之ヲ適用ス

二、特定條件アルモノハ其ノ條件ヲ記シ添付スルコトヲ要ス

三、物件賣却ノ場合ハ本樣式ニ準ス

第四號樣式

變更請書

何々箇所

一何々工事

別紙設計書仕様書、圖面ノ通

一現請負金　何　程

金何　程　變更ニ依ル增(減)額

變更請負金　何　程

一、保證金追納額　何　程（增額ノ場合ニ記載スルモノトス）

一、現契約期間　何　日　着手　昭和何年何月何日

竣功　昭和何年何月何日

一變更ニ依ル竣功期日、昭和何年何月何日（竣功期日ノ變更アル場合ニ記載スルモノトス）

右ノ通變更ノ義御市關係規程ニ基キ御請候也

年　月　日　住所

請負人　氏　名　㊞

瀨戸市長　氏　名　宛

備考　請負請書ノ備考ハ本書式ニモ之ヲ適用ス

第五號樣式

入札(契約)保證金納付書

一金　何　程

但何々箇所、何工事請負入札（契約）保證金（有價證券ヲ以テ代用スルトキハ左ノ内譯ヲ記スヘシ）

内

何國債證券額面、何　程、何　枚、記號番號

第何回何證券額面、何　程、何　枚、記號番號

現金　何　程

右納付候也

年　月　日　住所

瀬戸市長　氏　　名宛

氏　　名㊞

第六號樣式

契約期間延長願

一、何々箇所

一、何々工事

一、請負金　何　程

一、契約期間　何　日　着手　昭和何年何月何日

竣功　昭和何年何月何日

一、契約年月日

右工事別紙事由ニ依リ契約期間内竣功難致候ニ付何年何月何日迄何日間契約期間延長ノ義御承認相成度此段及御願候也

年　月　日　住　所

請負人　氏　　名㊞

瀬戸市長　氏　　名宛

備　考

事由書ニハ契約期間内ニ工事ヲ竣功スルコト能ハサル事由ヲ詳記シ尚晴雨ノ日數作業日數出來形狀況等ヲ記載シタル調書ヲ添付シ被害ヲ受ケタルトキハ其ノ手戻程度ヲ詳記スヘシ

第七號樣式

竣　功　屆

何々箇所

一、何々工事

此請負契約金

着　手　昭和何年何月何日

竣　功　昭和何年何月何日

竣功期限　昭和何年何月何日

右工事竣功致候ニ付此段及御届候也

年　月　日　住所

請負人　氏　名　㊞

瀬戸市長　氏　名　宛

第八號樣式

請　求　書

一金　何　程

但何々箇所　何々工事請負契約代金

右御下渡相成度及請求候也

年　月　日　住所

請負人　氏　名　㊞

瀬戸市長　氏　名　宛

第九號樣式

請　求　書

一金　何　程　請負契約代金

内金何程　今回請求金

外金何程　昭和何年何月何日第何回領收濟

外金何程　昭和何年何月何日第何回領收濟

但何々箇所、何々工事、何歩出來ニ對スル八分金

右御下渡相成度及請求候也

年　月　日　住所

氏　名　㊞

瀬戸市長　氏　名　宛

瀬戸市臨時水道布設工事施行ニ關シ一般競爭入札ニ付セザルコトヲ得ルノ件

昭和六年六月十八日議決
規程第五號
昭和六年六月十九日第四十號告示

第一條　工事請負竝ニ物件ノ購入及勞力供給ニシテ左ニ揭クル場合ニ於テハ直營トナスコトヲ得

一、請負ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二、急施ヲ要シ請負ニ付スルノ暇ナキトキ

三、請負契約ヲ締結スルコト能ハザルトキ

四、特ニ直營ト爲スノ必要アリト認ムルトキ

第二條　工事請負竝ニ物件ノ購入賣却及勞力ノ供給ニシテ左ニ揭クル場合ニテハ指名競爭入札又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一、一般競爭入札ニ附スルヲ不適當ト認ムルトキ

二、急施ヲ要シ一般競爭入札ニ附スルノ暇ナキトキ

三、一般競爭入札ニ附スルモ入札人又ハ落札人ナキトキ

四、豫定價格二千圓未滿ノ工事ナルトキ

五、豫定價格千圓未滿ノ物件ノ購入竝ニ賣却及勞力供給ナルトキ

六、特ニ指名競爭入札又ハ隨意契約ニ依ルノ必要アリト認メタルトキ

瀨戸市臨時水道吏員手當規程

昭和六年六月十八日議決
規程第四號
昭和六年六月十九日第四十一號告示

第一條　臨時水道吏員ニハ別表ノ範圍ニ於テ月額手當ヲ支給スルコトヲ得

第二條　月額手當支給方法ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別　表

職名　月額
技師　金四拾圓
書記　金拾圓
技手　金貳拾圓
書記補　金六圓
技手補　金拾五圓
支給方法　出張、公休、欠勤日ハ支給セサルコト

◎認可及許可往復

本市水道布設ニ付テハ町制時代ノ議決ニ付市制執行ニ當テ更ニ決議ヲナシ各關係官廳ニ認可及許可ヲ要セシ書類ノ往復左ノ如シ。

內務大藏兩省認可關係

名稱	番號	提出年月日	官廳	年月日	摘要
本町ニ水道ヲ布設スルモノトス	町會第一〇一號	昭和二―七―四			
布設費繼續年期及支出方法 起債額五拾萬圓	全　第一〇二號	全			
給水條例	全　第一〇六號	全			
本市ニ上水道ヲ別紙目論見書ノ通リ布設スルモノトス	第一五號	昭和五―二―三	內務大臣	昭和五―九―一〇	條件付
自昭和四年度至昭和六年度瀨戶市上水道布設費繼續年期及支出方法ヲ別紙ノ通リ定ム	第一六號	昭和五―二―三	內務大臣	昭和五―九―一〇	條件付
本市水道給水條例左ノ通リ定ム	第二一號	全			
上水道布設費起債ノ件（六拾九萬圓）	第一九號	全	內務大臣 大藏大臣	昭和五―九―一〇	
上水道布設國庫補助裏請（拾七萬貳千五百圓）	第一七號	全	內務大臣	昭和七―二―二五	
水道布設目論見書變更竝工事實施設計ノ件（猿投本谷同西谷ヨリノ取水計畫ヲ除キ認可ス）	第五號	昭和六―三―二	內務大臣	昭和六―四―三	

水道貯水池其他實施設計ノ件認可ス	第三九號	昭和六—六—六	內務大臣	昭和六—七—二三	
水道布設目論見書變更ノ件認可ス（一ヶ年延長）	第一一號	昭和八—一—一八	內務大臣	昭和八—二—四	
上水道工事工程報告	第九〇號	昭和八—七—一三	內務省		
上水道布設工事猿投本谷及猿投西谷取水設備ノ件認可稟請		昭和八—八—二	內務大臣		
水道布設目論見書中變更ノ件認可ス（一ヶ年延長）	第二八號	昭和九—二—二七	內務大臣	昭和九—三—一七	
上水道布設工事猿投本谷取水設計變更認可稟請	第二六號	昭和一〇—二—二三	內務大臣	昭和一〇—五—二〇	
上水道布設工事期間延長ノ件認可申請（一ヶ年延長）	第五號	昭和一〇—一—一二	內務大臣	昭和一〇—二—八	
馬ヶ城貯水池堰堤其他實施設計變更ノ件認可稟請	第五〇號	昭和一〇—四—一	內務大臣	昭和一〇—八—五	
上水道布設工事期間延長認可申請（十一年六月延長）	第八號	昭和一一—一—一六	內務大臣	昭和一一—二—一四	

愛知縣廳許可關係

名稱	番號	提出年月日	官廳	年月日	摘要
上水道布設縣費補助稟請（九萬八千五百七拾壹圓）	第一八號	昭和五—二—二三	知事	昭和七—三—一一	
縣有地借用願貯水池、濾過池、配水池、配水線路	第一八號	昭和六—四—七	愛知縣	昭和六—九—八	
上水道布設ニ付砂防指定地內作業申請（縣有地）	第一九號	仝	知事	昭和六—六—二五	延期二回
貯水池堰堤設置工事施行許可申請	第二一號	昭和六—四—二七	知事	昭和六—八—二六	延期一回
止水竝取水堰設置工事施行許可申請	第二二號	仝			
止水竝取水堰設置工事施行竝流水引用許可申請	第二三號	仝			
河川敷地占用竝水道配水鐵管伏越工事施行許可申請	第三一號	昭和六—五—一三	知事	昭和六—八—一七	
道路敷占用申請	第三〇號	仝	知事	昭和六—八—二三	延期一回
瀨戶電氣鐵道線橫斷配水鐵管布設	第四四號	昭和六—七—一	瀨戶電氣鐵道株式會社	昭和六—七—二	
堤塘使用認可申請（市街配水鐵管布設）	第四九號	昭和六—七—二二	知事	昭和六—九—八	
土地收用事業認定申請（馬ヶ城方面）	第五五號	昭和六—八—二八			
水道工事用砂利砂採取願	第六二號	昭和六—九—二	知事	昭和六—一〇—一三	
鐵管檢查所其他附屬建物新築願	第六三號	昭和六—九—三	愛知縣	昭和六—九—一〇	延期二回
府縣道占用（古瀨戶粘土硝子業用）	第四一號	昭和七—二—二三	知事	昭和七—三—二六	

河川法準用河川瀬戸川敷占用工作物設置ノ件	第九六號	昭和七—四—二				
道路敷竝附屬物占用ノ件(鐵管)	第一一八號	昭和七—五—六	知事	昭和七—八—二〇		
河川敷占用竝水道鐵管伏越工事施行許可申請	第一五五號	昭和七—七—一	知事	昭和七—八—二三		
砂利採取願	第一八七號	昭和七—八—七	知事	昭和七—九—九		
砂利採取願	第二六四號	昭和七—一二—七	知事	昭和八—二—一		
上水道布設費繼續年期及出方法變更ノ件許可ス	第一〇號	昭和八—一—一八	知事	昭和八—三—三一		
府縣道占用ノ件	第一八號	昭和八—一—二七	知事	昭和八—三—二四		
砂利採取願	第四五號	昭和八—三—三	知事	昭和八—四—一三		
止水竝取水堰設置工事許可申請	第一〇八號	昭和八—八—七	知事	昭和八—七—八		
止水竝取水堰設置工事施行竝流水引用許可申請	第一〇九號	昭和八—八—七	知事	昭和八—七—八	全	
砂利採取願	第一三二號	昭和八—八—二四	知事	昭和八—九—二八	九—四—七	一部變更
上水道布設費繼續年期及出方法變更ノ件許可ス	第二七號	昭和九—二—二七	知事	昭和九—三—三一		
給水開始ニ付一部竣功檢査申請	第二九號	昭和九—三—一	知事	昭和九—四—二〇		
上水道布設費繼續年期及出方法變更ノ件許可ス	第四八號	昭和一〇—三—二七	知事	昭和一〇—四—一三		
上水道布設費繼續年期及出方法變更ノ件許可ス	第一〇五號	昭和一一—三—一三	知事	昭和一一—三—二七		
赤津川々敷使用願	第三四號	昭和一〇—三—四	知事	昭和一〇—五—二七		
府縣道稻橋瀬戸線及仝下品野足助線道路占用ノ件申請	第一七二號	昭和九—一一—一〇 昭和一〇—一—一三	知事	昭和一〇—一二—二七		
赤津川堤塘使用認可申請	第二二號	昭和一〇—二—二六	知事	昭和一〇—三—二〇		
セメント倉庫建築申請		昭和一〇—三—八	知事	昭和一〇—三—二九		
赤津川々敷使用申請	第二八號	昭和一〇—二—二七	知事	昭和一〇—七—一〇		
府縣道名古屋瀬戸線道路占用ノ件追加申請	第四六號	昭和一〇—三—五	知事	昭和一〇—五—二五		
汗干川々敷使用願ノ件	第四五號	昭和一〇—三—五	知事	昭和一〇—五—二九		
縣有地借用願ノ件(字拜戸倉庫敷地)	第四一號	昭和一〇—三—三	知事	昭和一〇—三—二八		
府縣道稻橋瀬戸線道路占用ノ件追加申請	第三一號	昭和一〇—三—一	知事	昭和一〇—七—一三		
縣有地借用願ノ件(導水線路)	第一七三號	昭和九—一二—一〇	知事	昭和一〇—六—二五		
赤津川々敷使用竝導水管埋設工事竣功期限延長申請	第八四號	昭和一〇—六—四	知事	昭和一〇—六—二四		
汗干川々敷使用水道管埋設ノ件	第九一號	昭和一〇—六—一〇	知事			
府縣道名古屋瀬戸線道路占用願ノ件竣功屆	第八一號	昭和一〇—六—四	知事			
府縣道稻橋瀬戸線道路占用鐵管埋設工事竣工屆	第二一一號	昭和一〇—二—一六	知事			

赤津川々數使用並導水管埋設工事竣功届	第五一號	昭和二―三―二〇	知事			
赤津川々數使用鐵管埋設工事竣功届	第五三號	昭和二―三―二〇	知事			
赤津川及山路川筋河水引用並取水堰堤設置工事竣功届	第五二號	昭和二―三―二〇	知事			
府縣道稻橋瀨戸線及同下品野足助線道路占用鐵管並混凝土樋布設工事竣功届	第五〇號	昭和二―三―二〇	知事			
府縣道名古屋瀨戸線道路數占用願ノ件	第四六號	昭和二―三―一八	知事	昭和二―五―五		
汗干川々數繼續使用願ノ件	第四九號	昭和二―三―二〇	知事			
府縣道名古屋瀨戸線道路占用繼續願ノ件	第四八號	昭和二―四―四	知事			

◎認可及許可令左ノ通リ

内務省愛衛第一九號

昭和五年二月二十二日付稟請水道布設ノ件認可ス

昭和五年九月十日

愛知縣瀨戸市

内務大臣　安達謙藏

記

一、堰堤ノ形狀ニ就テハ地震力浮力及ヒ堆砂等ヲ併セ考慮ノ上決定スルコト尚貯水池ノ容量ニ就テモ充分研究ノ上可及的萬全ヲ期スルコト

二、配水桝ニハ送水量ノ計量裝置ヲ設クルコト

三、濾過池ハ附屬調整井ヲ始メ鐵筋工法及ビ防水方法ニ就テモ尚研究ノ餘地アリ再調ノコト

四、配水池ハ滿水面上ノ餘裕過大ノ嫌アリ一方濾過池水位トノ差少ナキニ失シ濾過能力或ハ配水池貯水能力ヲ充分發揮シ得サルヤニ認メラル其他防水方法導流壁ノ構造等ニ於テモ併セ再調ノコト

内務省愛地第二五號

愛知縣瀨戸市

昭和五年二月二十二日稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和五年九月十日

内務大臣　安達謙藏

大藏大臣　井上準之助

記

一、借入時期　昭和五年度金拾九萬圓、昭和六年度金貳拾五萬圓、昭和七年度金貳拾五萬圓、但借入時期ハ工事ノ都合又ハ經濟界ノ狀況ニ依リ總額ノ異動ヲ來サヽル範圍ニ於テ各年度間ノ起債額ヲ變更シ若クハ分割借入ヲ爲スコトヲ得

一、据置期間　自昭和五年度
至昭和七年度三ケ年度

一、償還期限及償還方法中「自昭和四年度至昭和六年度」ヲ「自昭和五年度至昭和七年度」ニ「自昭和七年度至昭和二十六年度」ヲ「自昭和八年度至昭和二十七年度」ニ更ム

内務省愛土第三號

愛知縣瀨戸市

昭和六年十二月十日瀨水發第一三一號申請水道布設費國庫補助ノ件聽屆ケ金拾七萬貳千圓ヲ別記年度割ノ通交付ス

但左記ノ通心得ヘシ

昭和七年二月十三日

内務大臣　中橋德五郎

一、補助ハ其ノ市水道布設費金六拾九萬圓ニ對シ補助スルモノトス

二、工事落成シタルトキハ本大臣ニ屆出テ完了認定ヲ申請スベシ

三、工費ニ剩餘アリタルトキハ第一項補助ノ割合ニ依リ之ヲ返還セシムルコトアルベシ

工事用材料ニ剩餘アリタルトキハ時價ニ換算シ之ヲ剩餘ト看做ス

四、市ハ剩餘ヲ生シタル工費若ハ工事用材料ヲ處分セムトスルトキハ其ノ處分方法ヲ定メ本大臣ニ稟伺スベシ

五、工事豫定ノ通リ進行セサルトキ又ハ期限ヲ過キ落成ノ見込ナキモノト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ中止シ又ハ補助ヲ取消シ既ニ交付シタル補助金ハ之ヲ返還セシムルコトアルベシ

六、補助ヲ爲シタル水道設備ノ廢止又ハ變更ニ因リテ生シタル不用土地、物件

アリタルトキハ之ヲ時價ニ換算シ第一項補助ノ割合ニ依リ補助金ヲ返還セシムルコトアルベシ

別記

金壹千圓　自昭和六年度至昭和十五年度毎年度交付額
金五千圓　自昭和十六年度至昭和十八年度毎年度交付額
金七千圓　昭和十九年度交付額
金參千圓　自昭和二十年度至昭和二十一年度毎年度交付額
金壹萬圓　自昭和廿二年度至昭和廿三年度毎年度交付額
金貳萬圓　昭和二十四年度交付額
金參萬圓　昭和二十五年度交付額
金壹萬圓　昭和二十六年度交付額
金參萬圓　昭和二十七年度交付額
金五千圓　昭和二十八年度交付額
金壹萬九千圓　昭和二十九年度交付額

計金拾七萬貳千圓

內務省愛衛第七號

昭和八年一月十八日付瀨水發第十一號申請水道布設目論見書變更ノ件認可ス

昭和九年二月四日

內務大臣　男爵　山本達雄

內務省愛衛第二八號

昭和九年二月二十七日瀨水發第二八號申請水道布設目論見書中變更ノ件認可ス

昭和九年三月十七日

內務大臣　男爵　山本達雄

愛知縣瀨戸市

土第一七三號

昭和七年三月十一日

瀨戸市長殿

愛知縣土木部長

水道布設費土木費補助ニ關スル件依命通牒

昭和五年二月二十二日附申請水道布設費補助ノ件右ハ總工費金六拾九萬圓ニ對シ金九萬八千五百七拾壹圓ヲ別紙年度割ノ通補助スルコトニ内定候條土木費支辨規則並土木費補助細則及左記事項ニ依リ御取扱相成度

記

一、工事ハ昭和八年三月三十一日限リ竣功スベシ

二、補助申請書ハ毎年度四月末日迄(本年度ニ限リ昭和七年三月十五日限リ)ニ豫算決議書ヲ添付シ差出スベシ

三、補助ハ豫算ノ範圍内ニ於テ當該年度迄ノ精算額ニ對シ交付スルモノトス

四、第二年度以降ノ補助申請書ニハ前年度迄ニ交付ヲ受ケタル補助金及其ノ基本工費ヲ明カニスベシ

五、工事竣功迄ハ毎年三月三十一日ノ現況ニ依リ工程報告書(圖面添付)ヲ調製シ五月末日迄ニ提出スベシ

瀨戸市上水道補助費支出年度割表

年度	補助額
昭和六年度	四〇〇
仝七年度	二〇〇
仝八年度	九、七〇〇
仝九年度	一〇、〇〇〇
仝十年度	一〇、〇〇〇
仝十一年度	八、〇〇〇
仝十二年度	八、〇〇〇
仝十三年度	六、〇〇〇
仝十四年度	六、〇〇〇
仝十五年度	五、〇〇〇
仝十六年度	五、〇〇〇
仝十七年度	五、〇〇〇
仝十八年度	七、〇〇〇

仝	十九年度	四、〇〇〇
仝	二十年度	一、〇〇〇
仝	二十一年度	一、〇〇〇
仝	二十二年度	二、〇〇〇
仝	二十三年度	二、〇〇〇
仝	二十四年度	二、〇〇〇
仝	二十五年度	二、〇〇〇
仝	二十六年度	二、〇〇〇
仝	二十七年度	二、二七一
	計	九八、五七一

（工費六九〇、〇〇〇圓ノ七分ノ一）

庶第七一五號

昭和六年九月八日

愛知縣

瀨戸市長殿

縣有地貸付ノ件通知

四月七日附願出ニ係ル標記ノ件別紙請書案ノ條件ニ依リ承認可致候條該案ニ依ル請書本書到達ノ日ヨリ七日以內ニ御提出相成度

請書

一、借用地　場所　瀨戸市大字瀨戸字拜戶一、四三三番ノ一ノ內
仝　所　字紺屋田一、二四六番ノ一ノ內
地目　砂防地
面積　七町九畝拾歩

二、借用期間　自昭和六年九月十日至昭和十一年九月九日

三、借地料　無料

四、借用地ハ瀨戸市上水道用地トシテ使用スルノ外其ノ他ノ用途ニ充テ若ハ第三者ニ轉貸セザルモノトス

五、借用期間中ト雖御必要ノ場合ハ直ニ返地シ之ニ依リテ損害ヲ生ズルコトアルモ賠償ノ請求ヲ爲サヾルモノトス

六、借用期間滿了ノトキハ直ニ地盤ヲ原形ニ復シ物件ヲ縣有地外ニ搬出スルモ

ノトス

借用期間中ニ於テ契約解除ノ場合ハ七日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スモノトス

七、前號ノ期間ヲ經過スルモ其手續ヲ爲サヾルトキハ御縣ニ於テ代ツテ之ヲ爲シ其費用ヲ徵收シ又ハ物件ヲ隨意處分セラルヽモ異議申出デザルモノトス

八、集水區域内ニ於ケル保護防備ノ完全ヲ期スルモノトス但シ右工事ノ計畫設計並ニ施行ニ際シテハ其ノ都度縣ノ承認ヲ受ケ之ニ要スル經費ハ凡テ市ニ於テ負擔スルモノトス

九、貯水池ニハ土砂流入シ埋沒ノ虞アルヲ以テ之ガ防備工事ヲ市ノ費用ヲ以テ施工スルモノトス

十、借用期間滿了ノ際ハ借用地ヲ價格金貳千百六拾參圓六拾錢ニテ買收スルモノトス但シ右價格ハ買收ノ際地價ニ變動アリタル場合ハ修正セラルヽモ異議ナキモノトス

十一、契約成立ノ上ハ瀨戸森林事務所ニ屆出テ境界ノ指示ヲ受ケ標柱ヲ建設シ借用區域ヲ明瞭ニスルモノトス

十二、前各號ノ外縣有財產管理規定ノ條項ハ恪守スルモノトス

十三、前各號ニ違反シタルトキハ此ノ契約ヲ解除セラルヽモ異議申出デザルモノトス

右御請候也

昭和六年九月　日

愛知縣知事　香坂昌康殿

内務省愛衞第一號

愛知縣瀨戸市

昭和十年一月十二日瀨水發第五號申請水道布設工事期間延長ノ件認可ス

昭和十年二月八日

内務大臣　後藤文夫印

内務省愛衞第三號

愛知縣瀨戸市

昭和十一年一月十六日瀨水發第八號申請水道布設工事期間延長ノ件認可ス

昭和十一年二月十四日　　内務大臣　後藤文夫囘

水道計畫當時關係名譽職

就職	退職	職名	姓名
昭和二―五―一一		町長	小出釩三
大正一五―一―四	昭和四―一二―六	助役	岩田源之助
仝　一四―五―二		收入役	河村新之助
仝　一四―一〇―二五		町會議員	水野甚藏
仝		仝	市川丈太郎
仝		仝	加藤金次郎
仝		仝	加藤作助
仝		仝	加納小三郎
仝		仝	柴田茂
仝		仝	松原覺城
仝		仝	水野正一
仝		仝	青山由三郎
仝		仝	川本芳三郎
仝		仝	長江吉治
仝		仝	加藤潔
仝	昭和三―六―三死	仝	加藤五郎
仝		仝(水道委員)	加藤山名
仝		仝	小林茂
仝		仝	永井梅三郎
仝		仝	木下順作
仝		仝	加藤勳
仝		仝(水道委員)	伊藤四郎左工門
仝		仝(水道委員)	青山政五郎

仝	藤井平四郎
仝	仝(水道委員)加藤李兵衞
仝	仝(水道委員)藤井源三郎
仝	加藤鉄之助
仝	鈴木舜二
仝	村上武彦
仝	加藤猛
仝	仝(水道委員)水野憲吾
仝	大脇信晴
仝	松原正鏡

昭和二―二―二二死

起工式當時關係名譽職（昭和六―一二―九）

姓名	職名	就職	辭職
小出釰三	市長	昭和四―一二―一	
樋上佐吉	助役	仝 五―五―一	
河村新之助	收入役	仝 五―五―二	
松原明道	市會議員 水道委員	仝 五―一〇―二四	
水野憲吾	仝(市會議長)	仝	
櫻井源之助		仝	
加藤久吉		仝	
加藤周吾		仝	
加藤鐵之助		仝	
中村銛一		仝	
川本芳三郎	市會議員	仝	
川本賢次郎		仝	
村上武彦		仝	
鈴木舜二		仝	
吉田九藏		仝	

仝	木下順作
仝	加藤庄平
仝	加藤丈一郎
仝	長江芳松
仝	加藤松次郎
仝	横山貫一
仝	野口千太郎
仝	加藤幸右衞門
仝(副議長)	小林茂
仝	早稲田柳右衞門
仝	加藤茂三郎
仝	伊藤榮次郎
仝	水野正一
仝	柴田茂
仝	稲垣賢治
仝	加藤作助
仝	高橋榮次郎

關係名譽職

就職	辭職	職名	姓名
昭和八—九—二六	仝 九—三—七	市長	稲葉俊太郎
仝 九—五—八		仝	泉崎三郎
仝 七—七—六	仝 九—二—七	助役	辻三郎
仝 九—六—二		仝	野田茂四郎
仝 九—九—三一(再)		收入役	河村新之助
仝 八—一一—五		市會議員 水道委員	加藤林之助
仝		仝	藤井喜三

昭九―五―二八(死)　仝　加藤久松
仝　仝　加藤恭平
仝　仝　吉田九藏
仝　仝　加藤章
仝　仝　鈴木舜二
仝　仝　中島源作
仝　仝　加藤萬吉
仝　仝　井上春
仝　仝　松原明道
仝　仝　(市會副議長)柴田茂
仝　仝　鈴木增太郎
仝　仝　伊藤猛
仝　仝　牧仙太郎
昭和一〇―四―五(死)　仝　水野逸太郎
仝　仝　山中喜芳
仝　仝　池田與作
仝　仝　(市會議長)水野憲吾
仝　仝　内田忠藏
仝　仝　稻垣賢治
仝　仝　久保田惣十郎
仝　仝　早稻田柳右工門
仝　仝　杉本小一郎
仝　仝　高木銀之助
仝　仝　櫻井源之助
仝　仝　加藤錠之助
仝　仝　中村銛一
仝　仝　藤井晴二
仝　仝　加藤庄平

工事關係者

就職	退職	職名	姓名
昭和五―一二―二四		顧問	北澤忠男
仝 五―九―二〇		部長技師	池田顯三郎
仝 六―九―一	昭和一〇―八―二七	工事主任技手	天野武一
仝 五―一〇―一	仝 八―三―二〇	工事主任技手	横江新三
仝 六―二―二	仝 八―八―三〇	設計主任技手	新原芳夫
仝 六―七―一一		工事主任技手	田公和夫
仝 五―一〇―一	仝 八―六―二七	庶務主任書記	大島茂郎
仝 五―九―二三		物品取扱主任書記	岩澤秀吉
仝 五―一〇―一	仝 九―五―二八	經理主任書記	山際捨松
仝 五―一〇―二五	仝 八―七―三一	技手補	西榮造
仝 五―一一―八	仝 八―三―二二	仝	小林梅次郎
仝 五―九―二七	仝 一一―四―二八	仝	渡邊忠吾
仝 六―六―二		仝	廣瀨宇宙治
仝 六―五―七	仝 八―七―三一	書記補	奥本米數
仝 七―六―二〇	仝 八―二―二三	仝	渡邊夏男
仝 六―五―六		仝	尾崎鑽三
仝 七―六―二〇		仝	後藤武
仝 五―一〇―一	仝 七―四―一八	給仕	松原忠夫
仝 六―一〇―一六	仝 九―二―九	小使	小林久太郎
仝 七―二―二五		仝	羽木秀一
仝 七―四―四	仝 八―九―三〇	仝	小島スギ
仝 九―三―九		仝	與語幸春
仝 六―九―二六		鐵工長	岡野彌助
仝 六―九―二六		鐵工	岡野新次郎
仝 七―二―一九		仝	青木三次郎

仝	六―一二―一七	仝―一〇―六―一三	工夫長	平尾勇藏
仝	六―一一―二八		工夫指方	繁市
仝	七―四―五		仝	末廣甚平
仝	七―三―一	仝 八―一二―二八	仝	河合孫右衞門
仝	七―三―五	仝 一一―二―二九	仝	吉村行夫
仝	七―六―一五	仝 八―四―三〇	仝	細江作一
仝	七―七―二八	仝 八―三―二五	臨時職工	和田芳造
仝	七―七―二八	仝 八―七―一〇	仝	川島治
仝	六―一一―六		仝	森中久五郎

○用地關係

○馬ケ城流域内は縣有地ニシテ貯水池滿水面上約二十尺周圍ヲ境トシ借用シ貯水池内ノ私有田其他ヲ買收ス、溢流水路ハ縣有山林、濾過池ハ僅カノ私有田アリ他ハ縣有山林ナリ、配水池ハ私有畑等ヲ買收シ縣有山林ハ借用トス、配水線路又同樣ナリトス。

○導水線路中字白坂、字山路ノ取水場及導水樋埋設ノ部ハ買收セリ鐵管布設部ノ一部ヲ除キテハ田及其他ハ各地主ヘ埋設ノ承諾ヲ得テ買收ナサヽリシ。

○水道ニ使用セシ土地ハ九丁六反六畝餘歩ニシテ其内買收セシモノ二丁一反一畝餘歩、縣有山林ノ借用七丁二反一畝六歩、川敷ノ使用市街配水ヲ除キ千十八坪ナリトス。

用地使用表

種目	導水線路			貯水池以降					計
	取水堰	導水							
	白坂	山路	線路	水路	貯水池	溢流水路	濾過池	配水池	配水線路	
田			二―六		八―九―二四歩		一―八		四―二歩	九―七―一九歩
畑								一―五―八	二七	一―六―五歩
山林	一―八―一六	四―六―一五	二―三―二六		三			二九	一―二六	九―二―一四歩
原野								一―一〇		一―一〇歩

	雜種地	池	宅地	小計	縣借地 山林	縣借地 川數	計
	—	—	—	一-八-一六	—	七二三坪	四-二-一九
	—	—	—	四-六-一五	—	二九〇坪	五-六-一五
	—	一三	—	二-六-一五	—	五坪	二-六-二〇
	—	—	—	—	一-一-二六	—	一-一-二六
	二-〇	—	—	九-二-一六	三-〇-七-二七	—	四-〇-〇-一三
	—	—	—	—	一-三-七-二六	—	一-三-七-二六
	—	—	—	一-八	四-九-〇	—	五-〇-八
	—	—	—	一-七-一七	三-八-二三	—	五-六-一〇
	—	—	三、五一坪	八-六、五四	一-七-五-二四	—	一-八-四-〇、五四
	二-〇步	一三步	三、五一坪	二-一-一-三、五步	七-二-一-六步	一、〇一八坪	九-六-六-七、五步

◎工事使用材料及使役職工工夫人夫數量

品名	稱呼	數量	品名	稱呼	數量	品名	稱呼	數量
セメント	樽	九、五六〇	薪	貫	七、一〇〇	金網	尺	二五二
砂利	立坪	一、〇七四	木炭	〃	九二五	水位標示機	基	二
砂	〃	四五一	半角土管	個	五、六五二	壚素滅菌機	〃	一
割石	〃	八一	コンプリート	貫	七、二〇六	量水扉	組	三
切石	切	二、三〇四	プライマー	罐	三〇〇	濾過井水位計	〃	三
角材	本	三、四八九	丸鐵	本	三〇六	量水器	基	一
丸太	〃	二、二四〇	亞鉛引鐵線	貫	六六七	直鐵管內徑四五〇粍	本	一八三
松板	面坪	九〇六	洋釘	〃	三四二	仝仝三五〇粍	〃	四三〇
樫木	本	一九五	鎹	個	八、七〇〇	仝仝三〇〇粍	〃	四〇四
杉慣	枚	四〇〇	鐵筋	瓩	九六、三三三	仝仝二五〇粍	〃	四四〇
直鐵管內徑二〇〇粍	本	二二一	消火栓	個	三一八	工夫	人	三、二八三
仝仝一五〇粍	〃	一、八九五	開閉器	〃	三	大工	〃	二、四八七
仝仝一〇〇粍	〃	七、二四七	鉛	貫	一四、〇七六	石工	〃	一五五
仝仝七五粍	〃	一五五	ヤーン	〃	五〇三	コンプリート工	〃	九四
異形管	個	二、〇三四	コークス	〃	一、七〇七	左官	〃	八一
制水弁	〃	二四六	石油	升	一、六〇一	人夫	〃	三〇、九二八
排氣弁	〃	二四	鐵工	人	三、三〇六			

◎工事用器具材料納入者

輕便軌條	大阪市	日本レール株式會社
混凝土混和機	名古屋市	林甚之亟
鑄鐵直管及異形管	大阪市	高田商會
鑄鐵直管及異形管、濾過池矩形鐵扉、鐵管水壓試驗機、制水弇、	仝	可兒銀次
消化栓体、排氣弇其他	東京市	栗本鐵工所
ヴエンチユリーメーター、塩素滅菌機	仝	加納川俊一
貯水池、配水池濾過池水位標示機	仝	久保田鐵工所
消火栓口金(町野式)	東京市	久保田權四郎
鐵蓋類(制水弇、消火栓排氣弇)	仝	エル、レイポールト商會
丸鋼(濾過池、配水池鐵筋用)	仝	淺野物產株式會社
豊國セメント(一般工事用)	仝	デヨイント商會
コンプリート(濾過池、配水池用)	福岡市	片倉修一
鉛塊	神戸市	日之出商會
仝	名古屋市	神戸製鋼所
仝	神戸市	澤田商行
菱形金網(濾過池、配水池用)	東京市	浦上宗次
玄光塗料	神戸市	コンプリート商會
割石、洗砂利、洗砂	名古屋市	神戸鉛管製造所
石材(濾過池笠石)	仝	三井物產株式會社名古屋支店
木材(混凝土型枠足場用其他)	東京市	三菱商事株式會社名古屋支店
角土管(濾過池用)	東京市	山本文輔
石林(鐵蓋緣石)	神戸市	村上源七
仝(仝)	東京市	村岡商會
土管	瀨戸市	中島勇治郎
混凝土筐(消火栓、制水弇、排氣弇用)及土管	愛知縣	奥村儀兵衛
	擧母町	清谷重太郎
	瀨戸市	陶榮株式會社
	愛知縣	永井釭吉
	常滑町	鈴木茂
	瀨戸市	片山常七
	仝	川本逸之助

各器具及布設材料　大阪市　本郷商店　鈴木信治
莚　瀬戸市　伊藤貫一
コークス　〃　長縄吾一
光明丹、ペンキ　〃　魚住一愛
木炭　〃　柴田勇太郎
〃　大竹宇三郎
石油　〃　村瀬利一
鐵用具　瀬戸市　石井菊太郎
鐵材料　名古屋市　石原鉾次郎
金物類　瀬戸市　天野鍵三郎
〃　竹内清太郎
〃　〃　吉川捨次郎
諸運搬　〃　酒井すゑ
〃　矢野京一
〃　横山彦六
諸帳簿印刷備品及雜品　名古屋市　今枝增吉
諸用紙雜品　瀬戸市　加藤善八
〃　加藤勇夫
自働車供給　〃　青山忠治
工事用寫眞　〃　伊里惣市
〃　稻石勝太郎

工事請負

貯水池堰堤、濾過池敷地及池、配水池敷地及池、堀鑿送水鐵管、土工、溢流水路工事、送水線路工事、導水樋工事、導水線路工事、導水路工事、着水井工事、西谷本谷導水鐵管土工々事　瀬戸市　中島勇治郎

市街配水鐵管土工々事、本谷水源地取水工事、本谷導水鐵管土工々事、本谷取水堰用地門及柵建設工事、西谷導水鐵管土工々事　瀬戸市　川村鎌三郎

市街地配水鐵管土工々事、西谷水源地取水工事、西谷導水鐵管土工々事
導水線路排水工事、西谷取水堰用地門及柵建設工事

瀬戸市　岡田綴太郎

建築(事務所、倉庫及小屋)　瀬戸市　石川鎌吉

建築(番小屋、倉庫其他移轉、改造)　瀬戸市　岡田增太郎

◎給水開始ニ付

○市街鐵管布設ノ大略終了ヲナシタルヲ以テ淨水ナラズトモ、セメテ消火用水ナリトモ備ヘ置ク必要ヲ感シタルヲ以テ濾過池未完成ナリシ故同敷地内ノ量水井ヘ堰堤位置ヨリ假送水ヲナシ昭和八年五月四日先ツ以テ鐵管内ニ滿火セシメ鐵管布設后ノ漏水試驗ヲ行ヒタルニ成績ノ良好ナルヲ認メタリ濾過裝置ナキ濾過池ヘ一時貯水シ市街鐵管ニ連絡シ消火ノ用ニ備ヘ且ツ鐵管洗掃ヲ兼ネタリ其后濾過裝置ノ進行ニ伴ヒ漸時清水トナルニ及ヒ一部假給水ヲ開始シ給水取付工事ハ(給水申込ハ四月二十六日ヨリ受付)六月四日ヨリ開始シタリ濾過裝置ノ洗砂ニ勉メタル結果飲料水トシテ支障ナキ程度ニナリシヲ以テ其試驗ヲ愛知縣衞生課ヘ依賴セシニ飲料水トシテ支障ナキ事トナリシヲ以テ十二月十六日ヨリ初メテ給水料ヲ徵收スルコトトナレリ

○放水試驗鐵管洗掃作業中昭和八年六月十日消防組ト立會ノ上市内高低地十數ケ所ニ於テ施行セシ横尺及高サハ次ノ如シ(括弧内ハ鐵管内徑吋)

警察署裏	(12)	九十五尺	安土火見櫓	(4)	九十五尺
吉田橋南詰	(4)	百十二尺	權現堀割北	(6)	六十六尺
記念碑前	(6)	九十尺(高六十五尺)	南本町榮座南	(6)	十九尺
東上ノ切	(4)	十五尺	寶泉寺東上	(4)	十尺
洞(終端)	(4)	三十四尺	小瀨戸(終端)	(4)	三十八尺
公園下	(14)	九十五尺	陶彦神社前	(6)	六十九尺
湯ノ根(中央)	(4)	五十二尺			

○給水申込數及工事施工數　九年二月末現在ノ給水工事申込數ハ六百十一件ニシテ内工事施工濟五百三十一件未施工八十件ナリ

○給水普及其后ノ狀況ハ簡易水道四組合ノ內約五十戶ハ旣ニ市水道取付濟ナルモ未タ撤去ニナラザル關係上市ノ中樞部ニ於テ普及ノ遲々タルノ恨ミアリ市水道ニ加入シタルモノ、內ニモ休止ヲナスモノアリ昭和十一年四月末ニ於ケル狀況ハ左ノ如シ

給水戶數一、八一五戶(人口八、五七〇人)專用栓一、二〇〇戶、共用栓六一五戶(一五五基)休止一〇四基(內五〇基ハ未竣功)

○專用栓ニ於テ一人當使用水量ハ九、十年ノ兩年ニヨレバ六、七、八月ノ最大三、三立方尺三、四、五、九、十月ノ最大二、八立方尺一、二、十一、十二月ノ最小二、一立方尺ニシテ平均二、七立方尺トス、共用栓一人當最大ハ一、八立方尺最小ハ〇、八立方尺平均一、二立方尺トス專用共用合計ニテノ最大ハ二、九立方尺最小一、七立方尺平均二、三立方尺トス何レモ初年度ヨリ次年度ト遞次使用水量增加ノ傾向アリ

○工事費ハ現在迄施工セシ實例ハ加入負擔ニ屬スルモノ內徑十三ミリニテ延長三七尺給水栓壹個木柱建ニテ此經費約十四圓トス、市負擔公道ハ延長八尺ニテ接合管止水栓及筐其他工事費等ニテ約六圓六拾錢トス

給水豫算昭和九年度給水工事ニ關スル豫算ハ左ノ如シ

(給水)　昭和九年度瀨戶市水道費歲入歲出豫算

歲　入

豫算說明	科目	本年度豫算額	豫算說明	種目	本年度豫算額	附記
		円			円	
一、水道收入		四五、一八〇	一、專用共用給水料		四五、一八〇	
	一、使用料及手數料	一六、一九〇			一六、一九〇	
			二、量水器使用料		一三、〇五〇	家事用六、七八〇圓官公署營業用四、九二〇圓湯屋用七四圓共用五九三圓其他七圓
					三、一三〇	量水器貸付一、一四四個
			三、手數料		七	設計其他手數料
二、事業收入		九、六七〇	一、給水工事費		九、六七〇	(專用五七四基九、三三八圓共用二六基三三一圓其他一圓
三、繰越金		八、二五〇			八、二五〇	

歲入合計

四、雜收入	一、九三〇	一、繰越金 八、二九〇 前年度繰越金
		一、標識鑑札鍵代 一、九三〇 標識鑑札鍵交付
		二、不用品賣却代 三〇〇 工事用品其他
		三、利子 一、三五五 公金取扱利子
		四、過年度收入 二四〇 過年度收入
		五、雜入 一〇四 雜入
五、補助金	九、〇〇〇	一、國庫補助金 九、〇〇〇 本年度水道補助
		二、縣費補助金 一、〇〇〇 同
六、寄附金	一〇〇	一、寄附金 一〇〇
二、繰入金	三九、八三〇	
一、繰入金	三九、八三〇	一、公債繰入金 三九、八三〇 借入金六八七、四〇〇圓償還金五七、四四〇圓ニ對スル分 八五、〇一〇

歲出

豫算說明

豫算科目	本年度豫算額	豫算種目	本年度豫算額	附記
一、水道費	二七、三七〇 円		二七、三七〇 円	
一、給料	四、二〇〇	一、吏員給料	四、二〇〇	技手技手補三人一人平均四二圓此金一、五一二圓書記書記補七人一人平均三二圓此金二、六八八圓
二、雜給	二、三七〇		二、三七〇	
		一、旅費	二〇〇	旅費
		二、手當	四三〇	東員七人一日平均二十錢三百日此金四三〇圓
		三、傭人給	一、一八〇	職工三人四五〇圓人夫二人一八〇圓小使二人五四〇圓
		四、賞與	七四〇	賞與
三、需用費	七四〇			

款	項	豫算額	目	豫算額	説明
			一、備品費	五〇	備品及修繕費
			二、消耗品費	三〇〇	諸用紙其他
			三、印刷費	一〇〇	諸印刷
			四、電話費	八〇	電話機二個其他
			五、通信運搬費	五	通信諸費
			六、賄費	七〇	吏員職工工夫宿直及賄料
			七、被服費	二〇	職工小使給仕帽子及修繕費
			八、電燈費	二〇	配水構場
			九、雜費	九五	諸雜費
	四、維持費	一、六一〇		一、六一〇	
			一、水源費	一、六一〇	濾過池砂取換洗掃共
			二、維持修繕費	一〇	諸修繕
	五、給水工事費	一七、七〇〇		一七、七〇〇	
			一、工事費	八、五七〇	（專用栓五七四基 八、三六四圓（共用栓二六基二〇二圓其他四圓
			二、公道工事費	五、〇八〇	（取付個數六〇〇基 五、〇七〇圓（雜工事一〇圓
			三、量水器工事費	三、九五〇	（取付個數六〇〇基ノ内三一三個 三、四九〇円 二八七個 取付費四五三円（雜工事七円
			四、機械器具費	一〇〇	諸器具及修繕
	六、雜支出費	五〇〇		五〇〇	
			一、雜支出費	五〇〇	給水奬勵宣傳及其他
	七、豫備費	二五〇		二五〇	
			一、豫備費	二五〇	豫備費
二、公債費		五七、四四〇		五七、四四〇	
	一、公債費	五七、四四〇		五七、四四〇	
			一、元金償還金	二三、六一三	水道借入金六八七、四〇〇圓ニ對スル年賦償還金額
			二、利子償還金	三三、八二七	同上
歳出合計		八五、〇一〇		八五、〇一〇	

歳入　金拾萬貳千貳百七圓　歳入豫算高

歳出　金拾萬貳千貳百七圓　歳出豫算高

歳入歳出差引殘金ナシ

昭和十一年度愛知縣瀨戸市水道費歳入歳出豫算

歳入

豫算 科目	豫算額	豫算說明 種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減△印減	附記
一、水道收入						
一、使用料及手數料	二八、九〇七					
		一、專用共用給水料	二三、八一〇	二六、九〇二	△八、〇二四	
		二、量水器使用料	一八、二〇九	一八、五四四	一、六六五	○專用二千五十基共用三百十四基其他一個
		三、手數料	五、六〇〇	四、六五五	九四五	○量水器貸與二千三百十
二、補助金	五、〇〇〇					
		一、國庫補助金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	○國庫補助金
		二、縣費補助金	四、〇〇〇	五、五〇〇	△一、五〇〇	○縣費補助金
三、寄附金	五〇					
		一、寄附金	五〇	五〇	—	○寄附金
四、繰越金	一					
		一、繰越金	一	一	—	
五、雜收入	四六					
		一、鍵標識鑑札代	五	五	—	○標識鑑札鍵交付代
		二、不用品拂代	五	五	—	○不用品拂代
		三、利子	一	一〇	△九	
		四、過年度收入	一〇	一〇	—	○過年度收入
		五、雜入	二五	四八〇	△四五五	○雜入
事業收入	—		—	八、六七〇	△八、六七〇	

歲出

科目	豫算額	本年度豫算額	前年度豫算額	增減△印減	附記
二、繰入金	四三、三〇〇	四三、三〇〇	三三、二〇〇	一〇、一〇〇	
一、一般會計繰入金	四三、三〇〇	四三、三〇〇	三三、二〇〇	一〇、一〇〇	○一般會計繰入金
三、市債	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	五、〇〇〇	
一、市債	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	五、〇〇〇	○給水工事費起債參萬圓
計	七〇、三〇〇	七〇、三〇〇	五九、二三一	一一、〇七六	

科目	豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減△印減	附記
一、水道費	四八、七二九		四八、七二九	二六、八九八	二一、八三一	
一、給料	六、八七六	一、吏員給料	六、八七六	四、四一〇	二、四六六	○技手、技手補四人月俸平均六拾圓此金貳千八百八拾圓 ○書記、書記補十人月俸平均參拾參圓參拾錢此金參千九百九拾六圓
二、雜給	二、三七五	一、旅費	二、三七五	二、一六六	二〇九	○旅費
		一、旅費	一〇〇	一〇〇	—	○現場監督量水器点檢共
		二、手當	一八〇	二四〇△	六〇	○他手當
		三、傭人料	一、五七三	一、四五八	一一四	○職工四人一人日額貳圓五拾錢六十日分此金六百圓
		四、賞與	五二三	三六八	一五五	○給仕小使三人月額平均貳拾七圓此金九百七拾貳圓 ○賞與
三、需要費	一、一三五		一、一三五	五七〇	五五五	
		一、備品費	一〇〇	七〇	三〇	○備品費
		二、消耗品費	二五〇	二〇〇	五〇	○諸用紙薪炭其他
		三、印刷費	一〇〇	一〇〇	—	○納額告知書其他
		四、電話費	一七〇	八五	八五	○電話料百六拾四圓 通話料六圓
		五、通信運搬費	五	五	—	○通信諸費

六、賄費	二二〇	三〇	○吏員職工、工夫賄料
七、被服費	五	八△三	○職工工夫帽子其他
八、点燈費	七五	二〇	○点燈費
九、雜費	五〇〇	五二	○雜費
四、維持費	八八〇	二四八	
一、水源費	八八〇	八一〇	○濾過池砂取換洗掃費
二、修繕費	七	七〇	
五、給水工事費	三五、六七三	八七三	○諸修繕費
一、工事費	一五、〇〇〇	一〇△三	○事用栓八百六十基壹萬參千五百貳拾參圓
二、公道工事費	九、〇三一	一七、六二〇	○共用栓百六十基千四百七拾七圓
三、量水器工事費	二、六三八	一八、〇五三	○公道千二十基七千五百五拾九圓
四、機具費	一四	四、二五〇	○幹線代用千四百六拾貳圓
六、雜支出	一、八〇〇	四、七二一	○量水器千二十個
一、雜費	一、八〇〇	六、三三〇	○諸器具修繕其他
豫備費	—	一、〇一〇	○給水奬勵宣傳費其他
二、公債費	五二、九七八	五、一〇八	
一、公債費	五二、九七八	一四六	
一、償還元金	二五、八二	一、〇一〇	
二、償還利子	二七、〇五七	七九〇	
三、諸費	一〇〇	三一三△三	
三、豫備費	五〇〇	七九〇	
一、豫備費	五〇〇	一、六五五	○既定公債償還元金貳萬五千八百貳拾圓四拾五錢
雜支出	—	五四八	○既定公債利子貳萬六千參百六圓八拾七錢
計	一〇二、二〇七	一、六五五	○昭和十一年度公債利子七百五拾圓
		二、三〇三	○諸費
		一〇〇	
		一〇〇	
		五〇〇	
		五〇〇	
		五〇〇	○豫備費
		五〇〇	
	一〇二、二〇七	一六、九四〇△一六、九四〇	
		九五、二三一	
		七、〇七六	

昭和十一年二月二十七日提出　　瀬戸市長　泉崎三郎

瀬戸市會第二十六號議案

瀬戸市起債方法並利息定率及償還方法

一、起債金額　七萬七千圓以內

二、起債ノ目的　水道給水工事費充當ノ爲

三、借入金利率　年五分以內

四、借入先　大藏省預金部簡易保險局銀行其他

五、借入ノ時期及借入方法　昭和十一年度　參萬圓以內
昭和十二年度　貳萬六千圓以內
昭和十三年度　貳萬壹千圓以內
工事又ハ其他ノ都合ニヨリ起債額ノ全部又ハ一部ヲ翌年度ニ繰越シ起債スルコトヲ得

六、据置期間　各年度借入ノ月ヨリ昭和十四年三月迄

七、償還期限　自昭和十四年度六ケ年賦別紙償還年次表ノ通
至昭和十九年度
但償還期月ハ借入先ト協定スルモノトス市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲナシ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借換ヲナスコトヲ得

八、償還財源　給水工事費償還金及水道使用料其他一般歲入

昭和十一年二月二十七日提出

瀬戸市長　泉崎三郎

償還年次表

金七萬七千圓

年度	期月	起債額	元金在高	償還元金	同利子（年五分）	計	年額
昭和十一年度	九月三月	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇		七五〇、〇〇	七五〇、〇〇	七五〇、〇〇
同十二年度	九月三月	二六、〇〇〇	三〇、〇〇〇 五六、〇〇〇		七五〇、〇〇 一、四〇〇、〇〇	七五〇、〇〇 一、四〇〇、〇〇	二、一五〇、〇〇

同十三年度	九月	二、〇〇〇	五六、〇〇〇	—	一、四〇〇、〇〇	一、四〇〇、〇〇	三、三二五、〇〇
	三月	—	七七、〇〇〇	—	一、九二五、〇〇	一、九二五、〇〇	
同十四年度	九月		七七、〇〇〇	五、五八一、五〇	一、九二五、〇〇	七、五〇六、五〇	一五、〇一三、〇〇
	三月		七一、四一八、五〇	五、七二二、〇四	一、七八五、四六	七、五〇六、五〇	
同十五年度	九月		六五、六九七、四六	五、八六四、〇七	一、六四二、四三	七、五〇六、五〇	一五、〇一三、〇〇
	三月		五九、八三三、三九	六、〇一〇、六七	一、四九五、八三	七、五〇六、五〇	
同十六年度	九月		五三、八二三、七三	六、一六〇、九四	一、三四五、五六	七、五〇六、五〇	一五、〇一三、〇〇
	三月		四七、六六一、七八	六、三二四、九六	一、一九一、五四	七、五〇六、五〇	
同十七年度	九月		四一、三四六、八二	六、四七二、八四	一、〇三三、六六	七、五〇六、五〇	一五、〇一三、〇〇
	三月		三四、八七三、九八	六、六三四、六六	八七一、八四	七、五〇六、五〇	
同十八年度	九月		二八、二三九、三三	六、八〇〇、五二	七〇五、九八	七、五〇六、五〇	一五、〇一三、〇〇
	三月		二一、四三八、八〇	六、九七〇、五四	五三五、九六	七、五〇六、五〇	
同十九年度	九月		一四、四六八、二六	七、一四四、八〇	三六一、七〇	七、五〇六、五〇	一五、〇一三、〇四
	三月		七三、三三四、四六	七、三三三、四六	一八三、〇八	七、五〇六、五四	
計		七七、〇〇〇		七七、〇〇〇、〇〇	一九、三〇三、〇四	九六、三〇三、〇四	九六、三〇三、〇四

◎給水工事關係

就職		職名	姓名
兼務		技師	池田顯三郎
兼務		書記	岩澤秀吉
兼務		仝	山際捨松
兼務		技手補	廣瀬宇宙治
昭和八—四—一七		仝	淺井昴
仝 八—八—二四		仝	水谷幹男
仝 八—四—一七		書記補	近藤史
仝 八—七—二八		仝	藤吉一雄
仝 八—一二—二〇		仝	伊藤愛二
仝 九—七—二五		仝	加藤成
仝 八—四—一七		仝	高島茂子
仝 八—七—一三		仝	澤田おやう
兼		給仕	松原忠夫
仝 八—一〇—四	九—一—六	小使	梶田よしゑ

愛知縣

◎瀬戸市水道給水條例

附同施行細則

（昭和八年二月十六日内務大藏兩大臣許可
昭和八年三月四日愛知縣知事許可
昭和八年四月九日發布）

第一章　總則

第一條　給水ハ計量ノ方法ニ依ル

第二條　給水設備ヲ分チテ左ノ三種トス

一、專用栓　一戸又ハ一ケ所ノ專用ニ供シ或ハ同一家屋内ニ居住スル二戸以上ノ給水ニ使用スルモノ

二、共用栓　二戸以上ノ共用ニ供スルモノ

三、消火栓　消火及其ノ演習ニ供スルモノ

給水設備トハ配水管ヨリ分岐シタル給水管及之ニ附屬スル給水用具ヲ謂フ

第三條　左記ノ一ニ該當スルモノハ共用栓給水ノ使用者タルコトヲ得ス

一、建坪十四坪以上ノ家屋居住者

二、所有土地ノ上又ハ他人ノ土地ノ上ニ建築シタル家屋居住者

三、前各號ノ外特ニ專用栓ニ依ルヲ相當ト認メタルモノ

前項建坪ノ算出ハ建物ノ階上階下（附屬建物ヲ含ム）ヲ通算シタル延坪數トス

第四條　共用栓ヲ使用スル資格ニ非サル者又ハ特ニ專用栓ヲ設備スルコト能ハサルトキ等ニ於テハ之ヲ特別共用トスルコトアルヘシ

第五條　給水ハ本市所定ノ量水器ニ依リ其ノ使用量ヲ査定ス但シ量水器設備ナキトキ又ハ量水器ニ異狀ヲ生シタルトキ等ノ水量ハ市長ニ於テ其ノ水量ヲ査定スルコトアルヘシ但シ共用栓ニ於テ一個ノ量水器ヲ設備シタルトキノ使用水量ハ各均等ニ使用シタルモノト看做ス

第六條　量水器ハ給水設備所有者ニ貸與シ保護筐ト共ニ保管セシム保管中亡失毀損シタルトキハ之ヲ辨償セシム但シ不可抗力ニ因ルモノハ此ノ限リニ在ラス

第七條　給水ハ晝夜不斷トス但シ變災又ハ水道ニ異狀ヲ生シ或ハ水道工事上若ハ公益上必要アリト認ムルトキハ停水又ハ制限スルコトアルヘシ結水ノ停止又ハ制限ヨリ生スル損害ニ對シテハ本市其ノ責ニ任セス

第八條　量水器、止水栓又ハ消火栓等ノ開閉ハ當該吏員ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス但シ消火又ハ其ノ演習ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第九條　本市ハ左ノ場合ニ限リ市外ニ給水スルコトアルヘシ

一、官公署、學校、工場等ニ使用セムトスルトキ

二、公益上必要アリト認メタルトキ

三、公設消火栓ヲ消火ノ爲メ使用セムトスルトキ

四、本市ニ接シ特ニ必要アリト認メタルトキ

第二章　給水設備

第十條　專用栓及共用栓ノ給水設備ハ其ノ設備ヲ爲スヘキ土地家屋所有者ノ請求ニ依リ本市ニ於テ之ヲ施行シ其ノ工費ハ請求者ノ負擔トス、增設變更修繕又ハ撤去亦同シ

第十一條　給水設備ノ位置ハ請求者ニ於テ指定スルコトヲ得、但シ其ノ位置不適當ト認ムルトキハ本市ニ於テ變更セシムルコトアルヘシ

前項ノ位置ハ第三者ノ異議アルモ本市其ノ責ニ任セス

第十二條　給水設備ノ新設、增設、變更ヲ要スル者ハ工費ノ一部トシテ金壹圓ヲ添ヘ請求スヘシ但シ官公署其ノ他前納ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限リニ在ラス

前項ノ工費ハ其ノ請求ヲ取消スコトアルモ之ヲ還付セス

第十三條　給水設備請求者工費ノ概算告知ヲ受ケタルトキハ其ノ指定期日內ニ豫納スヘシ但シ官公署、兵營、官公立學校、公共團体其ノ他之ニ準スヘキモノ又ハ至急設備ヲ要シ市長ニ於テ必要ヲ認メサルモノハ此ノ限リニ在ラス

第十四條　前條ノ豫納金ハ工事竣功後精算シ其ノ過不足ハ還付又ハ追徵ス但シ其ノ額壹圓未滿ナルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十五條　指定期限內ニ工費ヲ納付セス又ハ必要書類ヲ提出セス或ハ工事施行ニ際シ請求者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ着手スル能ハサルトキハ設備ノ請求

ヲ取消シタルモノト看做スコトアルヘシ

第十六條　給水使用者自己材料ヲ以テ設備ヲ施サムトスルトキハ市長ニ届出承認ヲ受クヘシ但シ總テ自己材料器具又ハ設備等ノ檢査ニ對シテハ市長ノ定ムル檢査手數料ヲ前納スルモノトス

第十七條　私設消火栓ヲ設置セムトスルトキハ市長ノ承認ヲ受クヘシ私設消火栓ハ消火又ハ其ノ演習ノ外使用セサルモノトス

第十八條　私設消火栓ハ火災ノ場合ニ於テ公益上ノ使用ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條　演習ノ爲メ消火栓ヲ使用セムトスル時ハ其ノ前日迄ニ届出承認ヲ受クルモノトス但シ其ノ使用時間ハ一回十五分ヲ超ヘサルモノトス

第二十條　給水設備ノ新設ニ限リ其ノ工費ヲ十二ケ月以内ノ月賦納付ヲ許可スルコトアルヘシ其ノ届出ニ付テハ連帶責任アル保證人ト請求者ト連書ヲ以テ許可ヲ願出スルモノトス但シ月賦納付額ニ對シテハ市長ニ於テ利息ヲ加算スルコトアルヘシ

第二十一條　分納ニ係ル給水設備ハ其ノ完納ニ至ル迄ハ市ニ於テ所有權ヲ留保シ請求者ニ保管セシムルモノトス從テ保管中ニ係ル給水設備ノ毀損、亡失等ニ對シテハ相當ノ辨償ヲナサシムルモノトス

第二十二條　前條月賦金ヲ所定ノ期日迄ニ納付セサルモノニ對シテハ其ノ權利ヲ抛棄シタルモノト看做シ給水設備ヲ撤去スルコトアルヘシ

第二十三條　給水設備ノ月賦皆濟前給水管給水用具等ヲ撤去、廢止セムトスルトキハ其ノ未納ニ係ル全額ヲ即納セサレハ工事ニ着手セサルモノトス

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ既納工費ハ還付セス其ノ既納工費ニシテ撤去費並ニ材料價格ノ減損及給水料其ノ他ノ未納金ヲ償フニ足ラサルトキハ之ヲ追徵ス

第二十五條　給水設備竣功後三ケ月以内ニ破損シタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ修繕スヘシ但シ不可抗力又ハ使用者ノ故意又ハ過失ニ因ルモノト認ムル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第二十六條　道路工事其ノ他ノ事由ニ依リ配水管ノ移轉ヲ要スルトキハ之ニ伴フ各戸給水設備ノ改造工事ハ所有者ノ請求ヲ待タスシテ本市ニ於テ之ヲ施行

ス

前項ノ費用ハ配水管移轉ノ必要ヲ生セシメタル者ノ負擔トス

第二十七條　給水設備所有者ニシテ本市外ニ居住スルトキハ本市在住ノ管理人及保管人ヲ定メ市長ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ然シテ管理人及保管人ノ行爲ハ其ノ給水設備所有者ノ行爲ト看做ス

第二十八條　給水設備所有者其ノ所有權ヲ賣買讓渡セムトスルトキハ當事者連署ヲ以テ市長ニ屆出ツヘシ

第二十九條　他人ノ給水管ヨリ支管ヲ分岐セムトスルトキハ本管所有者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

本管所有者ニシテ給水管ノ位置ヲ變更又ハ撤去セムトスルトキハ支管所有者ノ承諾ヲ要ス若シ支管所有者ニ於テ適當ナル手續ヲ爲サヽルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス

第三十條　給水設備所有者又ハ保管者所在不明若ハ六ケ月以上給水ヲ使用セサルトキハ給水設備ヲ撤去又ハ給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

第三十一條　給水工事施行ノ結果建造物等ノ復舊ハ給水設備請求者ニ於テ施行スルモノトス

第三章　給水

第三十二條　給水ヲ使用セムトスルモノハ市長ニ請求スヘシ共用栓給水使用者ハ組合ヲ設ケ組合員連署ヲ以テ市長ニ請求スヘシ

共用栓組合ニハ組合代表一名ヲ選ヒ市長ニ屆出ツヘシ而シテ代表者ハ共用栓使用ニ關スル一切ノ事項ヲ處辨シ其ノ組合員ノ給水使用料ヲ取纏メ納付スヘキモノトス

第三十三條　共用栓給水使用者ニハ證票及鍵ヲ交付ス使用者ハ汲水ノ際必ス之ヲ携帶スヘシ然シテ交付サレタル證票及鍵ハ組合以外ノ共用栓ニ使用スルコトヲ得ス

證票及鍵ヲ亡失毀損シ再交付ノ請求アリタルトキハ本條例所定ノ手數料ヲ徵收ス

第三十四條　給水使用者ノ門戸ニハ本市所定ノ標識ヲ掲クヘシ

第三十五條　量水器ハ使用者其ノ試驗ヲ請求スルコトヲ得

前項試驗ノ結果百分ノ五以上ノ誤差アルトキハ前回点檢以後ノ使用水量ヲ訂正スヘシ

第三十六條　給水使用者ハ給水設備ニ破損ヲ生シ若ハ給水ニ異狀ヲ生シタルトキハ速ニ市長ニ屆出ツヘシ

第三十七條　給水使用者其ノ使用ヲ休止又ハ廢止セムトスルトキハ市長ニ屆出ツヘシ

前項ノ給水使用休止期間中ハ所定ノ手數料ヲ徵收ス

第四章　使用料及手數料

第三十八條　給水使用料ハ給水設備所有者管理者又ハ保管者ヨリ左ノ區別ニ依リ徵收ス

專用栓

一、家事用ハ一ケ月使用高十二立方米突迄ヲ金七拾貳錢十二立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金六錢

二、官公署、學校、病院、會社、工場其ノ他營業用ハ一ケ月使用高十二立方米突迄ヲ金九拾六錢十二立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金八錢

三、湯屋營業用ハ一ケ月使用高百二十立方米突迄ヲ金四圓八拾錢百二十立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金四錢

四、工事、撒水、原動力其ノ他臨時用ハ一ケ月使用高十二立方米突迄ヲ金壹圓貳拾錢十二立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金拾錢

五、噴水、瀧、園地其ノ他娯樂用ハ一ケ月使用高十二立方米突迄ヲ金參圓六拾錢十二立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金參拾錢

共用栓

一、私設共用ハ一ケ月使用高六立方米突迄ヲ金貳拾四錢六立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金四錢

二、私設特別共用ハ一ケ月使用高六立方米突迄ヲ金參拾錢六立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金五錢

三、私設共用組合代表ノ使用料ハ之ヲ免除ス

四、公設共用ハ無料

休止料一ケ月金拾錢以内

消火栓ハ使用料ヲ徵收セス但シ演習用其ノ他ニ對シテハ左ノ使用料ヲ徵收ス

一、私設消火栓計量設備ナキモノニシテ演習ノ爲メ使用スルトキハ單口消火栓一個一回十五分時毎ニ金貳圓五拾錢

前項消火栓ハ單口消火栓ナルモ双口消火栓ハ二個分トス

而シテ消火栓ハ開栓中使用ノ有無ニ拘ラス之ヲ徵收ス

市外給水使用料

一、專用共用栓ハ市内給水料ノ五割增トス消火栓ヲ演習用ニ使用シタル場合ニ付亦同シ但シ特別ノ事由アリト認メタルトキハ其ノ料金ヲ減免スルコトアルヘシ

第三十九條　市設量水器ノ使用ニ對シ左ノ區別ニ依リ徵收ス

一、	徑十三ミリ	一個一ケ月	金三十錢
二、	徑十六ミリ	一個一ケ月	金三十五錢
三、	徑二十ミリ	同	金四十五錢
四、	徑二十五ミリ	同	金六十錢
五、	徑三十二ミリ	同	金九十錢
六、	徑三十八ミリ	同	金一圓三十錢
七、	徑四十四ミリ	同	金貳圓
八、	徑五十ミリ	同	金二圓五十錢
九、	徑七十五ミリ	同	金三圓五十錢
十、	徑百ミリ	同	金五圓

第四十條　量水器ハ左ノ區分ニ依リ檢查手數料ヲ徵收ス但シ試驗ノ結果百分ノ五以上ノ誤差アリタルトキハ之ヲ徵收セス

左記ニ明示ナキ徑ニ對スル量水器ノ試驗手數料ハ市長ノ定ムル所ニ依ルモノトス

一、	徑二十五ミリ以下	一個一回ニ付	金一圓五十錢
二、	徑五十ミリ以下	同	金三圓

三、徑七十五ミリ以下　同　金五　圓
四、徑百ミリ以下　同　金八　圓

給水使用者使用中ノ量水器ニ對シ商工省ノ檢査ヲ要求スルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ而シテ之等ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第四十一條　一個ノ給水栓ヲ以テ數種ノ給水目的ニ使用シタル者アルトキハ最高率ニ依リ料金ヲ算定ス

第四十二條　特別ノ手數ヲ要スル給水設備ヲ請求スル者アルトキハ一工事ニ付金一圓以上ノ設計手數料ヲ徵收ス

前項ノ手數料ハ其ノ都度市長之ヲ定ム

第四十三條　鑑札鍵及標識ヲ再度請求スルトキハ左ノ手數料ヲ徵收ス

鑑札　一個　三錢　鍵　一個　十錢
標識專用栓共用栓消火栓各一個五錢

第四十四條　給水使用料ハ每月量水器ヲ點檢シ其ノ水量ヲ算定ス點檢以後ニ屬スル分ハ次月分ニ算入ス

量水器及給水設備ニ故障アルトキハ前回點檢ノトキヨリ改修ヲ終ルマテノ使用水量ハ前回ノ割合ニ依リ日割ヲ以テ計算ス但シ第一回ノ點檢ヲ經サルモノ又ハ量水器ニ據ラサル水量ニ在リテハ市長ノ認定ニ依ルモノトス

第四十五條　給水其ノ他ノ使用料ハ每年左ノ六期ニ分チ徵收ス其ノ他隨時ノ收入ハ其ノ都度徵收ス但シ必要アリト認ムルモノハ一ケ月每ニ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　自四月至五月
第二期　自六月至七月
第三期　自八月至九月
第四期　自十月至十一月
第五期　自十二月至一月
第六期　自二月至三月

第四十六條　給水使用料ハ給水開始ノ際概算額ニ依リ一期分ヲ徵收シ爾後每期ノ初月ニ於テ其ノ期分ノ概算額ヲ徵收ス

一ケ月每ニ使用料ヲ徵收スル場合ニ在リテモ亦前項ノ例ニ據ル官公署、官公立學校、公共團体其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ市長ニ於テ必要ナシト認ムルモノハ概算額ヲ徵收セサルコトアルヘシ

第四十七條　前條使用料概算額ハ次期分使用料徴收ノ際精算シ追徴ス

第四十八條　給水使用料ニ於テ給水開始ガ其ノ月ノ十五日以前ナルトキ又ハ廢止中止カ十六日以後ナルトキハ一ケ月分ノ使用料ヲ給水開始カ其ノ月ノ十六日以後ナルトキ又ハ廢止中止カ十五日以前ナルトキハ半ケ月分ノ使用料ヲ徴收ス但シ此ノ場合ニ於テ使用水量カ基本水量ノ二分ノ一ヲ超過スルニ於テハ超過使用料ヲ加算ス

第四十九條　量水器使用料ハ前條ノ規定ヲ準用ス

第五十條　慈善又ハ公益事業ニ給水ヲ使用シ若ハ使用料納付ノ資力ナシト認ムルモノニ對シテハ使用料ヲ減免スルコトアルヘシ

第五章　違背處分

第五十一條　給水使用者ニシテ左記第一號ニ該當スルトキハ一定ノ期日内ニ完納スヘキ旨ヲ告知シ尚納付セサルトキハ其ノ完納ニ至ル迄給水ヲ停止シ第二號乃至第八號ニ該當スルトキハ一週間以内給水ヲ停止シ又ハ五圓以下ノ過料ニ處スルコトアルヘシ

一、給水設備又ハ其ノ他ノ納付金ヲ期日内ニ完納セサルトキ

二、水量認定ノ標準等ヲ僞リ又ハ成規ノ屈出ヲ怠リ若ハ虚僞ノ屈出ヲ爲シタルトキ

三、給水ヲ所定以外ノ目的ニ使用シ又ハ分與販賣若ハ濫用シタルトキ

四、共用栓ノ證票、鍵ヲ貸與シ若ハ交付外ノモノヲ使用シタルトキ

五、量水器ノ指針部ヲ開キ或ハ止水栓ヲ開閉シタルトキ

六、恣ニ給水設備ヲ爲シ又ハ給水用具ヲ改造增設變更等ヲ施シタルトキ

七、當該吏員又ハ共用栓代表者ノ與ヘタル制止若ハ注意ヲ遵守セサルトキ

八、前各號ノ外本條例ニ違背シタルトキ

第五十二條　違背處分ニ依リ給水ヲ停止シタルトキハ既納ノ使用料及其ノ他ノ納付金ハ之ヲ還付セス未納金ハ之ヲ追徴シ共用栓使用者ノ證票及鍵ハ之ヲ返納セシム

第五十三條　左記ノ各號ニ該當スルモノハ五圓以下ノ過料ニ處シ尚損害アルトキハ之ヲ賠償セシム

一、正當ノ理由ナクシテ當該吏員ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ職務執行ヲ妨ケタルト

キ

二、恣ニ消火栓、辨類、止水栓等ヲ開閉シ又ハ市ノ封緘ヲ破損シタルトキ

三、共用栓、代表者組合員ニ對シ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ組合外ノ者ニ給水ヲ使用セシメタルトキ

四、共用栓、代表者組合員ヨリ領收シタル料金ノ納付ヲ怠リタルトキ

五、共用栓、代表者其ノ組合ニ加入セムトスル者ヲ故ナク拒絶シタルトキ

第五十四條　共用栓、代表者本條例ニ依リ違背處分ヲ受ケ又ハ必要ト認ムルトキハ市長ハ期日ヲ指定シ其ノ代表者ノ交代ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ之カ交代ヲ爲サヽルトキハ其ノ組合ノ給水ヲ停止スルコトアルヘシ

第五十五條　給水使用上ニ付テハ家族雇人及同居人ノ行爲ト雖モ使用者ハ其ノ責ニ任スルモノトス

附　則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本條例施行ニ關シ必要ナル施行細則ハ市長之ヲ定ム

昭和五年一月廿八日議決上水道給水條例ハ之ヲ廢止ス

瀨戸市水道給水條例施行細則　昭和八年四月九日發布

第一條　本則ニ於テ條例ト稱スルハ愛知縣瀨戸市水道給水條例ヲ謂フ

第二條　給水使用者ノ門戸ニ揭クル標識及共用栓使用者ニ貸付スヘキ鑑札ノ形式ハ第一號第二號樣式ノ通リトス

第三條　水道吏員ハ徽章㊚ヲ佩用ス

第四條　給水裝置ノ種別及用途ノ決定ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第五條　水道ニ關スル工事調查及量水器ノ點檢ハ日出ヨリ日沒迄ノ間ニ於テ之ヲ施行ス但シ急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　給水工事ト稱スルハ給水裝置ノ新設、增設、修繕其ノ他給水裝置ノ移動、變更ニ關スル一切ノ工事ヲ謂フ

第七條　給水ノ中止トハ止水栓ニ依ル遮斷ヲ廢止トハ給水管連絡ノ切斷ヲ撤去

トハ給水裝置ノ除却ヲ爲スヲ謂フ

第八條　借家人其ノ住宅ニ又借地人工事用等ノ爲メ其ノ地内ニ給水裝置ヲ請求セムトスルトキハ前者ハ家主後者ハ地主ノ承諾ヲ要ス

第九條　給水ニ關スル請求、屆出等ニ關スル書類ハ第三號乃至第六號樣式ニ依ルル

第十條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ組合ニ加入スヘシ

一、共用栓又ハ特別共用栓ノ組合家屋ヘ新規轉居セシトキ

二、共用栓又ハ特別共用栓ノ給水範圍ニ於テ新ニ其ノ組合ニ加入セシムヘキ住居其ノ他ノ建物ヲ新築又ハ增築ヲ爲シタルトキ

第十一條　量水器ノ設置場所ハ點檢修理若ハ試驗等ニ支障ヲ生スヘキ物品ヲ堆積シ又ハ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第十二條　條例第七條ニ依ル給水ノ制限又ハ停止ハ急迫ナル場合ノ外其ノ日時區域等ヲ告知ス

第十三條　條例第十六條ニ依ル檢查手數料ハ左ノ如シ

一、水栓類	壹個ニ付	金五拾錢
二、鉛管	一條七十尺迄每ニ	金七拾錢
	七十尺ヲ超ユル十尺迄每ニ	金拾五錢
三、鐵管及同附屬具（水栓柱ニシテ水壓試驗ヲ要スルモノヲ含ム）	內徑七十粍迄壹本又ハ壹個ニ付	金七拾錢
四、仝上	內徑二百粍迄壹本又ハ壹個ニ付	金貳圓
五、消火栓	壹個ニ付	金參圓
六、制水弁	內徑二百粍迄壹個ニ付	金參圓
七、筐類	壹個ニ付	金貳拾錢
八、水栓柱（水壓試驗ヲ要セサルモノ）	壹本ニ付	金貳拾錢
九、內徑二百粍以上ノ諸具ニ對スル檢查手數料ハ別ニ之ヲ定ム		

第十四條　月賦給水設備ハ工事竣功ノ月ヨリ起算ス但シ分納許可ノ日ガ月ノ二十日以前ナルトキハ其ノ月ヨリ月ノ二十日ヲ過クルトキハ翌月ヨリ起算ス

第十五條　月賦額納入ノ割合ハ初回ニ限リ平均月賦額ノ二回分ヲ徵收ス然シテ

納入期間及利息ハ其ノ都度之ヲ定ム

第十六條　月賦給水設備證書ニ記入スル連帶保證人ハ瀨戸市內ニ土地又ハ家屋ヲ所有スル者二名ヲ要ス

第十七條　月賦給水設備ハ市財政ノ都合ニ依リ停止スルコトアルヘシ

第十八條　條例ニ於テ一個月ト稱スルハ量水器ニ依リ使用水量ヲ査定スルモノニ在リテハ量水器點檢ノ時ヨリ次ノ點檢ノ時ニ至ル期間ヲ謂フ

第十九條　給水廢止ノ場合ニ於テ所有者ヨリ給水用具ノ買上ヲ出願スルコトアルトキハ市ノ認定シタル價格ヲ以テ買收スルコトアルヘシ

第二十條　條例第三十八條第一項專用栓第一號家事用第二號官公署、學校、病院、會社、工場其ノ他營業用第四號中臨時用第五號中娛樂用ニ該當スヘキ種目左ノ如シ

一、家事用

日常炊爨用水、洗濯其ノ他生活ニ必要ナル用水

二、官公署、學校、病院、會社、工場其ノ他營業用

病院、醫院ニテ病室ノ設備アルモノ、工場、商工會議所、銀行集會所、公會堂、圖書館、幼稚園、教會、說教所、講習所、倶樂部、各種組合及團体事務所(其ノ他之ニ準スル事務所集會所ノ類ヲ含ム)、劇場竝ニ寄席旅館、寄宿又ハ下宿、牛馬宿、自動車、牛馬車、料理店、飲食店、貸座敷(待合、揚屋等ヲ含ム)、賄請負、理髪、寫眞、洗濯、牛乳搾取、養鷄屠畜、青物、生魚、鷄肉、氷小賣、製糸、製劑、製氷、製餡、酒類、味噌醬油酢釀造、漬物製造、清涼飲料水製造、菓子製造、餅製造、蒲鉾竹輪類製造、麩製造、蒟蒻製造、麺類製造、豆腐湯葉製造、織物製造、クレー製造、陶磁器及陶器原料製造、混凝土膠泥叩類製造、瓦煉瓦其ノ他土器類製造、染物及絞各種晒、練張及洗張、鍍金ノ諸業其ノ他前各業種ニ準スルモノ

三、臨時用

臨時興行ニ使用スルモノ其ノ他必要ニ依リ臨時使用スルモノ

四、娯樂用

釣魚遊戲ノ類

休止料ハ左ノ通リトシ給水關係者ヨリ徵收ス

一、條例第三十八條第一項專用栓第一號ハ　一個ニ付一ケ月　金拾錢

二、仝　上　第二號ハ　三個迄ハ一個ニ付一ケ月八錢　又四個以上ハ一個ニ付一ケ月　金六錢

三、仝　上　第三號ハ　一ケ月　金拾錢

附　則

本細則ハ愛知縣瀨戸市水道給水條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

門戸標識

栓用專

栓用共別特

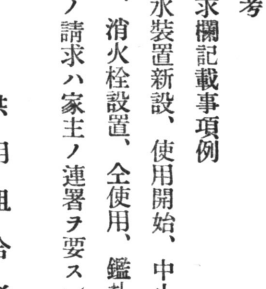
栓用共

栓火消設私

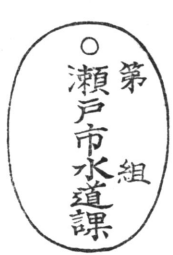
第二號樣式

共用栓鑑札

表



裏



第三號樣式

給水ニ關スル請求書

一、裝置場所　瀬戸市大字何　何　番地

一、給水使用者　何某

一、職業人口栓數　職業何々　人口何人　栓數、何個

一、請求事項　何々

昭和　年　月　日

住所

請求者　何　某㊞

瀬戸市長殿

備考

請求欄記載事項例

給水裝置新設、使用開始、中止、廢止、移轉、變更、量水器自己材料試驗、消火栓設置、仝使用、鑑札鍵再交付、申込取消、工事費月賦（借家人ノ請求ハ家主ノ連署ヲ要ス）

（別紙）

共用組合者

職業	人口	用途	建物坪數 階上	建物坪數 階下	建物坪數 計	住所	氏名 印

第四號樣式

給水ニ關スル屆書

一、裝置場所　瀨戶市大字　何　何番地

一、水栓番號　何々栓第何號

一、屆出事項　何々

昭和　年　月　日

住所

屆出人　何　某㊞

瀨戶市長殿

備考

屆出欄記載事項例

管理保管人、仝變更、共用栓組合代表(連署)、仝變更、住所變更、相續讓渡(連署)

第五號樣式

收入印紙

量水器保管證

一、量水器　內徑　何粍　何個

附屬品　何々　何個

但シ瀨戶市大字何何番地　何々栓第何號給水裝置ニ附屬ノ分

右貸附相成保管致候萬一使用中亡失毀損シタル場合ハ御指定ニ依ル代價辨償可致候也

昭和　年　月　日

住所

給水裝置所有者　何　某㊞

瀨戶市長殿

第六號樣式

收入印紙

給水設備月賦證書

一、裝置場所　瀬戸市大字　何　何番地

一、水栓番號　何々栓第　何　號

一、工費總額　金　何　圓

一、月賦期間　自昭和何年何月　何ヶ月間
　　至仝　何年何月

一、月賦額　初回金何圓
　　最終金何圓

右給水設備工費ハ前記月割ヲ以テ毎月御指定ノ期日内ニ無相違納付可致萬一右期限内ニ納付ヲ怠リタルトキハ保證人ニ於テ滯ナク納付可致此段以連署本書提出候也

昭和　年　月　日

住所
月賦請求人　何　某㊞

住所
何職

連帶保證人　何　某㊞

住所
何職

連帶保證人　何　某㊞

瀬戸市長殿

◎給水開始ニ付宣傳

此ノ宣傳ニ付テハ引込工事費ヲ市負擔又ハ輕減等種々ノ方法アルモ要スルニ財源ニ關ス然レトモ八年度初年給水豫算編成ニ付テハ其等財源ハ臨時部ヨリ壹萬六千九百四拾圓ヲ繰入其ニテ編成實施シタル次第故急速ニ普及ノ目的ヲ期スルコトヲ得サルハ遺憾ナリ以上ニヨリ已ヲ得ス八年度ニ於テハ公道最長三十尺

ヲ市費負擔トシ引込三百基ヲ十組トシ一組ニ對シ四拾圓ヲ抽籤ニヨリ交付スルコトトセリ即チ三十基ヲ一組トシ一等一本貳拾圓二等一本拾圓三等一本五圓四等壹圓五本ノ方法ニヨリ宣傳セリ九年度ニ於テモ同樣トナセリ

其他市內新聞廣告十四回及廣告散布數回ナシタリ

◆水道のお知らせ

◉上水道は六月頃通水致すことになりますが近々鐵管掃除の爲め水を通します未濾過水ですから飮んではいけません。

◉給水區域は現今鐵管布設しある處にして其の取付工事は家毎に設計致しますから只今の中に給水申込を下さる樣願ひます。

◉取付工事までの順序は市役所に備付の申込書に記名捺印し金壹圓を添へ申込下さると設計に伺ひます、設計が濟みますと工事納入を通知しますから納まつた分より取付に着手することになつて居ります。

◉工費は設計の上決定するのですが鉛管延長五間に給水柱一個所で工費約拾五・六圓の見込です、但し公道に對する施設は市で負擔します。

◉飮料出來得る迄は水料はいたゞきません。

◉詳細は給水條令並施行細則を御覽下さい。

◉給水開始早々の事でありますから係員に於て不行屆の事があつても御諒承を願ひます。

昭和八年五月

瀨戶市水道課

市役所　電話〔一四〇〇番 七〇〇番

水道　電話　一一三七番

◉水道のお知らせ

◉水道は近頃淸淨となりましたに付き各需用家のお便利を計り給水工事費の月賦並に抽籤方法を左の通り施行致しますから精々早くお申込を歡迎致します

◉給水宣傳ノ爲メ抽籤ニ據ルモノ新設給水戶數參百戶ニシテ給水工事終了ノ分ニ對シ施行ス

◉募集戶數　三百戶

◉申込期間　昭和八年十一月十五日限リトス但シ期限内ト雖モ申込ニ達スル場合ハ締切ルコトアルベシ

◉抽籤方法　壹組ヲ三十戸トシ、組數ハ壹組トス、各組毎ニ於ケル等級ハ左ノ通リニシテ工事終了ノ順序ニ依リ各組毎ニ抽籤ヲ行フモノトス

壹等　貳拾圓　壹本
貳等　拾圓　壹本
參等　五圓　壹本
四等　壹圓　五本

◉支拂方法　抽籤決定後五日以内

◉資格者　給水新設(專用、共用共)申込者トス
但シ月賦申込者モ同樣トス

◉給水宣傳ノ爲メ給水設備ノ新設工事費ニ對シ月賦分納ヲ左ノ方法ニ據リ取扱フモノトス

◉募集戸數　三百戸

◉拂込方法　六ケ月以内トス、納入額ハ平均ナラザルコトアルベシ

◉工事着手　月賦申込者ハ第一回納入ニ限リ其ニケ月分ヲ初納スルモノトス

◉申込期間　昭和八年十一月十五日限リトス
但シ期限内ト雖モ申込數ニ達シタルトキハ締切ルコトアルベシ

◉給水申込者工事費概算額ノ通知ヲ受ケタルモノニシテ市ノ指定期間内ニ納入ヲ怠リタル者ハ抽籤或ハ月賦申込ノ資格ヲ放棄シタルモノト看做シ之ヲ取消ス

◉本施工ニ付テハ水道條例ヲ遵守シ其他市ノ解釋ニ對シテハ異議ナキモノトス

◉抽籤金額ハ給水工事費ノ精算ニ充當シ過不足ニ付テハ返却又ハ追徴スルモノトス

昭和八年十月十六日

瀬戸市水道課
市役所　電話(一四〇〇番
　　(七〇〇番
水道　電話　一一三七番

◎給水宣傳新聞廣告

○水道は御家庭の消火に洗濯に御使ひ下さい申込に就ては水道課へ御聞合せ下さい。

昭和八年七月二十一日　瀬戸市水道課

水道のお知らせ

○當年七月今日迄の降雨に付ては大正十三年以來の旱天にて六月給水以來給水者各位にも水道使用上に御注意を願ひ且又水道課としても配水上に極力努め候へ共其后降雨なき爲め貯水不可能と成り從て配水不可の處も有之暫時斷水の已を得ざるやも難計候に付き豫め御承知あり度

昭和八年七月二十五日　瀬戸市水道課

水のお知らせ

○水道の水は追々きれいになりますから御家庭の消火に洗濯に洗濯にお使ひ下さい、

御申込下されば直ちに設計に伺ひます、取付に最もよい時期であります。

昭和八年八月八日　瀬戸市水道課

水道の御知らせ

○水道水は濾過水を配水致しますが當分の間はきれいになりませんが其れは日を經るに從ひ清淨になりますまだ飲んではいけません無駄水は使はぬ樣に願ひます給水の申込は今がよい時期です。

昭和八年九月十一日　瀬戸市水道課

給水の御知らせ

一、水道の水は水質試驗の結果飲料として差支へない事になりましたから御知らせします。

一、井戸水其他不良の水は衛生上に有害なるは勿論洗濯物などは奇麗になりませんから水道の水を精々御使用下さい。

一、本月十六日より使用水料を頂く事になりますから無駄水を使はない様に願ひます。

一、給水の御申込は只今の特典(月賦、抽籤)期間内に早々申込下さい。

一、簡易水道は愈々撤去の期が近づきましたから給水の申込を勧誘します。

昭和八年十二月三日　瀬戸市水道課

水道の御勧め

○衛生に家庭防火に水道を是非御設備下さい。

昭和八年十二月十二日　瀬戸市水道課

水道のお知らせ

○水道は衛生上並家庭防火に愈々必要となりました是非御家庭に御設備下さい特典の月賦、抽籤はあと募集数は弐百戸限りとなりましたから、この際至急申込下さい。

不完全なる井戸水又は簡易水道は衛生上又は家庭消火には不備でありますから御注意下さい。

昭和八年十二月十三日　瀬戸市水道課

水道斷水廣告

○日　時　一月二十五日　午前九時より午後四時まで

區　域　陶本町通り(加藤勝野商店前ヨリ電車踏切迄)印所川以西勝野商店以東(茶屋町、池田町、朝日町、北栄町、坂上町、湯の根、印所但し深川町川通りを除く)

右鐵管布設換のため斷水す。

昭和九年一月廿四日　瀬戸市水道課

○懸賞と二重特典付

水道申込〆切迫る

一等貳拾圓以下各等賞金の懸賞抽籤、並に工事費月賦拂込の特典付水道申込は

愈々本日より申込者百戸限りを以て〆切、〆切にならぬ内早くお申込をお勸めします。

昭和九年一月廿七日　瀬戸市水道課

○水道申込の時期は今です。

昭和九年參月廿八日　瀬戸市水道課

水道特典締切

○水道の抽籤月賦の特典締切切迫す此際至急申込になる御方は德用です。

昭和九年二月十八日　瀬戸市水道課

水道のお知らせ

○水道は本年度は參百基限り給水工事費の月賦並に抽籤方法を左の通り施行致します。

一、募集基數　參百基

一、申込期間　昭和九年四月ヨリ參百基に達する迄とす

一、抽籤方法　壹組を參拾基とし組數は拾組とす各組毎に於ける等級は左の通りにして工事終了の順序に依り各組毎に抽籤を行ふものとす

壹等　貳拾圓　壹本

貳等　拾圓　壹本

參等　五圓　壹本

四等　壹圓　五本

月賦分納を左の方法に據り取扱ふ

一、募集基數　參百基
一、拂込方法　六ケ月以内トス
一、工事着手　月賦申込者は第一回納入に限り其二ケ月分を初納するものとす

昭和九年四月九日　瀬戸市水道課

特に此際お勸め

○梅雨期になりましたお互に衛生上に注意いたしませう、水道の抽籤及月賦の特典申込はあと百二十口となりました。
この好機を逸せず至急申込ありたし。

昭和九年六月二十一日　瀬戸市水道課

水道のお勸め

○懸賞付抽籤並月賦の特点參百基は終了となりました今回更に參百基に對し特典付申込みを受けますから至急申込下さんせ。

昭和九年八月三十日　瀬戸市水道課

水道のお勸め

○給水申込は今
便利と衛生的な水道は奥様方の忠僕です。
抽籤及月賦の特典付
この好機を見逃さず至急申込下さい。

昭和九年十月三十日　瀬戸市水道課

お願ひ

○來る十二月二十八日、二十九日の二日間水道量水器の点檢に伺ひますから量水器の場所を取片づけの程お願ひいたします。

昭和九年十二月廿八日　瀬戸市水道課

○水道のお勸め

給水申込は今

便利と衛生的な水道を御家庭に是非御設備下さい。月賦、抽籤の特典はあとわずかとなりましたから好機を逸せず申込下さい。

昭和十年二月七日　瀬戸市水道課

○水道のお勸め

おい〳〵梅雨期になりますから衛生上特に飲料水に注意致しませう。

水道の「抽籤及月賦の特典」もありますから此の際お申込下さい。

昭和十年五月一日　瀬戸市水道課

水道のお勸め

○愈々入梅になりました悪い病氣が盛んになりますといけませんから衛生上飲料水は元より飲食物は勿論器具類は總て水道の水で洗いませう。

○給水取付工事費はお希望に依り月賦の方法がありますその他に奬勵のため抽籤を致します。

抽籤は參拾口を一組として組毎に壹等貳拾圓壹本。貳等拾圓壹本。參等五圓壹本、四等壹圓五本を提供致します。

又月賦は今后十二ケ月拂込と致します但し毎月納額は金壹圓以上とお承知願ひます。

昭和十年六月十五日　瀬戸市水道課

○便利で衛生的な水道を使ひませう。

昭和十年八月一日　瀬戸市水道課

○秋になりました、又々悪病が流行します是非御臺所に水道を備へ飲み水は水道にして用意を致しませう。

昭和十年九月廿日　瀬戸市水道課

○便利な水道を使ひませう。

昭和十年十二月廿壹日

瀬戸市水道課

昭和十一年六月十日印刷
昭和十一年六月十五日發行　〔非賣品〕

編輯兼發行者　瀨戸市臨時水道部
名古屋市東區森下町六四番地

印刷者　今枝增吉
名古屋市東區森下町六四番地

印刷所　今枝印刷所
電話東五四三九番

瀬戸市立図書館
☎0561(82)2202
11448961